

平成 27 年度

第 1 回かわさき市民アンケート

報 告 書

川 崎 市

目 次

I	調査概要	1
II	調査回答者の属性	5
1	第1回アンケートの回答者	7
III	調査結果	13
1	地球温暖化対策について	15
1-1	地球温暖化対策の意識	15
1-2	地球温暖化対策で特に重要と思う日常生活の中での取組	17
1-3	地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組についての考え	19
1-4	積極的に取り組めない理由	21
1-5	個人や家庭で行っている、または今後行いたいと思っている地球温暖化対策	23
1-6	地球温暖化による気候変動	25
1-7	極端な気象現象やその影響などについて見聞きする媒体	34
1-8	川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策	36
2	川崎市の緑の満足度について	39
2-1	市域全体の緑についての満足度	39
2-2	居住地域（区）の緑の満足度	41
2-3	ボランティア活動への参加状況	43
2-4	参加したボランティア活動の具体的内容	45
2-5	ボランティア活動に参加しない理由	47
2-6	緑化活動を活発にするために必要なこと	49
2-7	保全を希望する市内の緑	51
2-8	緑化を希望する市内の地域	53
2-9	今後取り組むことができる緑の活動	55
3	現在のお住まい周辺の住環境などについて	57
3-1	お住まい周辺の住環境の満足度	57
3-2	満足しているところ	59
3-3	不満なところ	61
3-4	良好な住環境づくりに重要だと思うこと	63
3-5	近隣での空き家の状況変化	65
3-6	空き家の存在により生じる問題	67
3-7	空き家対策に必要なこと	69
4	市民の防災意識について	71
4-1	大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組	71
4-2	防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと	73
4-3	川崎市の災害情報の入手手段	75
4-4	「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度	78
4-5	「災害用伝言ダイヤル」の体験利用	80
4-6	「災害用伝言板」の体験利用	82
IV	調査票	85

I 調査概要

1. 調査の目的

「かわさき市民アンケート」は、昭和 50 年度から毎年 1 回 1,500 人を対象として行っていた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するため、調査回数を年 2 回、各回 3,000 人の市民を対象にした調査に拡充し、名称を変更して平成 18 年度から実施することとしたものである。

本調査では、「地球温暖化対策について」「川崎市の緑の満足度について」「現在のお住まい周辺の住環境などについて」「市民の防災意識について」のテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的として実施した。

2. 調査の方法

- (1) 調査の地域 川崎市全域
- (2) 調査の対象者 川崎市在住の満 20 歳以上の男女個人
- (3) 標本の抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (4) 標本数 3,000 標本 (平成 27 年 7 月抽出)
- (5) 調査方法 郵送法 (郵便配布 - 郵送回収・はがき督促を 1 回)
- (6) 調査期間 平成 27 年 7 月 17 日 (金) ~ 8 月 7 日 (金)
- (7) 調査委託機関 株式会社 アストジェイ

3. 調査項目

<調査テーマ>	<問番号>
(1) 地球温暖化対策について	(問 1~問 8)
(2) 川崎市の緑の満足度について	(問 9~問 16)
(3) 現在のお住まい周辺の住環境などについて	(問 17~問 21)
(4) 市民の防災意識について	(問 22~問 25-2)

4. 回収状況

(1) 標本数	3,000 標本
(2) 有効回収数	1,331
(3) 有効回収率	44.4%

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数 (n) は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 回答数が 30 未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

6. 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数 (n)、②回答の比率 (p) によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団数 (川崎市の20歳以上人口)
n=比率算出の基数 (回答者数)
p=回答の比率 (%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようなになる。

回答比率(p) 基数 (n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,400	±2.27%	±3.02%	±3.46%	±3.70%	±3.78%
1,331	±2.33%	±3.10%	±3.55%	±3.80%	±3.88%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注/この表の見方

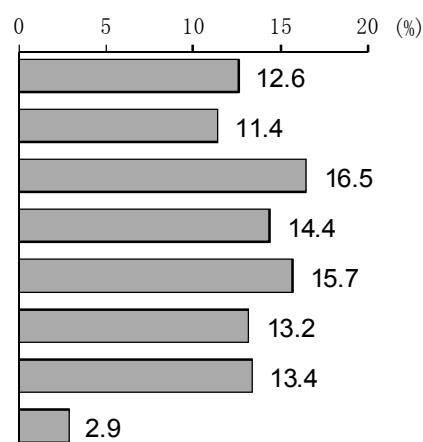
標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答者数が1,400人であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.70%以内(56.30~63.70%)である」とみることができる。

II 調査回答者の属性

1 第1回アンケートの回答者

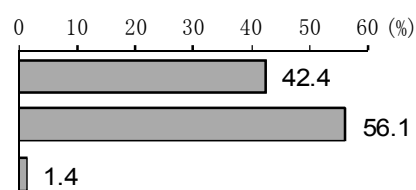
1 居住区

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	168	12.6
2 幸区	152	11.4
3 中原区	219	16.5
4 高津区	191	14.4
5 宮前区	209	15.7
6 多摩区	176	13.2
7 麻生区	178	13.4
(無回答)	38	2.9
全 体	1,331	100.0



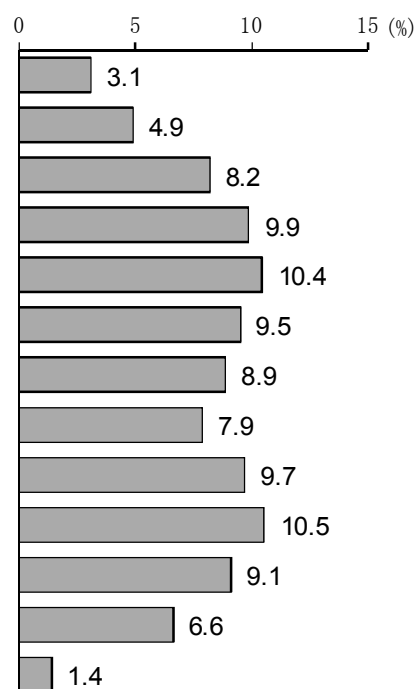
2 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	565	42.4
2 女性	747	56.1
(無回答)	19	1.4
全 体	1,331	100.0



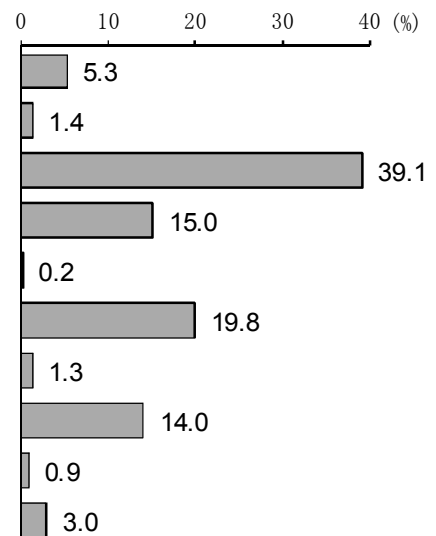
3 年齢

	基数(人)	構成比(%)
1 20～24歳	41	3.1
2 25～29歳	65	4.9
3 30～34歳	109	8.2
4 35～39歳	132	9.9
5 40～44歳	138	10.4
6 45～49歳	126	9.5
7 50～54歳	119	8.9
8 55～59歳	105	7.9
9 60～64歳	129	9.7
10 65～69歳	140	10.5
11 70～74歳	121	9.1
12 75歳以上	88	6.6
(無回答)	18	1.4
全 体	1,331	100.0



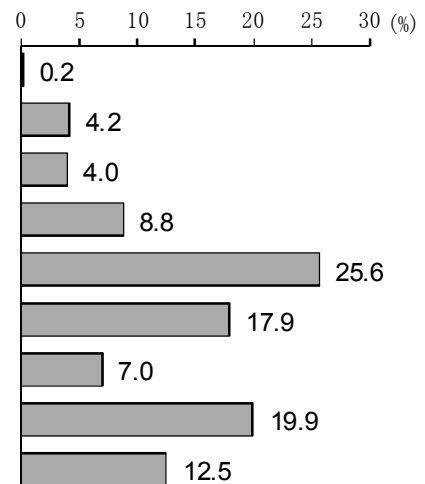
4 職業

	基数(人)	構成比(%)
1 自営業主	71	5.3
2 家族従業(家業手伝い)	19	1.4
3 勤め(全日)	521	39.1
4 勤め(パートタイム)	199	15.0
5 内職	2	0.2
6 主婦・主夫(家事専業)	263	19.8
7 学生	17	1.3
8 無職(収入が年金のみの方を含む)	187	14.0
9 その他	12	0.9
(無回答)	40	3.0
全 体	1,331	100.0



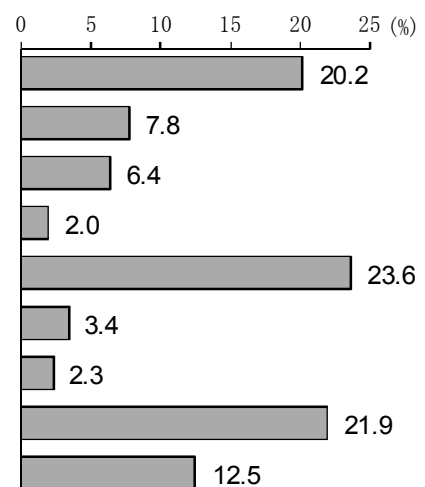
5 具体的な職業内容

	基数(人)	構成比(%)	
家 自 営 主 ・ 家 族 従 業 者	1 農林漁業	2	0.2
	2 商工サービス業	34	4.2
	3 自由業	32	4.0
パ ー ト 勤 め (全 日 ・ タ イ ム)	4 経営・管理職	71	8.8
	5 専門・技術職	207	25.6
	6 事務職	145	17.9
	7 技能・労務職	57	7.0
	8 販売・サービス職	161	19.9
(無回答)	101	12.5	
全 体	810	100.0	



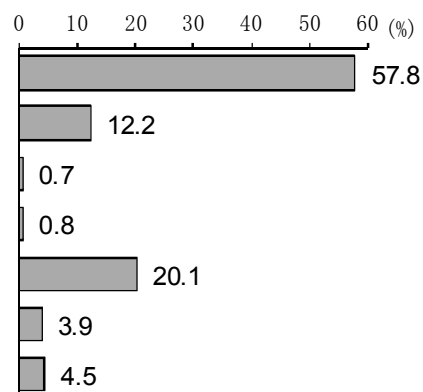
6 通勤先・通学先

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎市内(お住まいと同じ区)	269	20.2
2 川崎市内(お住まいと別の区)	104	7.8
3 横浜市	85	6.4
4 神奈川県内(川崎市・横浜市以外)	26	2.0
5 東京都(23区内)	314	23.6
6 東京都(23区以外)	45	3.4
7 その他	30	2.3
8 通勤・通学していない	291	21.9
(無回答)	167	12.5
全 体	1,331	100.0



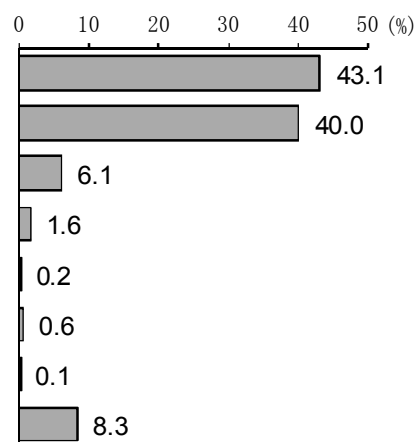
7 最寄り駅までの交通手段

	基数(人)	構成比(%)
1 徒歩	769	57.8
2 自転車	163	12.2
3 原付	9	0.7
4 バイク(原付を含まない)	10	0.8
5 バス	268	20.1
6 自動車(送迎含む)	52	3.9
(無回答)	60	4.5
全 体	1,331	100.0



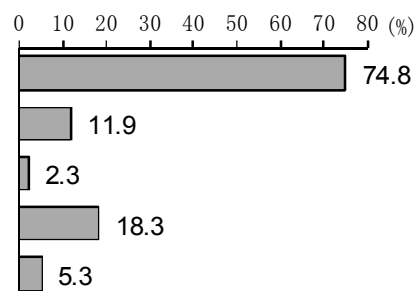
8 最寄り駅までの所要時間

	基数(人)	構成比(%)
1 10分未満	574	43.1
2 10分以上20分未満	532	40.0
3 20分以上30分未満	81	6.1
4 30分以上40分未満	21	1.6
5 40分以上50分未満	3	0.2
6 50分以上1時間未満	8	0.6
7 1時間以上	1	0.1
(無回答)	111	8.3
全 体	1,331	100.0



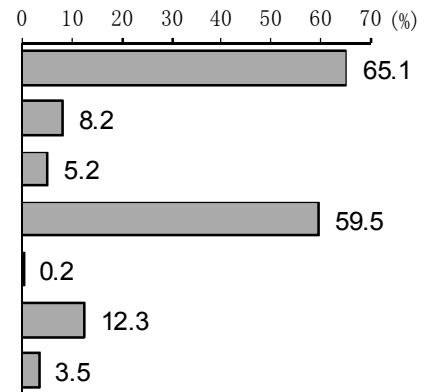
9 所持している運転免許(複数回答)

	基数(人)	構成比(%)
1 自動車	996	74.8
2 自動二輪	159	11.9
3 原付のみ	31	2.3
4 運転免許を持っていない	243	18.3
(無回答)	70	5.3
全 体	1,331	100.0



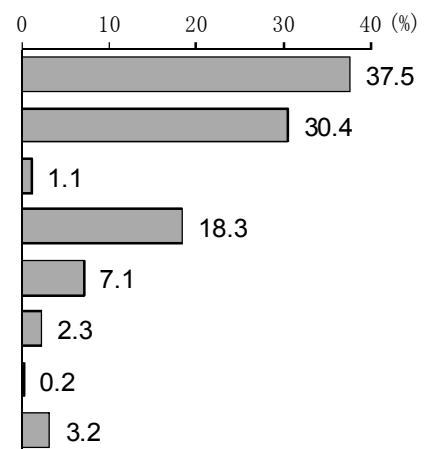
10 世帯で所持している交通用具（複数回答）

	基数(人)	構成比(%)
1 自転車	866	65.1
2 原付	109	8.2
3 バイク（原付を含まない）	69	5.2
4 自動車	792	59.5
5 その他	2	0.2
6 いずれも持っていない	164	12.3
（無回答）	46	3.5
全 体	1,331	100.0



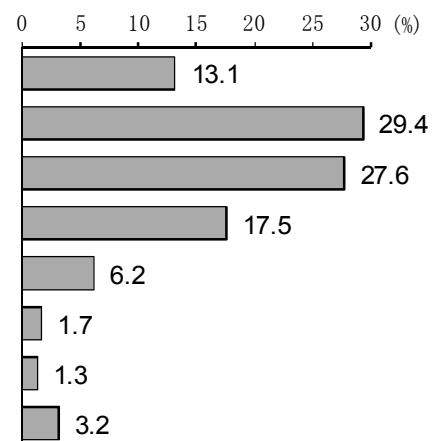
11 居住形態

	基数(人)	構成比(%)
1 持ち家（一戸建）	499	37.5
2 持ち家（マンション・集合住宅等）	404	30.4
3 借家（一戸建）	15	1.1
4 借家（マンション・集合住宅等、公営住宅）	243	18.3
5 借家（民間アパート、間借、下宿）	95	7.1
6 社宅・寮・公務員住宅	30	2.3
7 その他	3	0.2
（無回答）	42	3.2
全 体	1,331	100.0



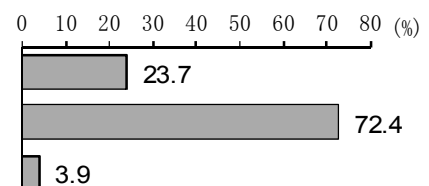
12 家族構成

	基数(人)	構成比(%)
1 1人	175	13.1
2 2人	391	29.4
3 3人	367	27.6
4 4人	233	17.5
5 5人	83	6.2
6 6人	23	1.7
7 7人以上	17	1.3
（無回答）	42	3.2
全 体	1,331	100.0



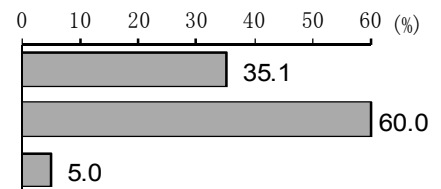
13 中学生以下の子どもの有無

	基数(人)	構成比(%)
1 いる	316	23.7
2 いない	963	72.4
（無回答）	52	3.9
全 体	1,331	100.0



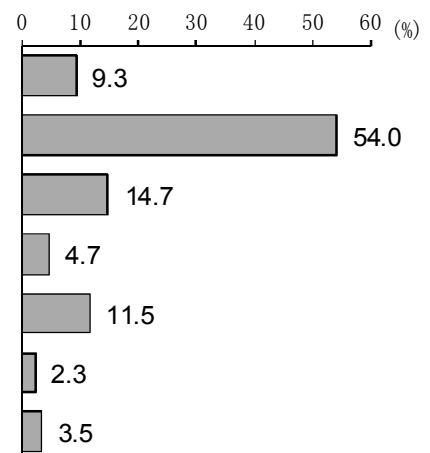
14 65歳以上の方との同居

	基数(人)	構成比(%)
1 いる	467	35.1
2 いない	798	60.0
(無回答)	66	5.0
全 体	1,331	100.0



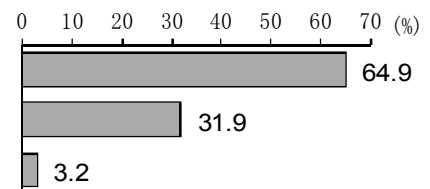
15 地域環境

	基数(人)	構成比(%)
1 オフィスビル、商業ビル、 商店などがある地域	124	9.3
2 古くからの住宅が中心と なっている地域	719	54.0
3 新しく開発された住宅地域	195	14.7
4 住宅と工場が混在している地域	63	4.7
5 まわりに田畑や山林などの 緑が残されている地域	153	11.5
6 その他	30	2.3
(無回答)	47	3.5
全 体	1,331	100.0



16 町内会への加入状況

	基数(人)	構成比(%)
1 加入している	864	64.9
2 加入していない	424	31.9
(無回答)	43	3.2
全 体	1,331	100.0



Ⅲ 調査結果

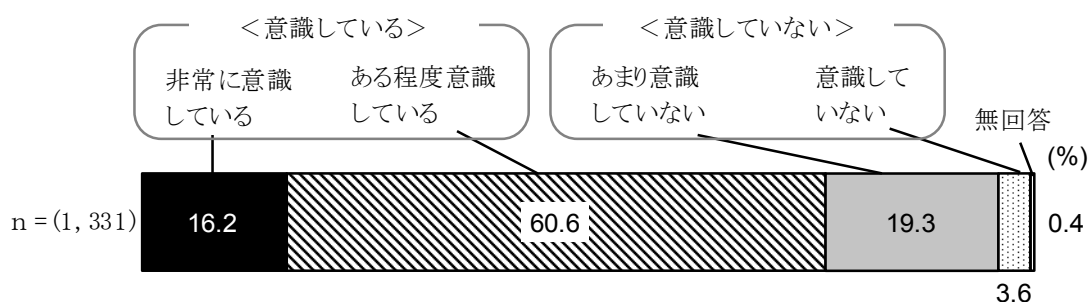
1 地球温暖化対策について

1-1 地球温暖化対策の意識

◎<意識している>が76.8%

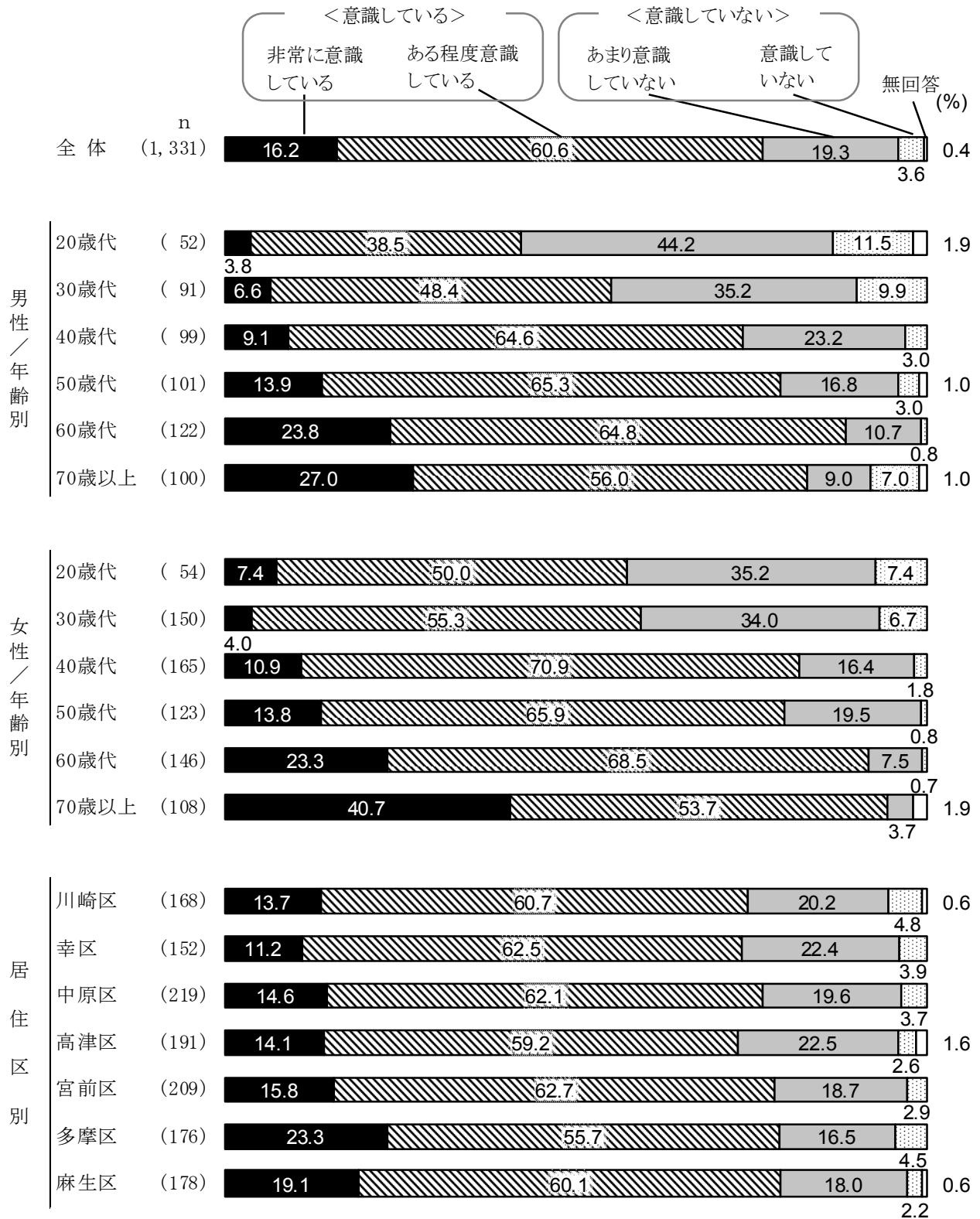
問1 日常生活の中で、あなたは地球温暖化対策について意識していますか。(〇は1つだけ)

図表 1-1 地球温暖化対策の意識



地球温暖化対策の意識は、「非常に意識している」(16.2%)、「ある程度意識している」(60.6%)を合わせた<意識している>が76.8%と高い。

図表 1-2 地球温暖化対策の意識（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、男女ともに年齢が高くなるにつれて、＜意識している＞が高くなる傾向にある。男性は60歳代で88.6%、女性は70歳以上で94.4%と＜意識している＞が最も高い。

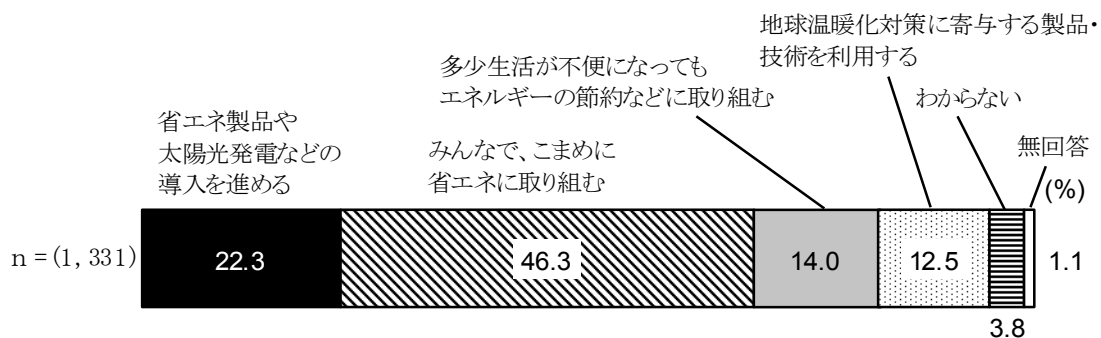
居住区別では、多摩区で「非常に意識している」(23.3%)が全体平均(16.2%)より7.1ポイント高い。

1-2 地球温暖化対策で特に重要と思う日常生活の中での取組

◎「みんなで、こまめに省エネに取り組む」が46.3%

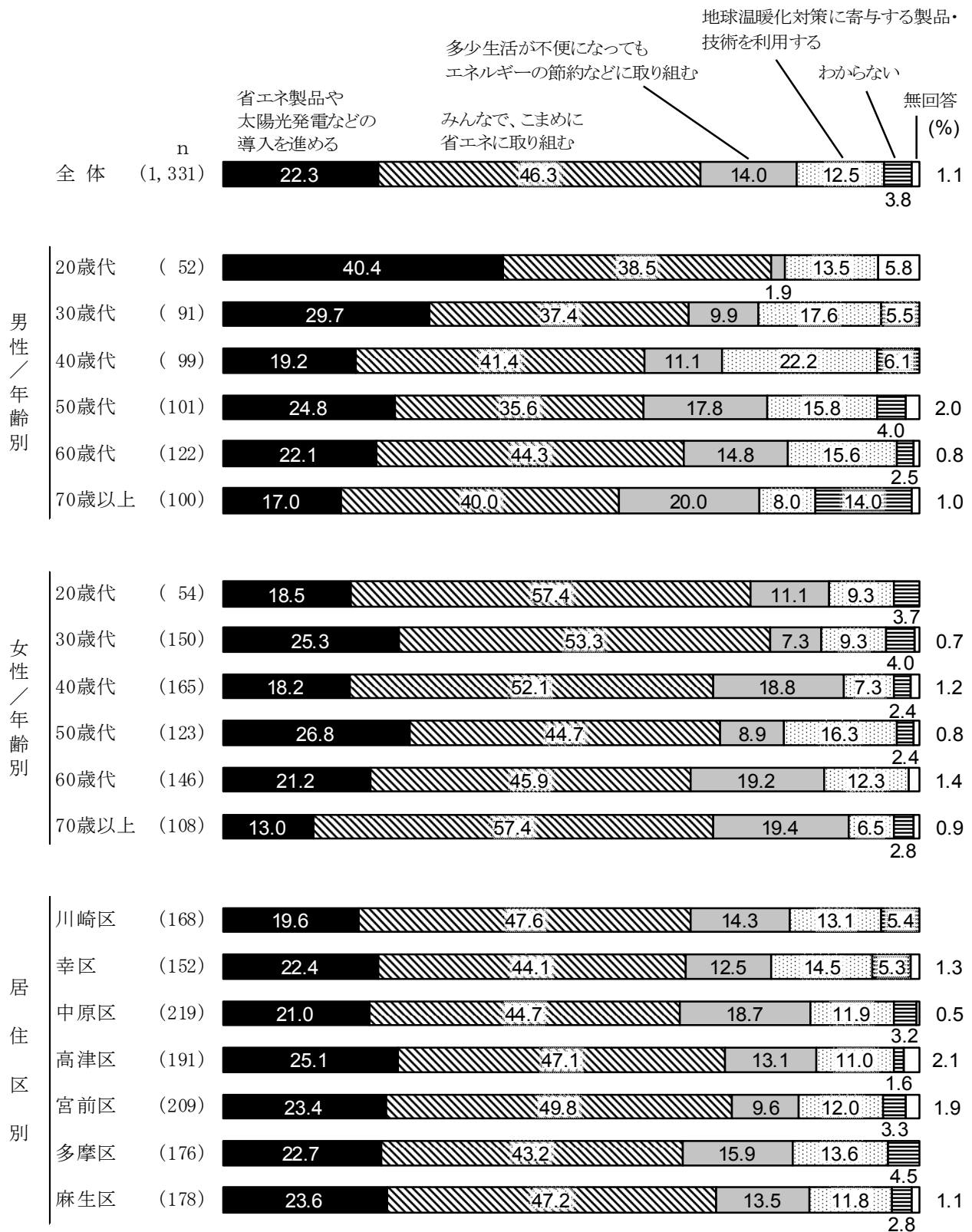
問2 地球温暖化対策のために、日常生活の中でどのような取組を行えばよいか、あなたが特に重要と思うものを選んでください。(〇は1つだけ)

図表 1-3 地球温暖化対策で特に重要と思う日常生活の中での取組



地球温暖化対策で特に重要と思う日常生活の中での取組を見ると、「みんなで、こまめに省エネに取り組む」(46.3%)、「省エネ製品や太陽光発電などの導入を進める」(22.3%)、「多少生活が不便になってもエネルギーの節約などに取り組む」(14.0%)、「地球温暖化対策に寄与する製品・技術を利用する」(12.5%)の順となっている。

図表 1-4 地球温暖化対策で特に重要と思う日常生活の中での取組（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「省エネ製品や太陽光発電などの導入を進める」は、男性の20歳代（40.4%）で最も高い。「みんなで、こまめに省エネに取り組む」は、女性の20歳代（57.4%）、70歳以上（57.4%）で最も高く、5割を超えている。

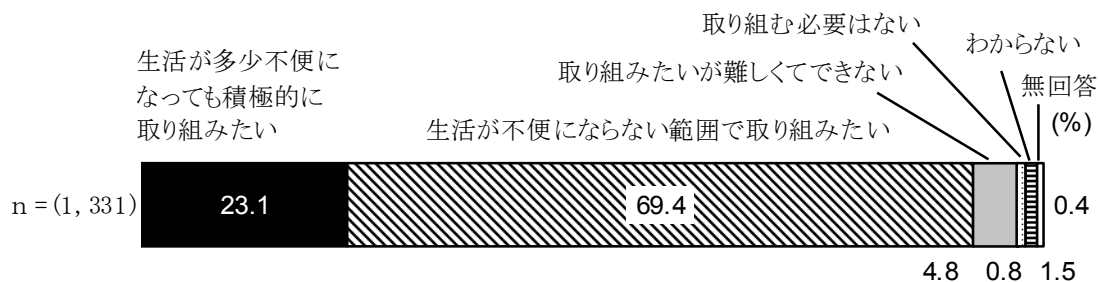
居住区別では、「みんなで、こまめに省エネに取り組む」が全ての地区で最も高く、4割を超えている。次いで、「省エネ製品や太陽光発電などの導入を進める」が2割前後となっている。

1-3 地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組についての考え

◎「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が69.4%

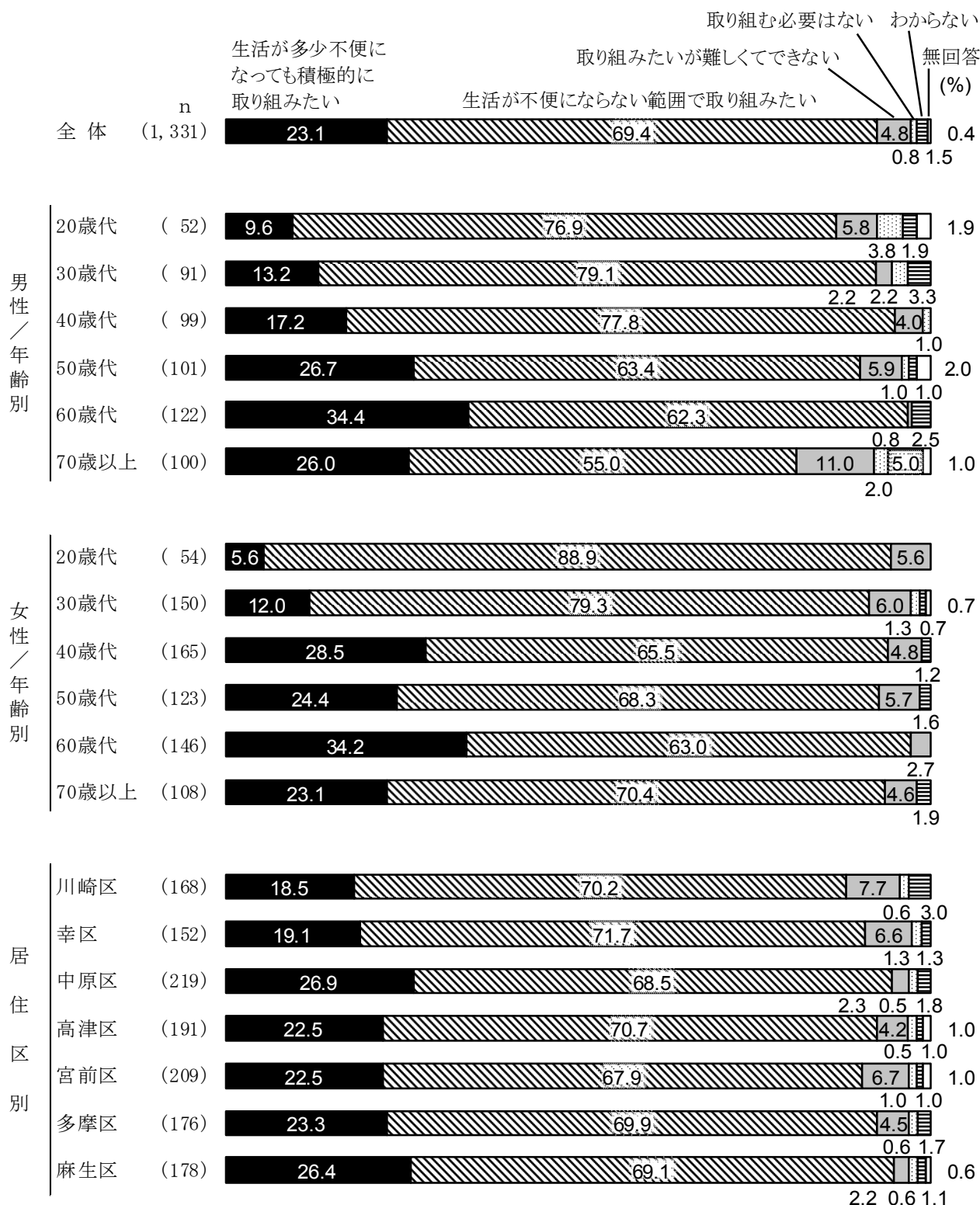
問3 地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。(○は1つだけ)

図表1-5 地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組についての考え



地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組についての考えは、「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」が69.4%で最も高い。次いで、「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」(23.1%)、「取り組む必要はない」(4.8%)の順となっている。

図表 1-6 地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組についての考え
(性/年齢別・居住区別)



性/年齢別では、「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」は、年齢が低くなるほど割合が高くなる傾向があり、20歳代女性（88.9%）では9割近くを占めている。「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」は、60歳代で最も割合が高く、男性が34.4%、女性が34.2%と、ともに3割を超えている。

居住区別では、「生活が不便にならない範囲で取り組みたい」は幸区（71.7%）が最も高い。「生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい」は、中原区（26.9%）、麻生区（26.4%）の順となっている。

1-4 積極的に取り組めない理由

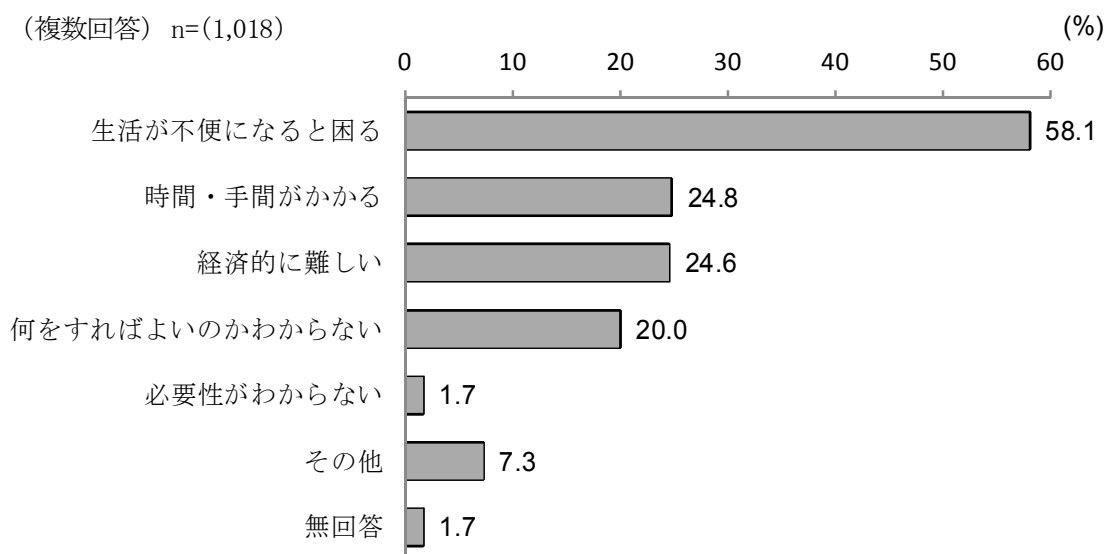
◎「生活が不便になると困る」が58.1%

問4 問3で「2 生活が不便にならない範囲で取り組みたい」「3 取り組みたいが難しくてできない」「4 取り組む必要はない」「5 わからない」のいずれかに回答した方にうかがいます。

積極的に取り組めない（取り組まない、わからない）理由は何ですか。

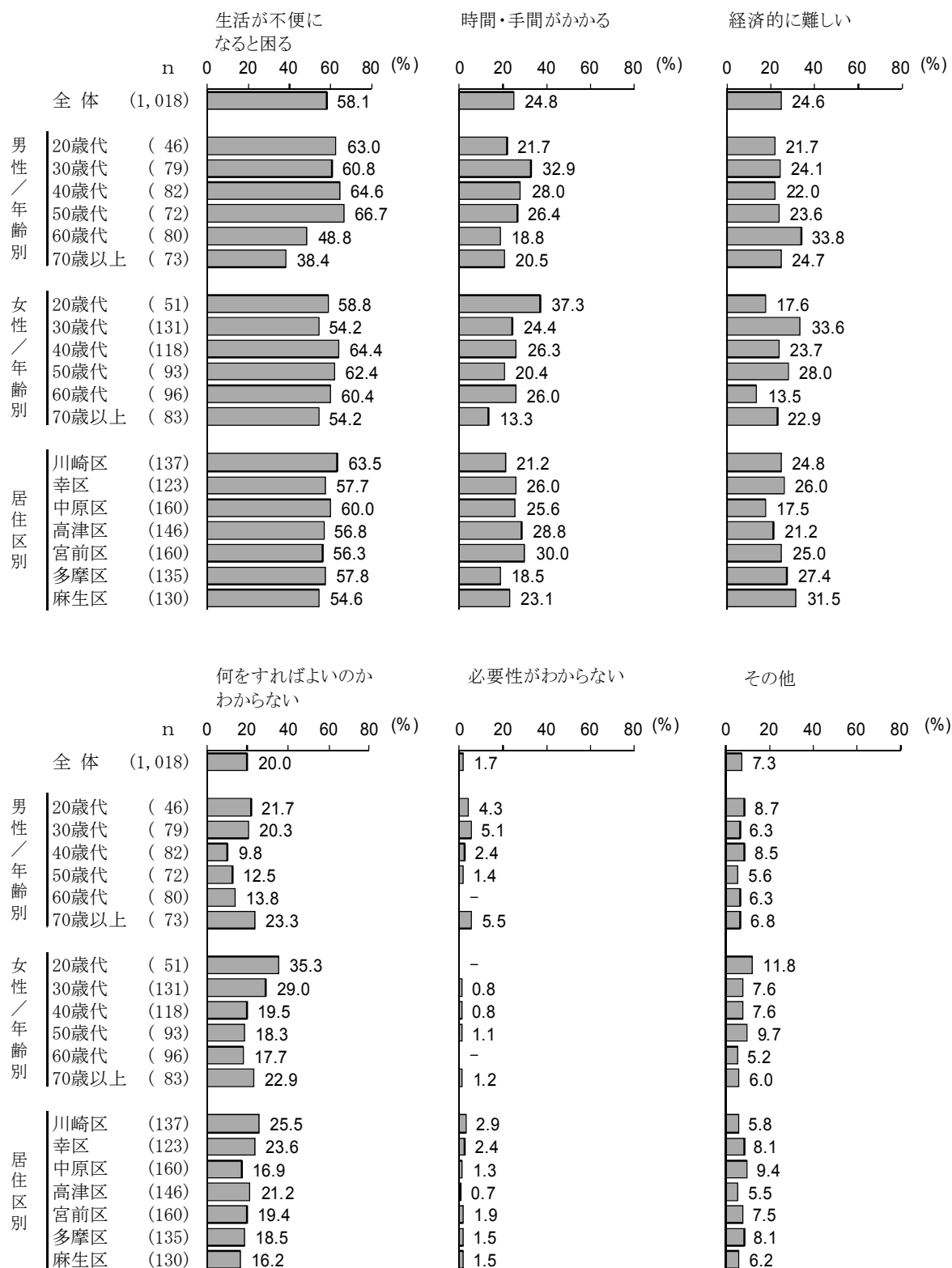
（あてはまるもの全てに○）

図表 1-7 積極的に取り組めない理由



積極的に取り組めない（取り組まない、わからない）理由は「生活が不便になると困る」（58.1%）が最も高く、次いで、「時間・手間がかかる」（24.8%）、「経済的に難しい」（24.6%）の順となっている。

図表1-8 積極的に取り組めない理由（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「生活が不便になると困る」は、男性は50歳代以下の年代で6割以上、女性はすべての年代で5割以上と高い。「時間・手間がかかる」は、男性では30歳代（32.9%）、女性では20歳代（37.3%）が最も高い。「経済的に難しい」は、男性で60歳代（33.8%）、女性は30歳代（33.6%）が最も高い。

居住区別では、「生活が不便になると困る」は、全居住区で5割を超え、特に川崎区では63.5%と6割を超えている。「時間・手間がかかる」は、宮前区（30.0%）、高津区（28.8%）で高い。

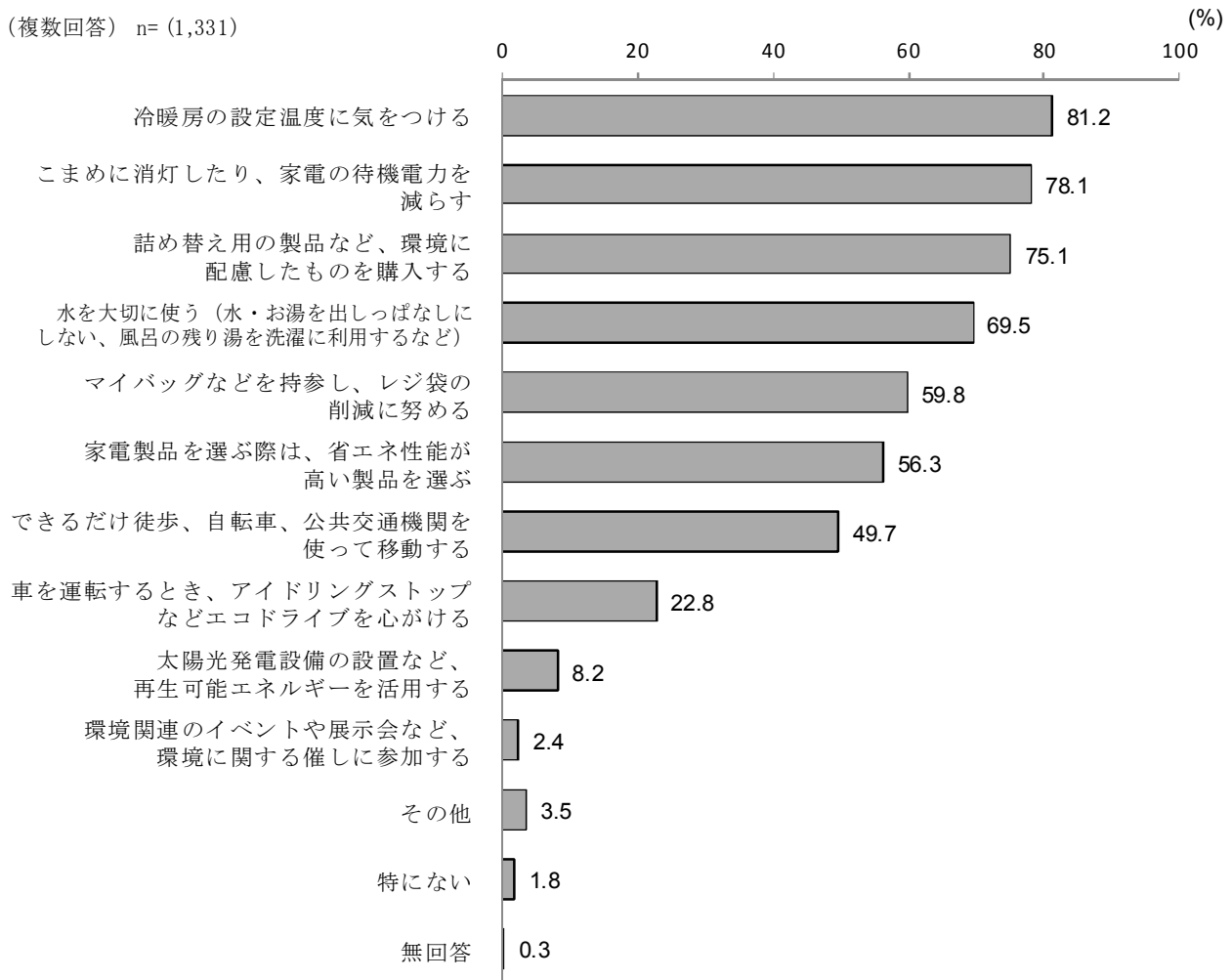
1-5 個人や家庭で行っている、または今後行いたいと思っている地球温暖化対策

◎「冷暖房の設定温度に気をつける」が81.2%

問5 個人や家庭でできる地球温暖化対策として、あなたは現在どのようなことを行っていますか。また、今後はどのようなことを行いたいと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

図表 1-9 個人や家庭で行っている、または今後行いたいと思っている地球温暖化対策

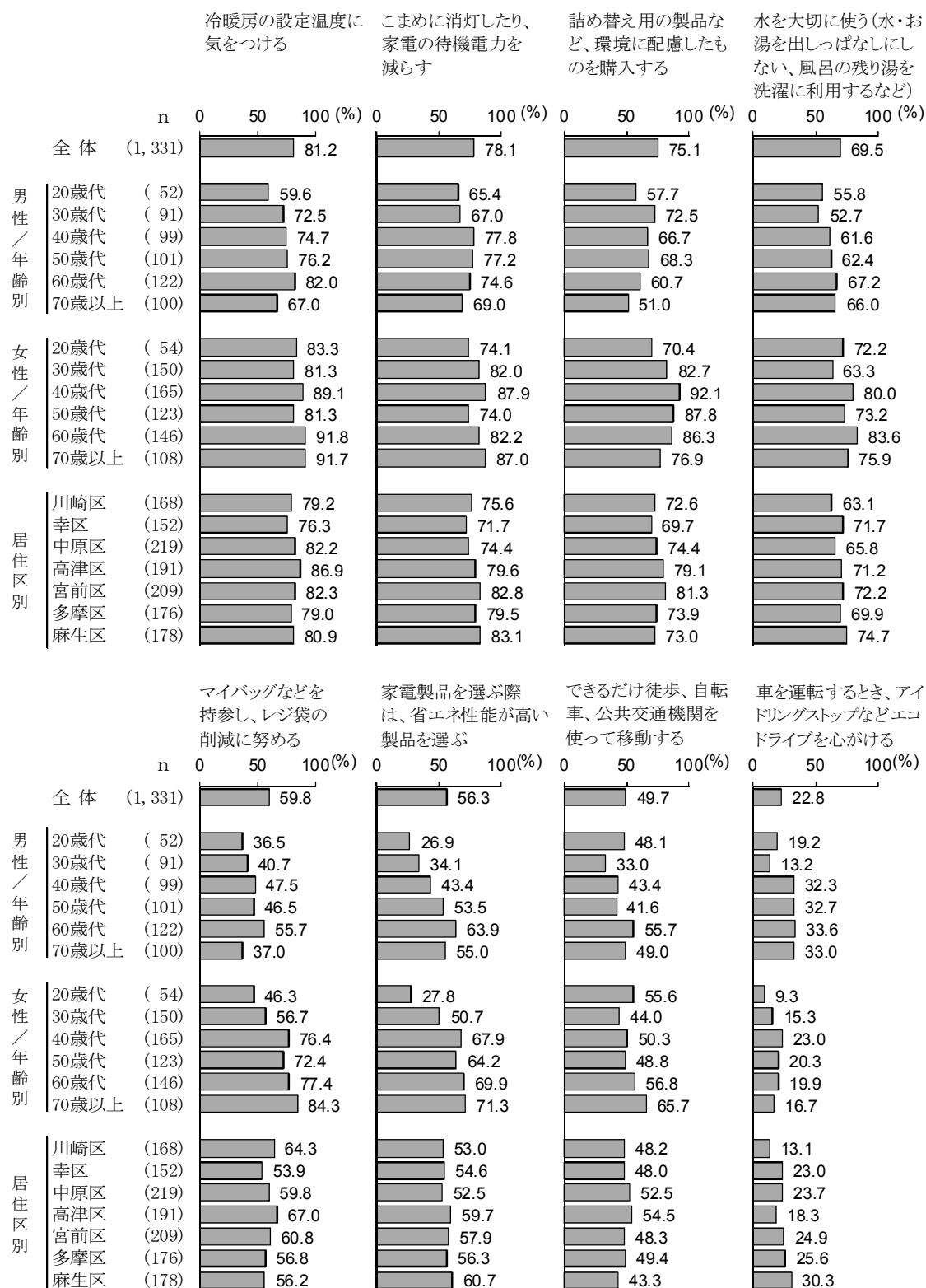
(複数回答) n = (1,331)



個人や家庭でできる地球温暖化対策として、現在行っている、または今後行いたいと思っていることは、割合の高いものから、「冷暖房の設定温度に気をつける」(81.2%)、「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす」(78.1%)、「詰め替え用の製品など、環境に配慮したものを購入する」(75.1%)の順となっている。

図表 1-10 個人や家庭で行っている、または今後行いたいと思っている地球温暖化対策

(性/年齢別・居住区別 上位 8 項目)



性/年齢別では、「マイバックなどを持参し、レジ袋の削減に努める」、「家電製品を選ぶ際は、省エネ性能が高い製品を選ぶ」は、男女ともに年齢が上がるほど割合は高くなる傾向にある。「車を運転するとき、アイドリングストップなどエコドライブを心がける」については、30歳代を除いて、女性より男性の割合が高い。また、男性の40歳代から70歳以上では3割を超えている。

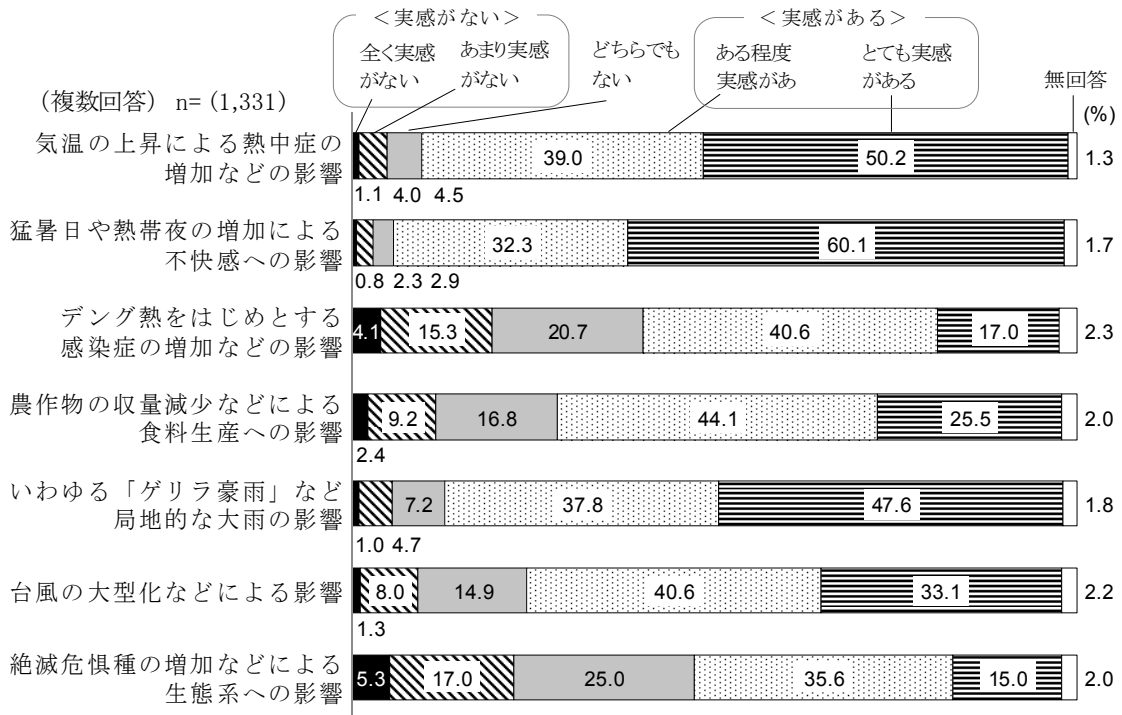
居住区別では、「冷暖房の設定温度に気をつける」、「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす」は、全ての地区で7割以上と高い。

1-6 地球温暖化による気候変動

◎「猛暑日や熱帯夜の増加による不快感への影響」を9割以上の人を実感。

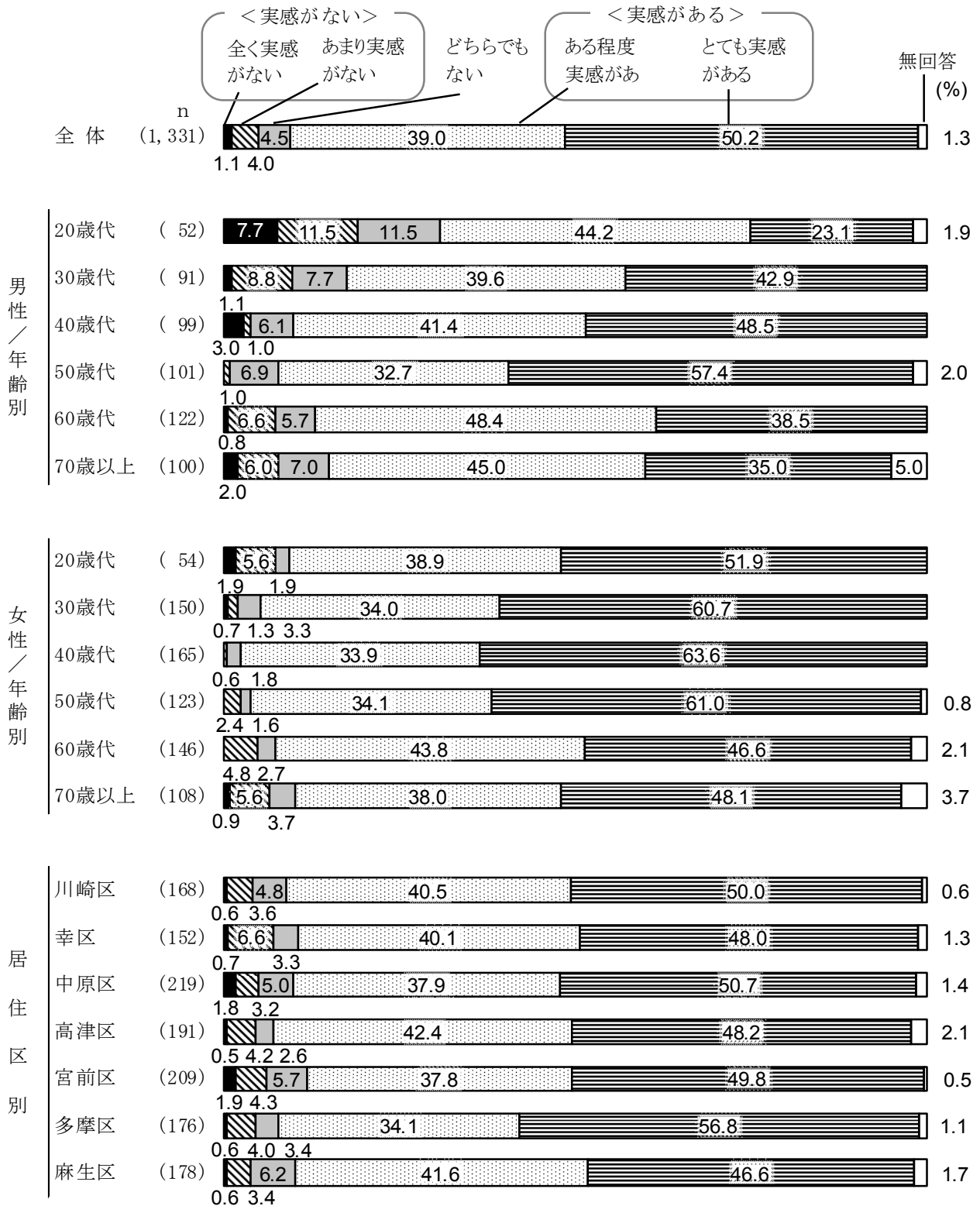
問6 地球温暖化による気候変動（猛暑や局地的大雨などの、極端な気象現象の増加など）についてうかがいます。あなたは、次の気候変動による影響について、どのように感じていますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

図表1-11 地球温暖化による気候変動



地球温暖化による気候変動の影響について、＜実感がある＞を選んだ人は、全項目で5割を超えている。中でも、「猛暑日や熱帯夜の増加による不快感への影響」(92.4%)が9割を超えて、最も高い。次いで、「気温の上昇による熱中症の増加などの影響」(89.2%)、「いわゆる「ゲリラ豪雨」など局地的な大雨の影響」(85.4%)の順となっている。

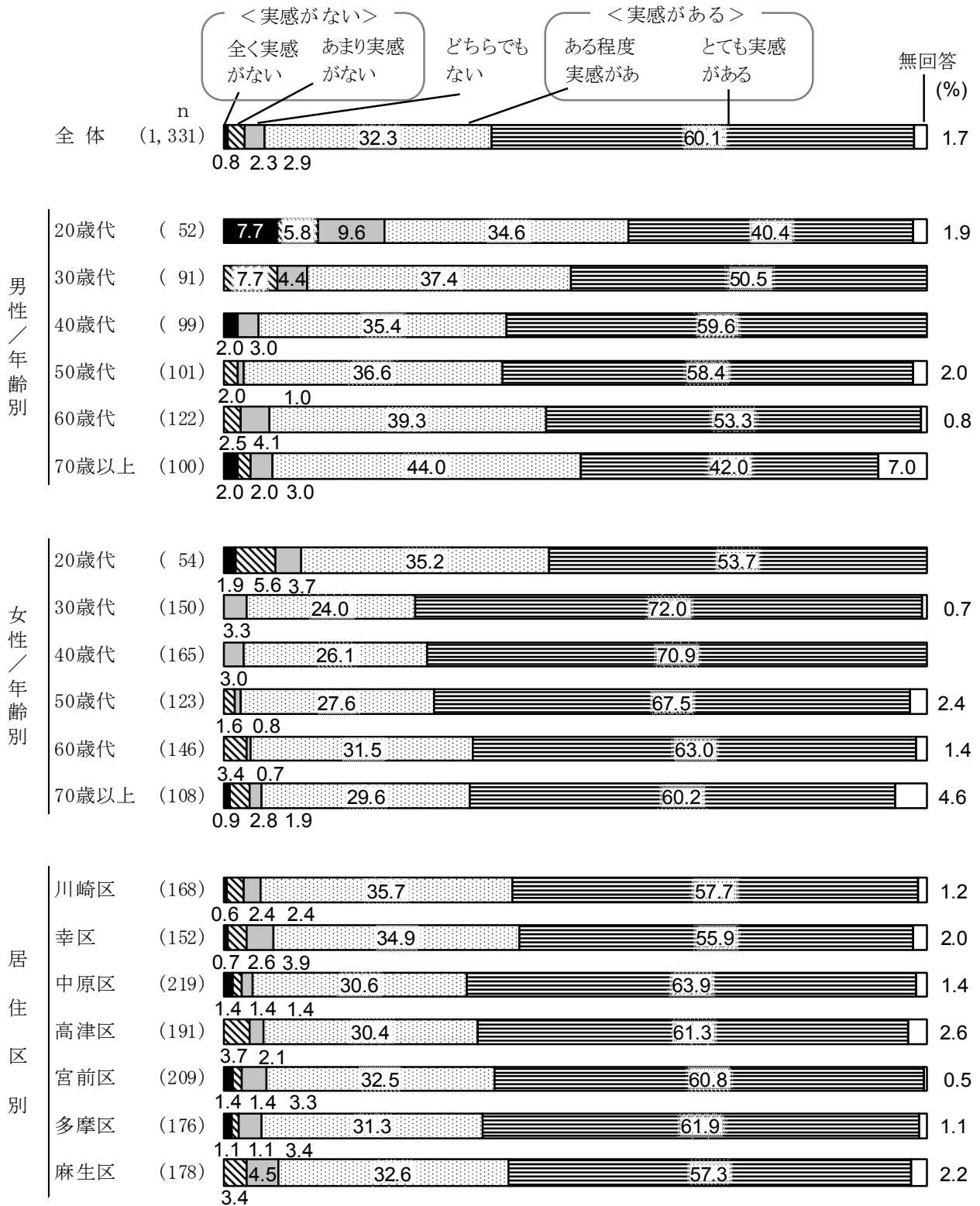
図表 1-12 気温の上昇による熱中症の増加などの影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男女とも各年代を問わず、6割を超えている。中でも、女性は、各年代で8割以上の方が、＜実感がある＞と回答している。

居住区別では、＜実感がある＞は、各区で8割を超えており、非常に高い。中でも、多摩区（90.9%）が最も高く、次いで、高津区（90.6%）、川崎区（90.5%）の順となっている。

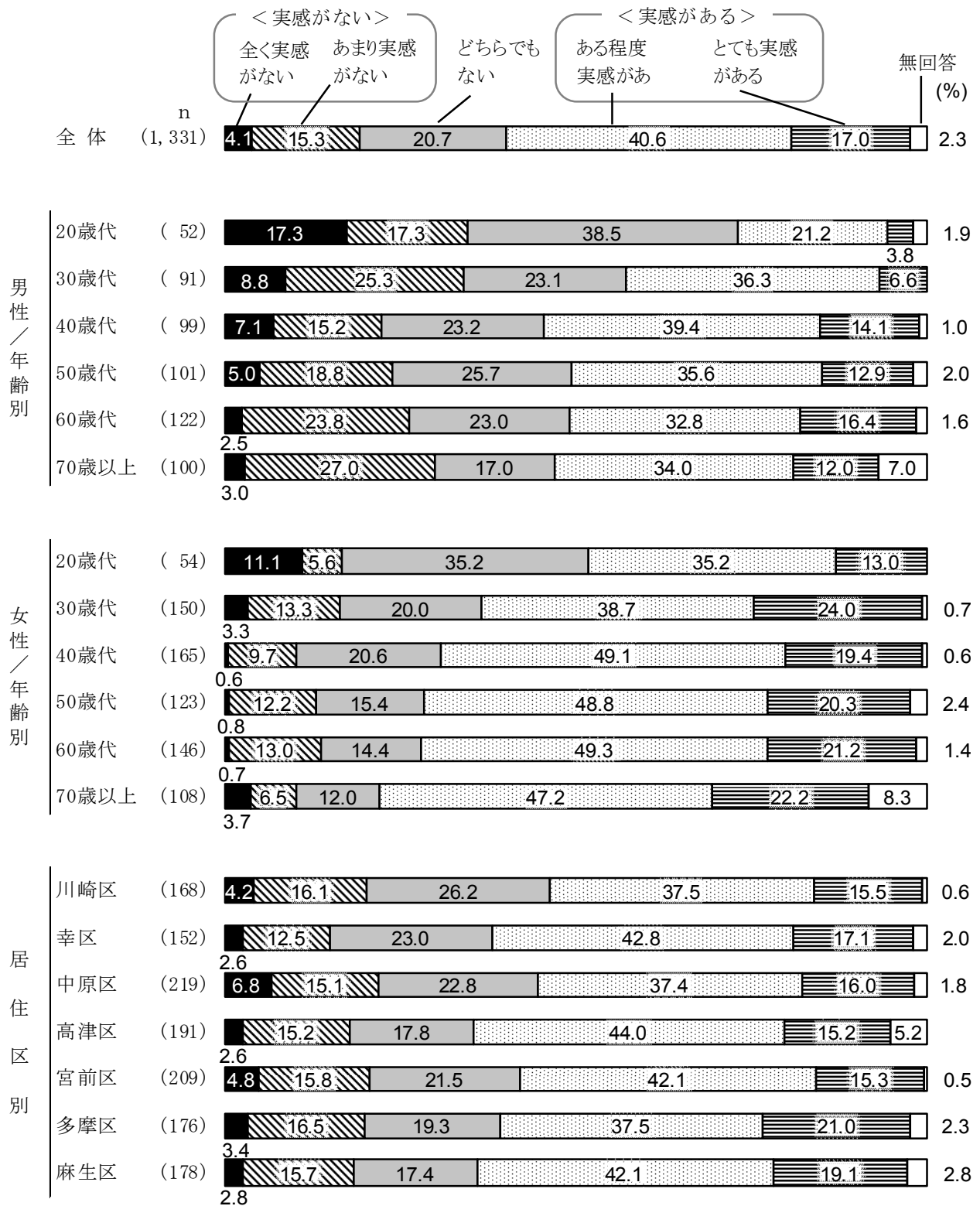
図表 1-13 猛暑日や熱帯夜の増加による不快感への影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男性は40歳代（95.0%）、50歳代（95.0%）で、女性は40歳代（97.0%）が高い。「とても実感がある」は、男性に比べ女性が高く、特に女性の30歳代（72.0%）、40歳代（70.9%）で7割を超えている。

居住区別では、＜実感がある＞は、各区で9割近くにのぼっている。中でも、中原区（94.5%）が最も高く、次いで、川崎区（93.4%）、宮前区（93.3%）の順となっている。

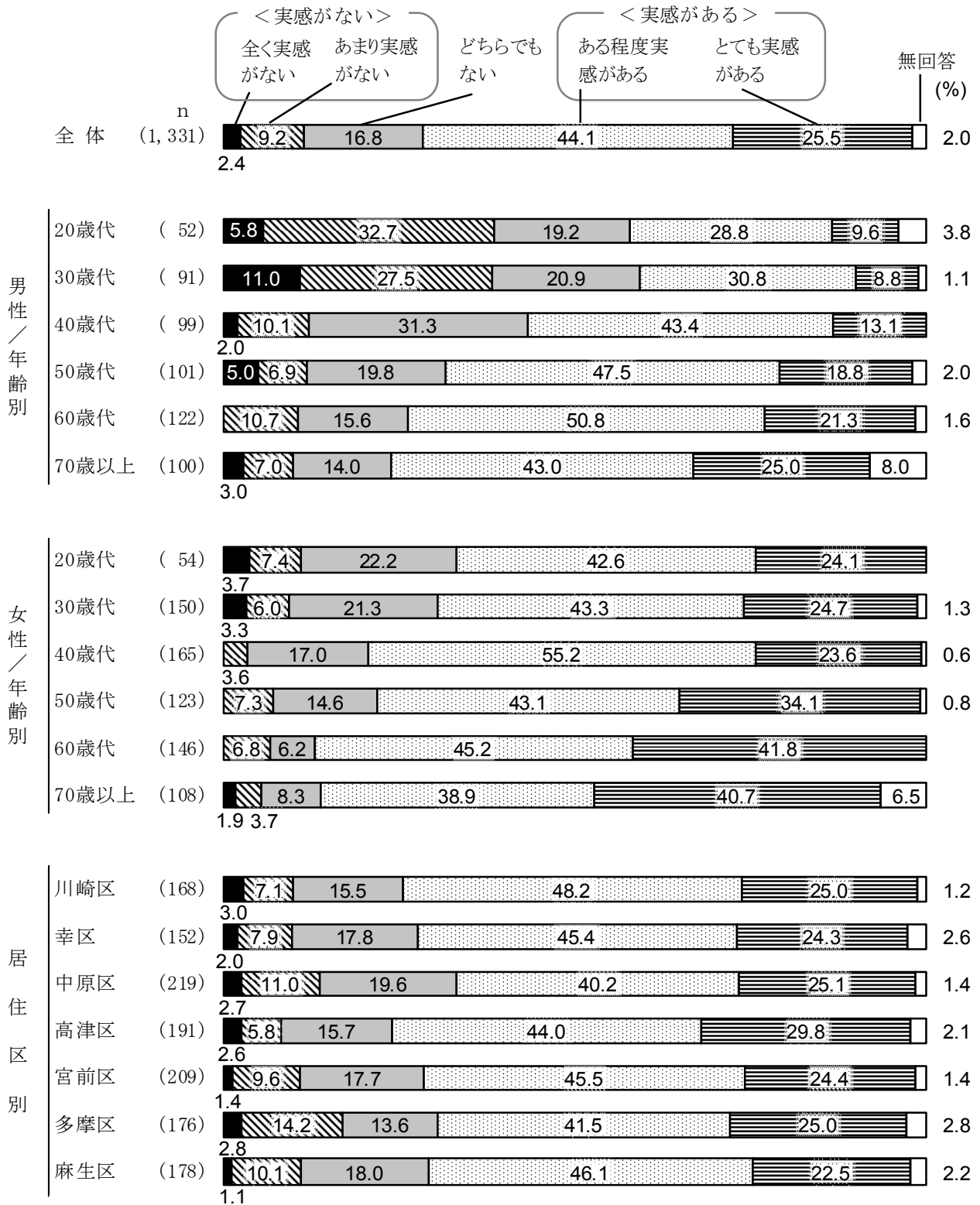
図表 1-14 デング熱をはじめとする感染症の増加などの影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男性に比べ女性の割合が高くなっており、各年代で20%前後、女性が上回っている。また、男性は40歳代（53.5%）が最も高く、女性は60歳代（70.5%）が最も高い。

居住区別では、＜実感がある＞は、麻生区（61.2%）が最も高く、6割を超えている。次いで、幸区（59.9%）、高津区（59.2%）の順となっている。

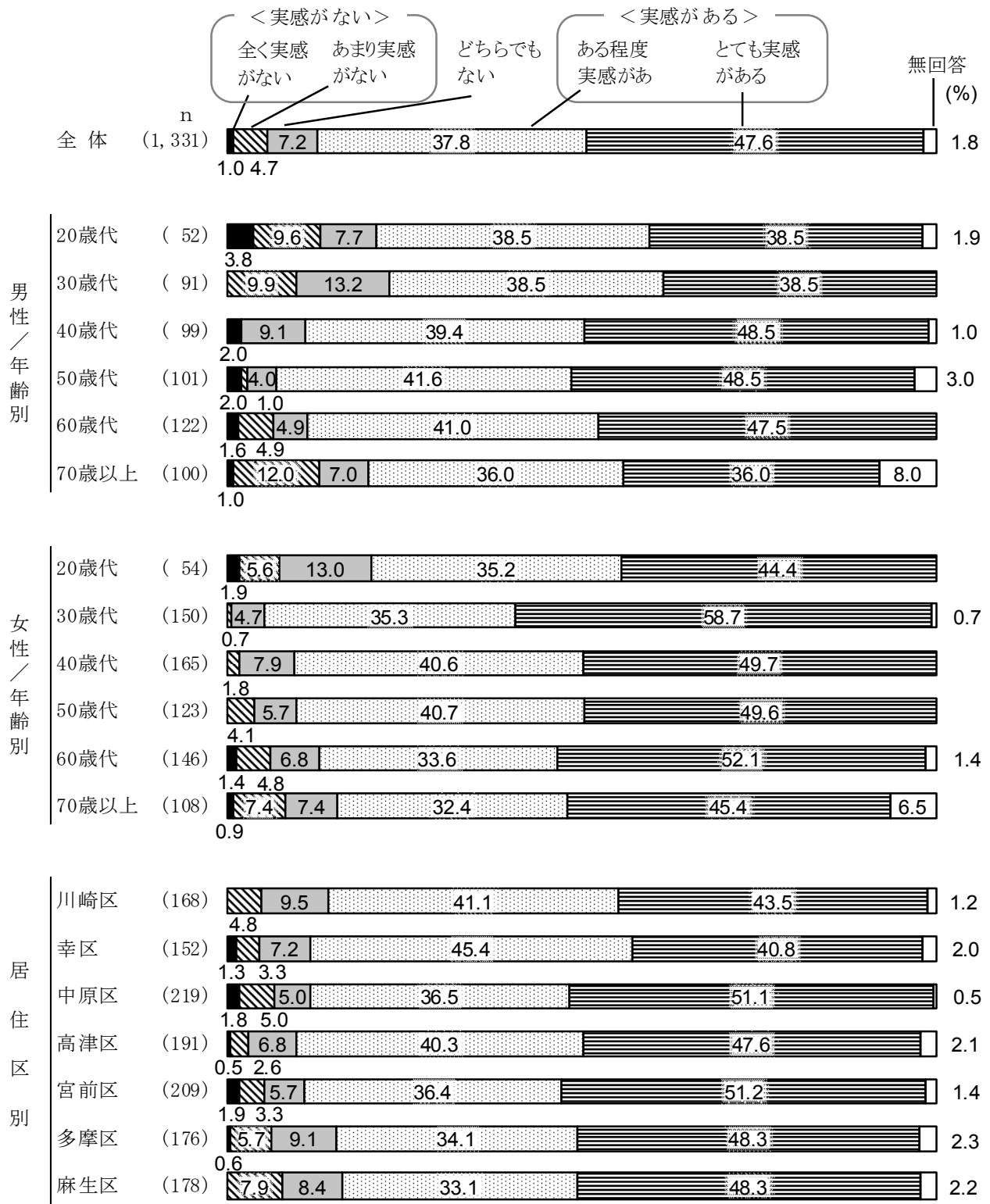
図表 1-15 農作物の収量減少などによる食料生産への影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男女ともに、年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向にある。男女共に60歳代が最も高く、男性（72.1%）は7割、女性（87.0%）は8割を超えている。

居住区別では、＜実感がある＞は、高津区（73.8%）が最も高く、次いで、川崎区（73.2%）の順となり、この2区が7割を超えている。

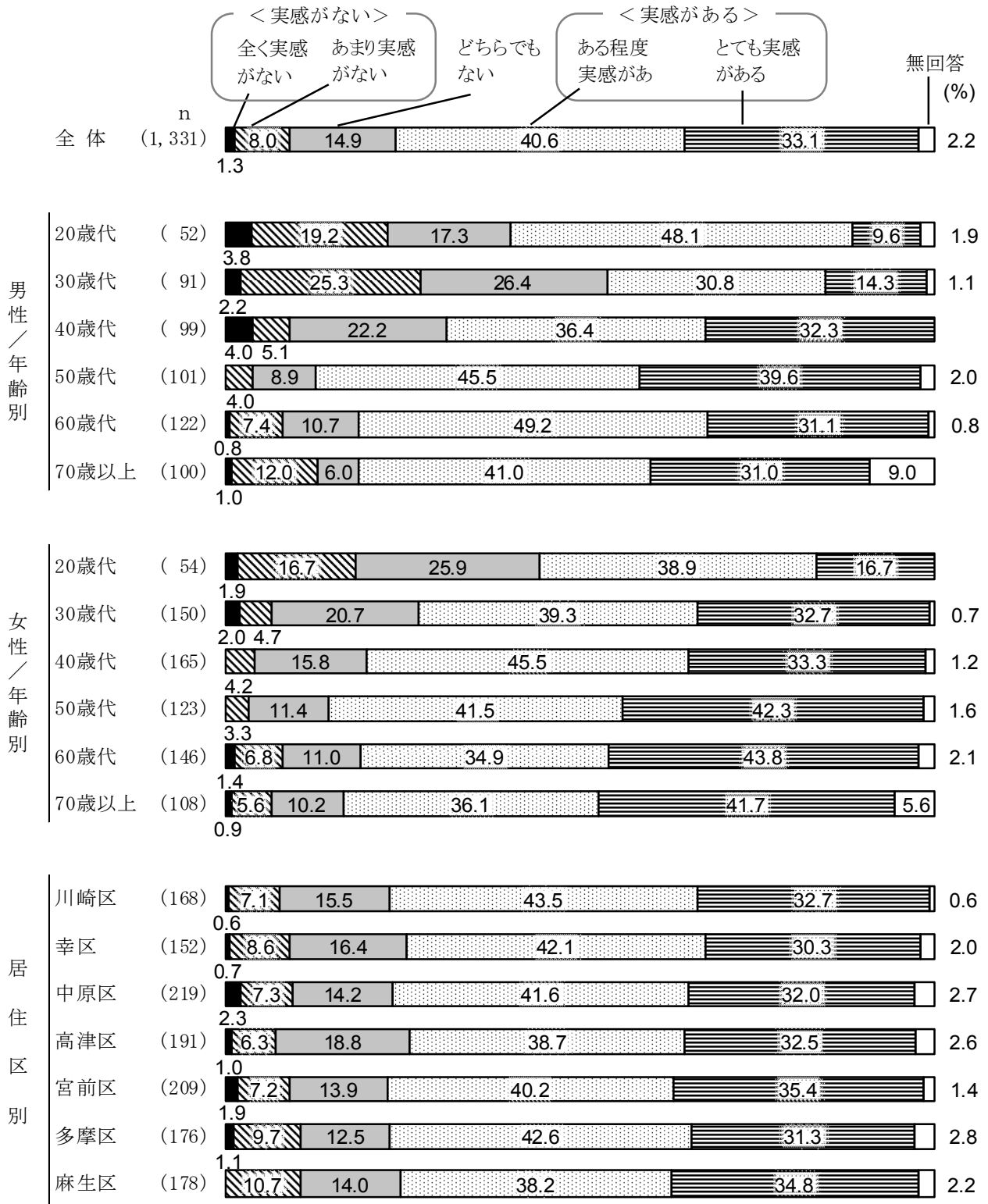
図表 1-16 いわゆる「ゲリラ豪雨」など局地的な大雨の影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男性は50歳代（90.1%）が最も高い。女性では30歳代（94.0%）が最も高い。

居住区別では、＜実感がある＞は、区で大きな差は見られず、各区で8割台となっている。高津区（87.9%）が最も高く、次いで、中原区（87.6%）、宮前区（87.6%）の順となっている。

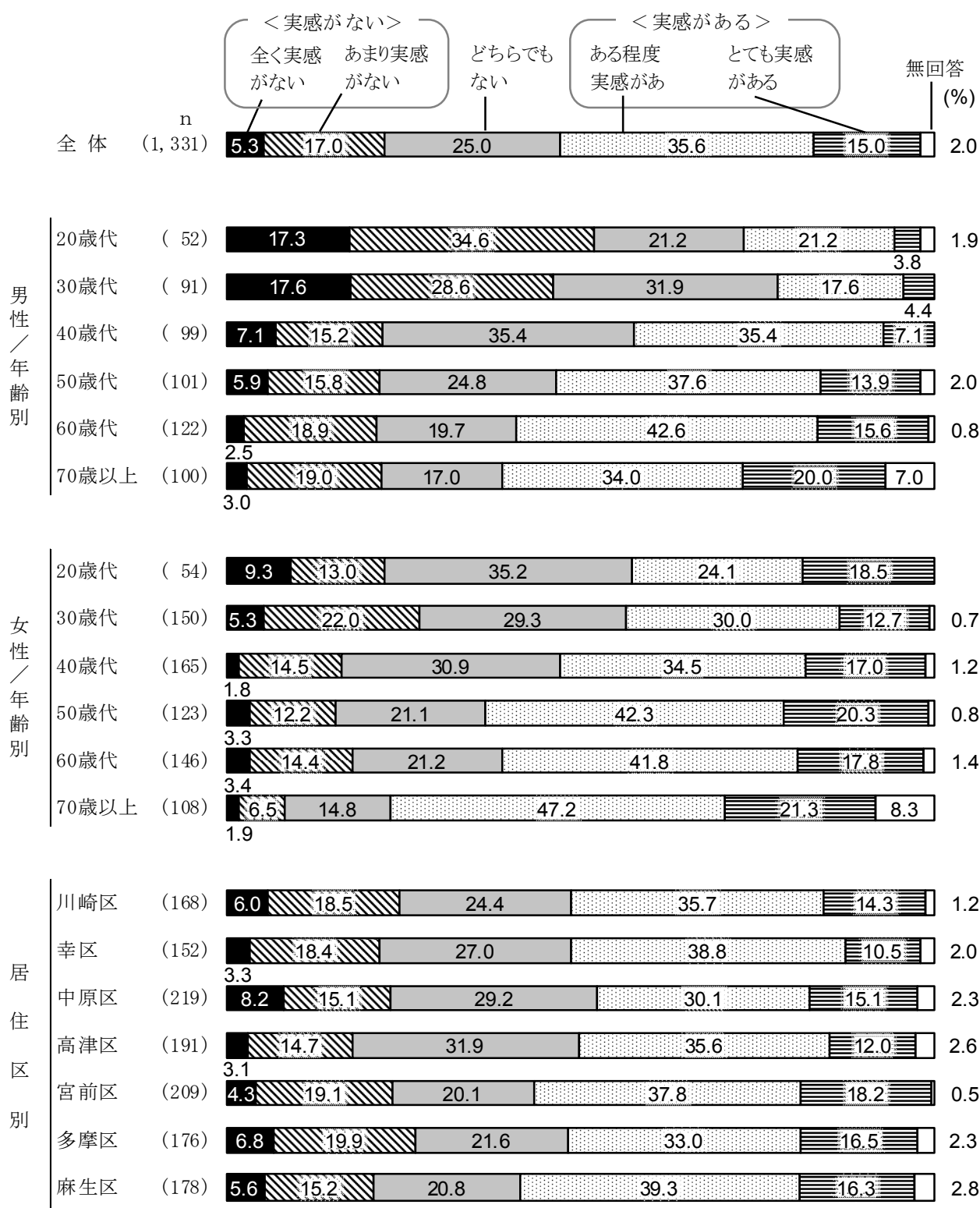
図表 1-17 台風の大型化などによる影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、<実感がある>は、男性は50歳代（85.1%）が最も高く、女性は50歳代（83.8%）が最も高い。一方、<実感が無い>は、男性は30歳代（27.5%）、女性は20歳代（18.6%）で最も高い。

居住区別では、<実感がある>は、区で大きな差は見られず、各区で7割台となっている。川崎区（76.2%）が最も高く、高津区（71.2%）が最も低い。

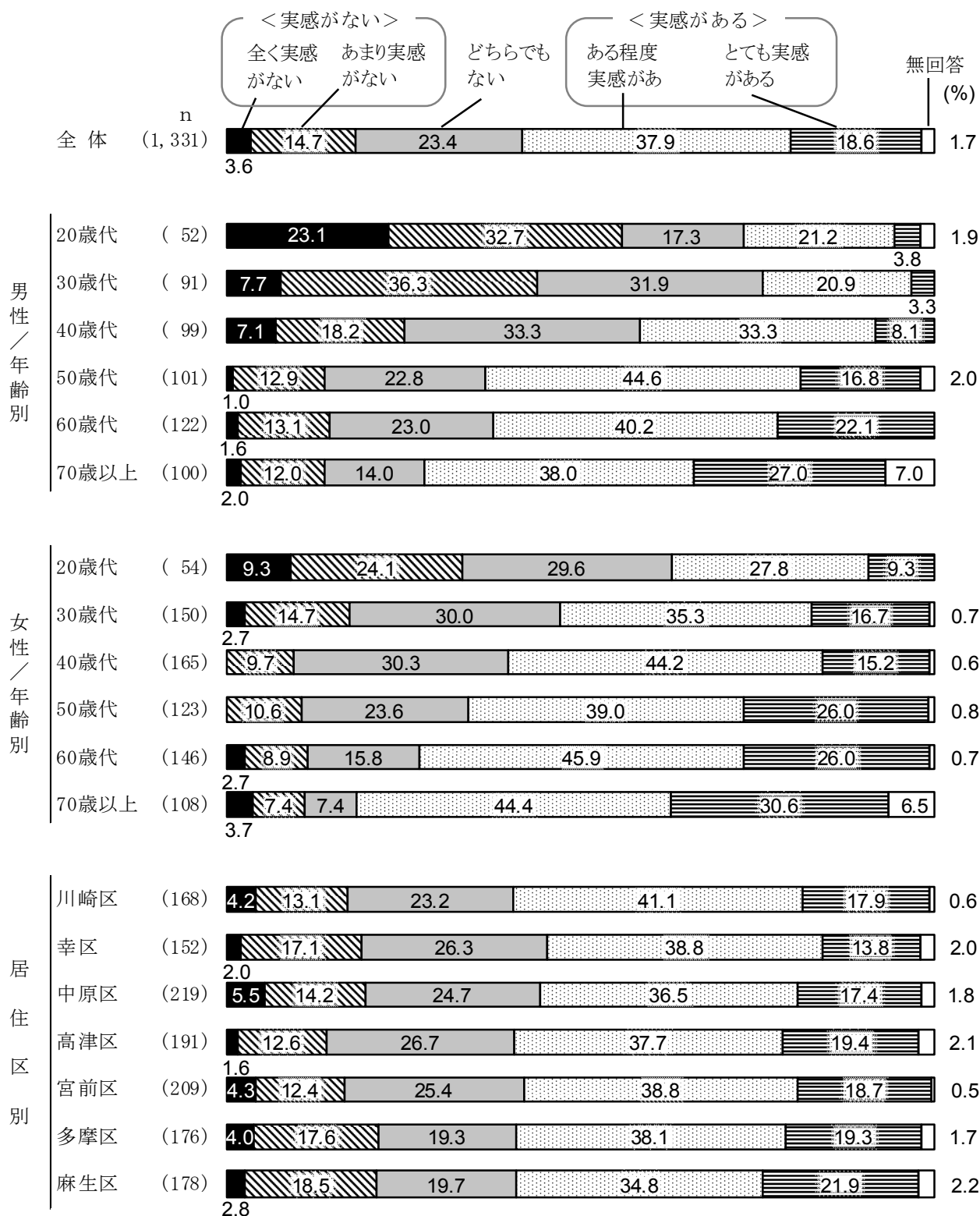
図表 1-18 絶滅危惧種の増加などによる生態系への影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男性は60歳代（58.2%）が最も高く、女性は50歳代（62.6%）が最も高い。一方、＜実感が無い＞は、男性は20歳代（51.9%）が最も高く、女性は30歳代（27.3%）が最も高い。

居住区別では、＜実感がある＞は、宮前区（56.0%）が最も高い。一方、＜実感が無い＞は、多摩区（26.7%）が最も高い。

図表 1-19 夏場の湯水などによる水資源への影響（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜実感がある＞は、男女ともに、年齢が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向がある。また、すべての年代で、女性が男性の割合を上回っている。

居住区別では、＜実感がある＞は、区で大きな差は見られず、各区で5割台となっており、川崎区（59.0%）が最も高い。一方、＜実感がない＞は、多摩区（21.6%）が最も高い。

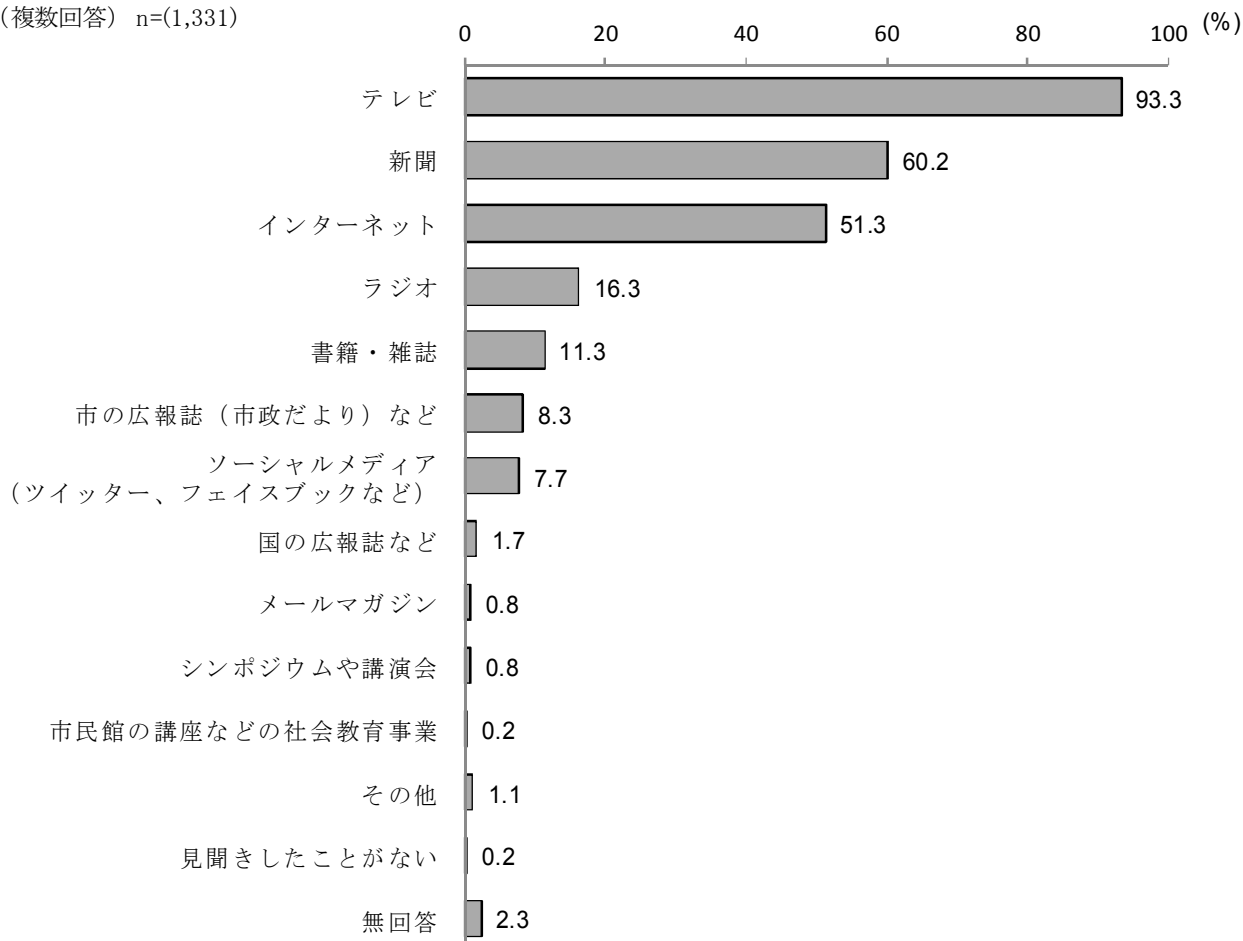
1-7 極端な気象現象やその影響などについて見聞きする媒体

◎「テレビ」で見聞きするが93.3%

問7 問6で例示したような極端な気象現象やその影響などについて、どのような媒体で見聞きすることが多いですか。(あてはまるもの3つまでに○)

図表 1-20 極端な気象現象やその影響などについて見聞きする媒体

(複数回答) n=(1,331)



極端な気象現象やその影響などを見聞きする媒体については、「テレビ」(93.3%)が最も高く、9割を超えている。次いで、「新聞」(60.2%)、「インターネット」(51.3%)、「ラジオ」(16.3%)、「書籍・雑誌」(11.3%)の順となっている。

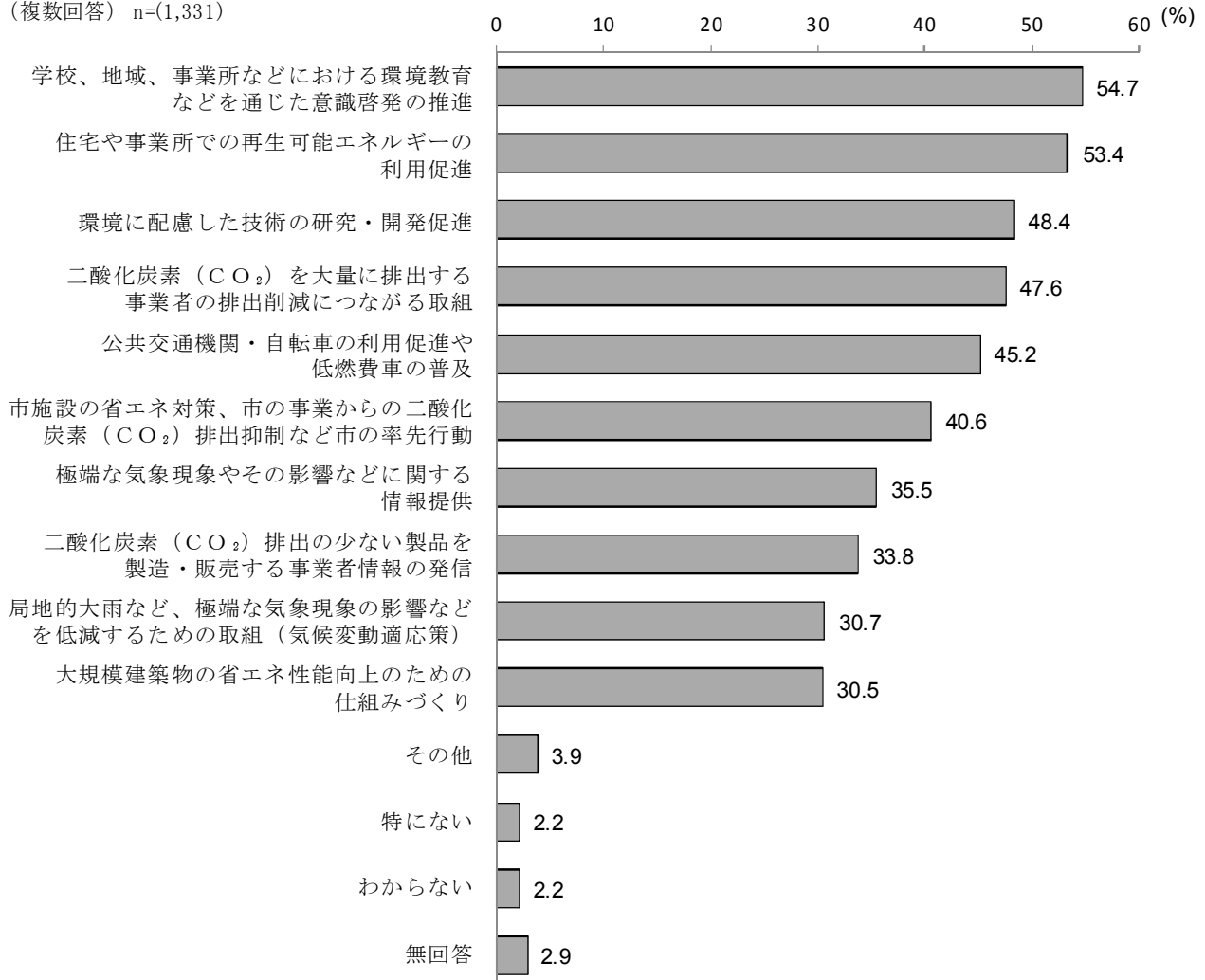
1-8 川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策

◎「学校、地域、事務所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進」が54.7%

問8 今後、川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

図表1-22 川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策

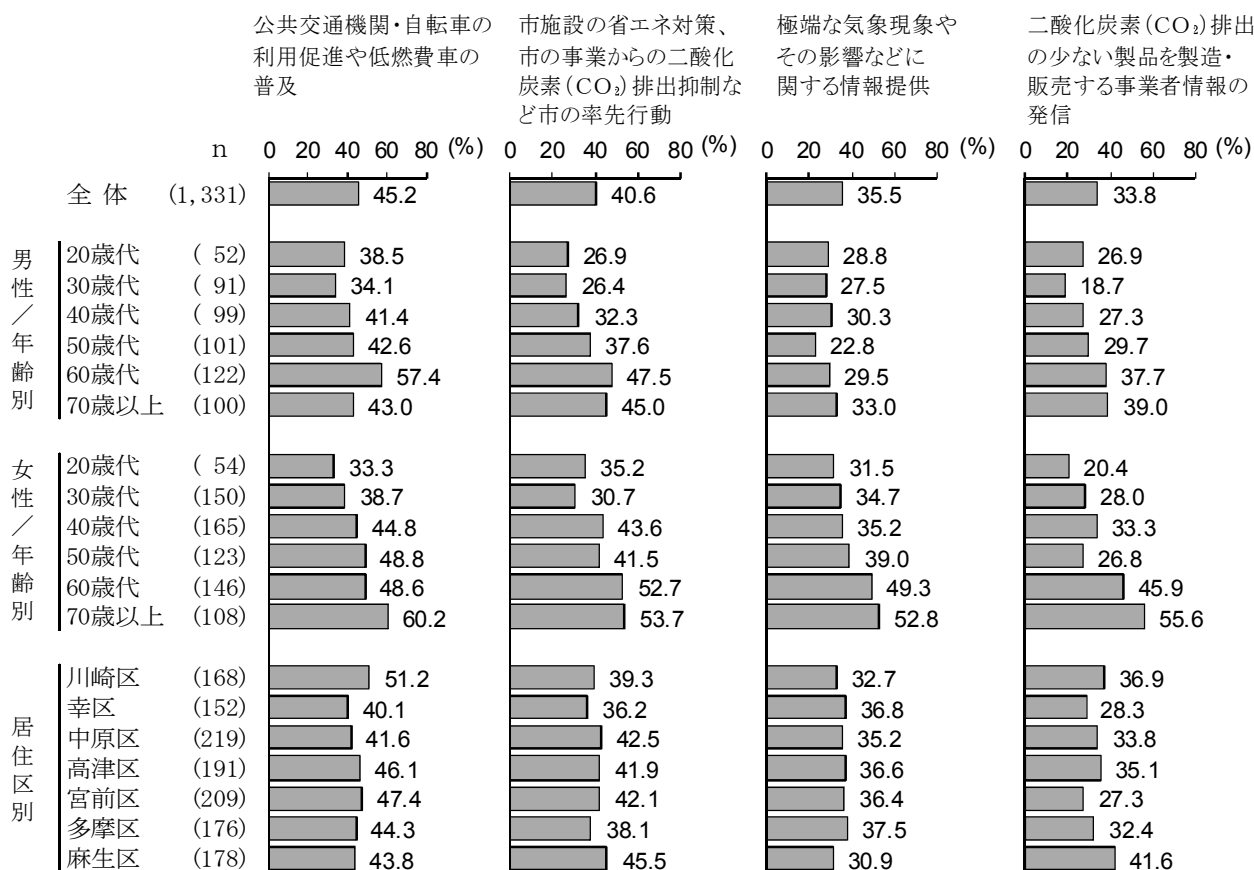
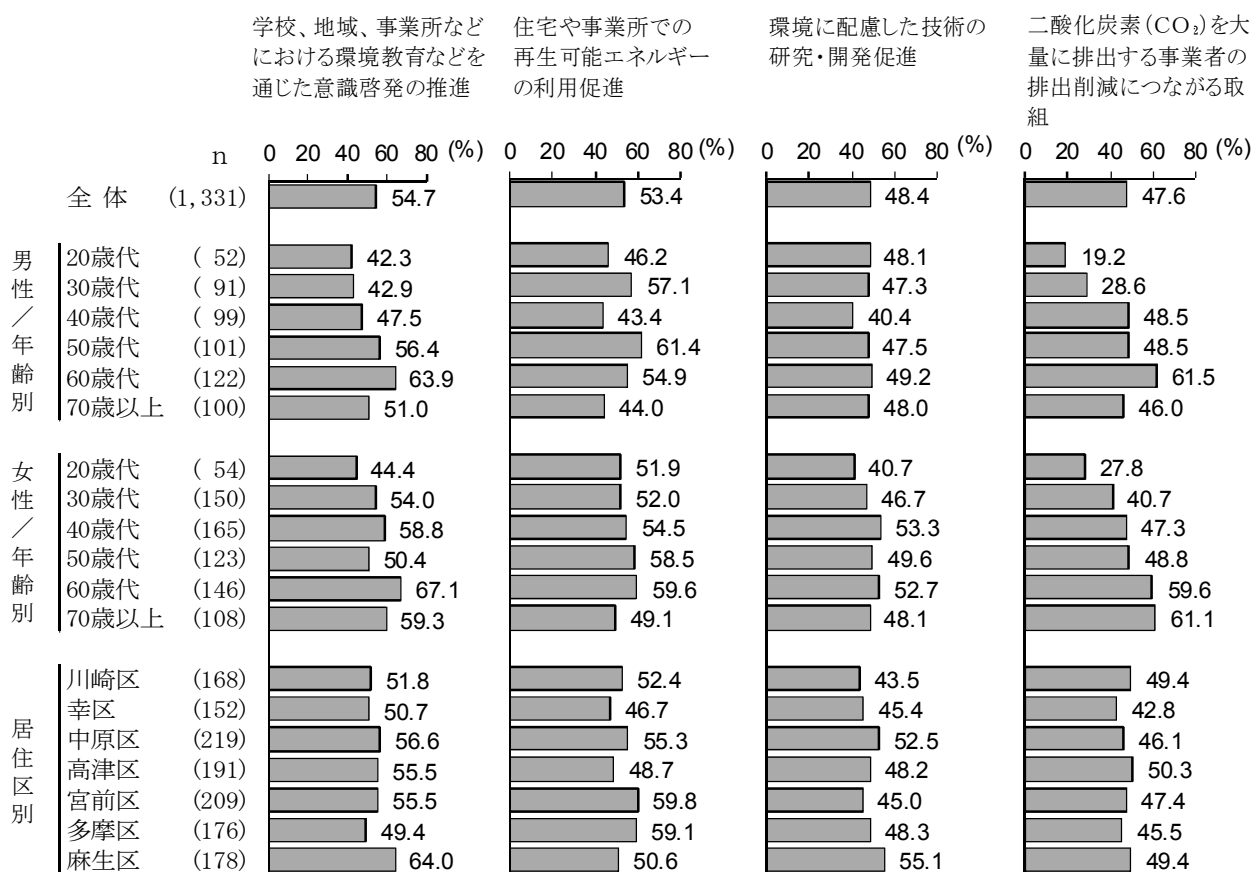
(複数回答) n=(1,331)



川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策については、「学校、地域、事業所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進」(54.7%)が最も高く、次いで、「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」(53.4%)、「環境に配慮した技術の研究・開発促進」(48.4%)の順となっている。

図表 1-23 川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策

(性/年齢別・居住区別 上位8項目)



性／年齢別では、「学校、地域、事業所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進」は 60 歳代の割合が高く、男性（63.9%）、女性（67.1%）ともに 6 割台となっている。「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」は、男性の 50 歳代（61.4%）で 6 割台と高い。「公共交通機関・自転車の利用促進や低燃費車の普及」は男性の 60 歳代（57.4%）と、女性の 70 歳以上（60.2%）で割合が多い。「二酸化炭素（CO₂）を大量に排出する事業者の排出削減につながる取組」は男性の 60 歳代（61.5%）、女性の 70 歳以上（61.1%）で 6 割台と高い。「環境に配慮した技術の研究・開発促進」、「市施設の省エネ対策、市の事業からの二酸化炭素（CO₂）排出抑制など市の率先行動」、「極端な気象現象やその影響などに関する情報提供」、「二酸化炭素（CO₂）の少ない製品を製造・販売する事業者情報の発信」は、男女共に高い年代の割合が比較的高い。

居住区別では、「学校、地域、事業所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進」は、麻生区（64.0%）が最も割合が高い。「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」は、宮前区（59.8%）が最も高い。「環境に配慮した技術の研究・開発促進」は、麻生区（55.1%）と中原区（52.5%）が 5 割を超えている。「二酸化炭素（CO₂）大量に排出する事業者の排出削減につながる取組」は、高津区（50.3%）が最も高く、5 割台となっている。「公共交通機関・自転車の利用促進や低燃費車の普及」は、川崎区（51.2%）が 5 割台で最も高い。「市施設の省エネ対策、市の事業からの二酸化炭素（CO₂）排出抑制など市の率先行動」は、全ての区で 3 割半ばから 4 割半ばとなっている。「極端な気象現象やその影響などに関する情報提供」は全ての区で 3 割台となっている。「二酸化炭素（CO₂）を大量に排出する事業者の排出削減につながる取組」は、麻生区（41.6%）で 4 割を超えて、最も高い。

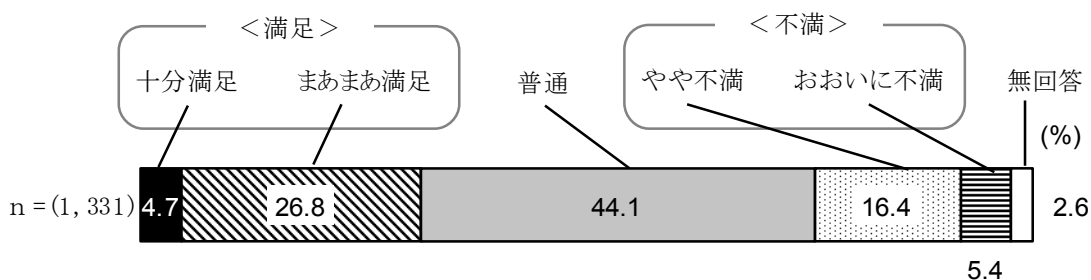
2 川崎市の緑の満足度について

2-1 市域全体の緑についての満足度

◎<満足>が31.5%

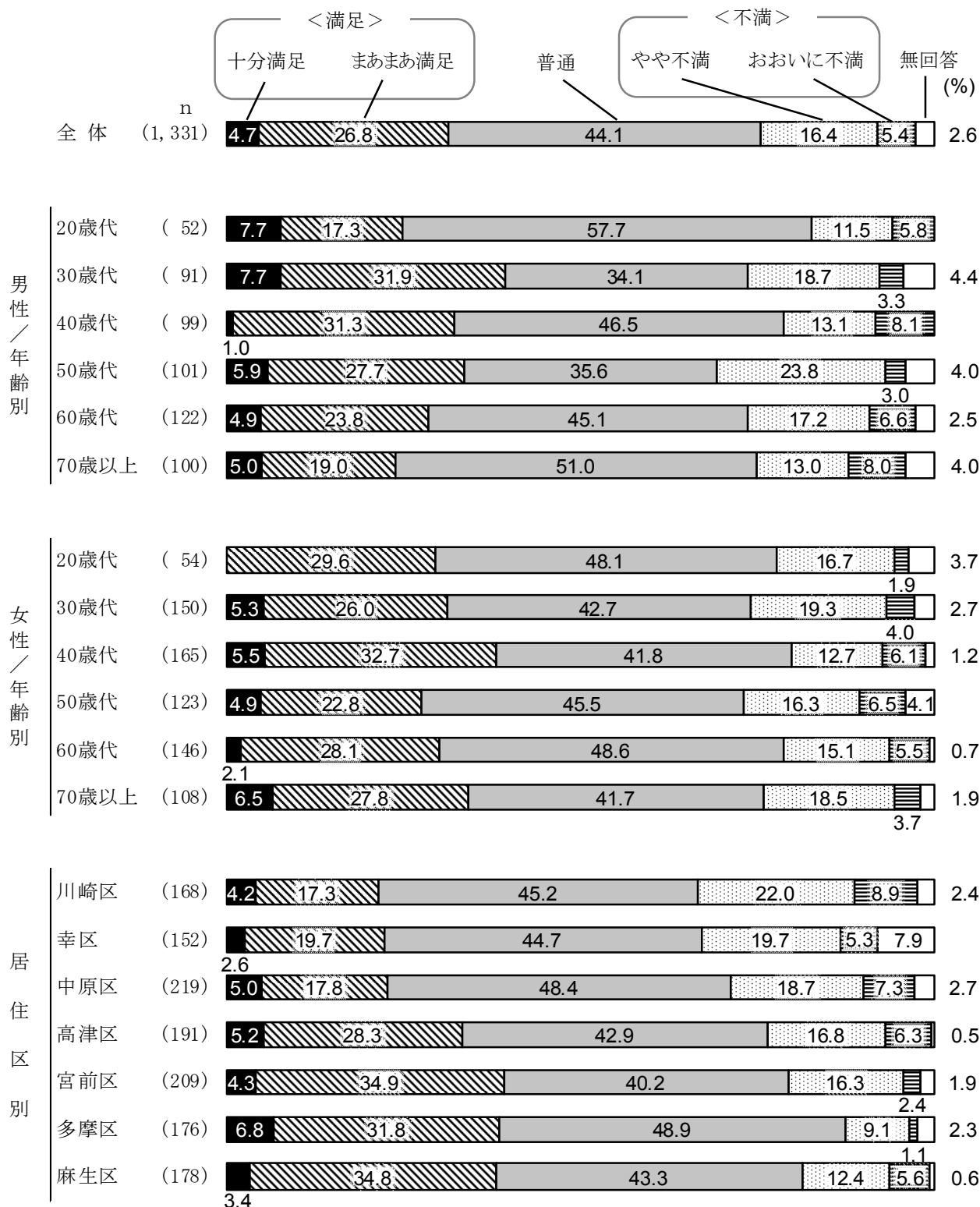
問9 あなたは、市域全体の緑に満足していますか。(〇は1つだけ)

図表2-1 市域全体の緑についての満足度



市域全体の緑の満足度について、「十分満足」(4.7%)と「まあまあ満足」(26.8%)を合わせた<満足>は31.5%となっている。一方、「やや不満」(16.4%)と「おおいに不満」(5.4%)をあわせた<不満>は21.8%となっている。また、「普通」は44.1%となっている。

図表 2-2 市域全体の緑についての満足度（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜満足＞は、男性では30歳代（39.6%）が最も高く、女性では40歳代（38.2%）が最も高い。一方、＜不満＞は、男性では50歳代（26.8%）が最も高く、女性では30歳代（23.3%）が最も高い。

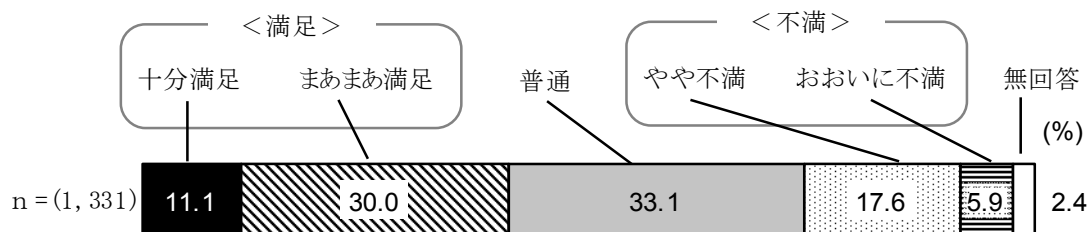
居住区別では、＜満足＞は、宮前区（39.2%）が最も高く、次いで、多摩区（38.6%）、麻生区（38.2%）の順となっている。一方、＜不満＞は、川崎区（30.9%）が最も高く、次いで、中原区（26.0%）、幸区（25.0%）の順となっている。

2-2 居住地域（区）の緑の満足度

◎＜満足＞が41.1%

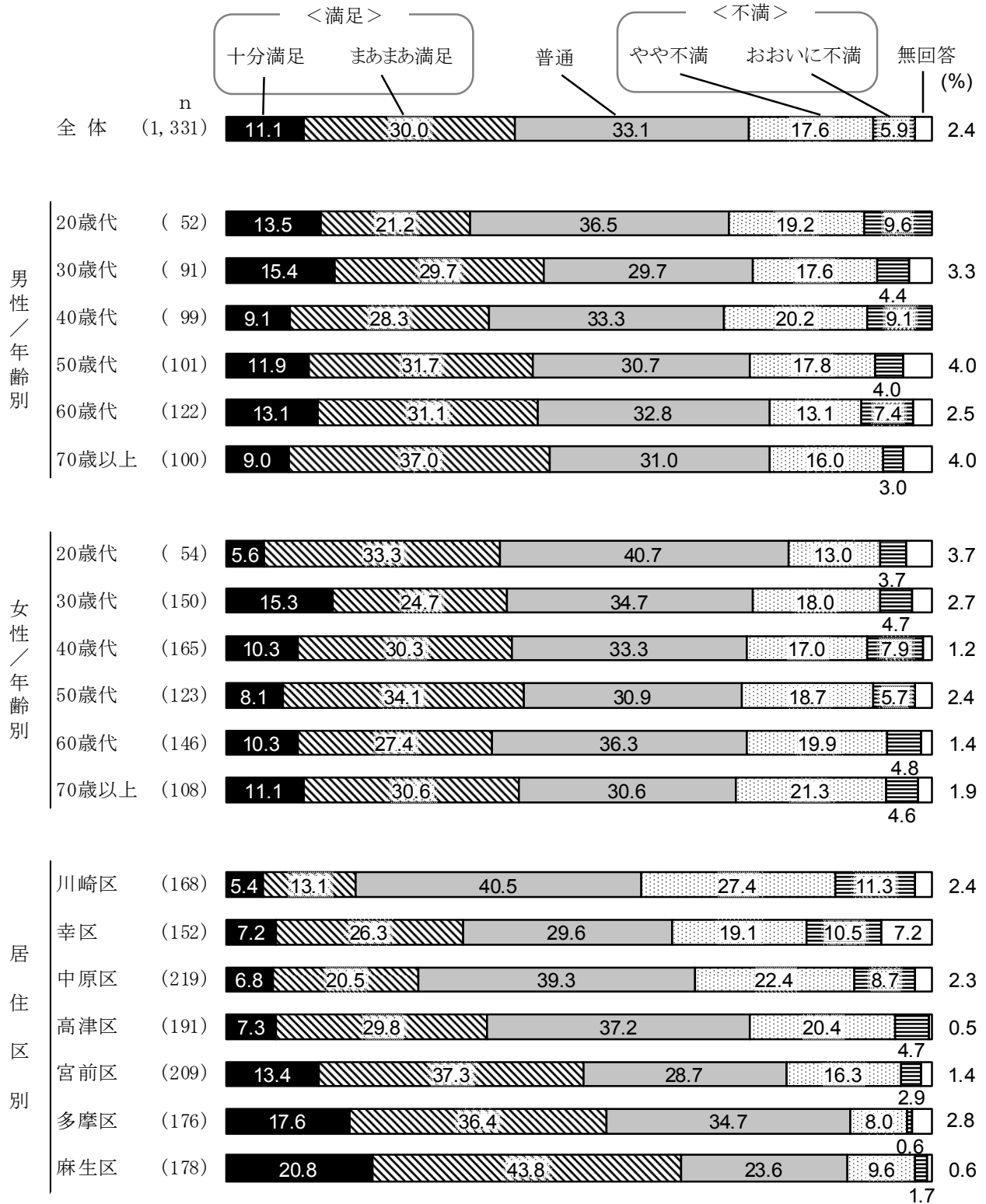
問10 あなたは、居住地域（区）の緑に満足していますか。（○は1つだけ）

図表2-3 居住地域（区）の緑の満足度



居住地域（区）の緑の満足度について、「十分満足」（11.1%）と「まあまあ満足」（30.0%）を合わせた＜満足＞は41.1%となっている。一方、「やや不満」（17.6%）と「おおいに不満」（5.9%）をあわせた＜不満＞は23.5%となっている。また、「普通」は33.1%となっている。

図表 2-4 居住地域（区）の緑の満足度（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜満足は＞は、男性では70歳以上（46.0%）が最も高く、女性では50歳代（42.2%）が最も高い。一方、＜不満＞は、男性では40歳代（29.3%）が最も高く、女性では70歳以上（25.9%）が高い。

居住区別では、＜満足＞は、麻生区（64.6%）が最も高く、次いで、多摩区（54.0%）、宮前区（50.7%）の順となっている。一方、＜不満＞は、川崎区（38.7%）が最も高く、次いで、中原区（31.1%）、幸区（29.6%）の順となっている。

2-3 ボランティア活動への参加状況

◎「参加したことがない」が89.8%

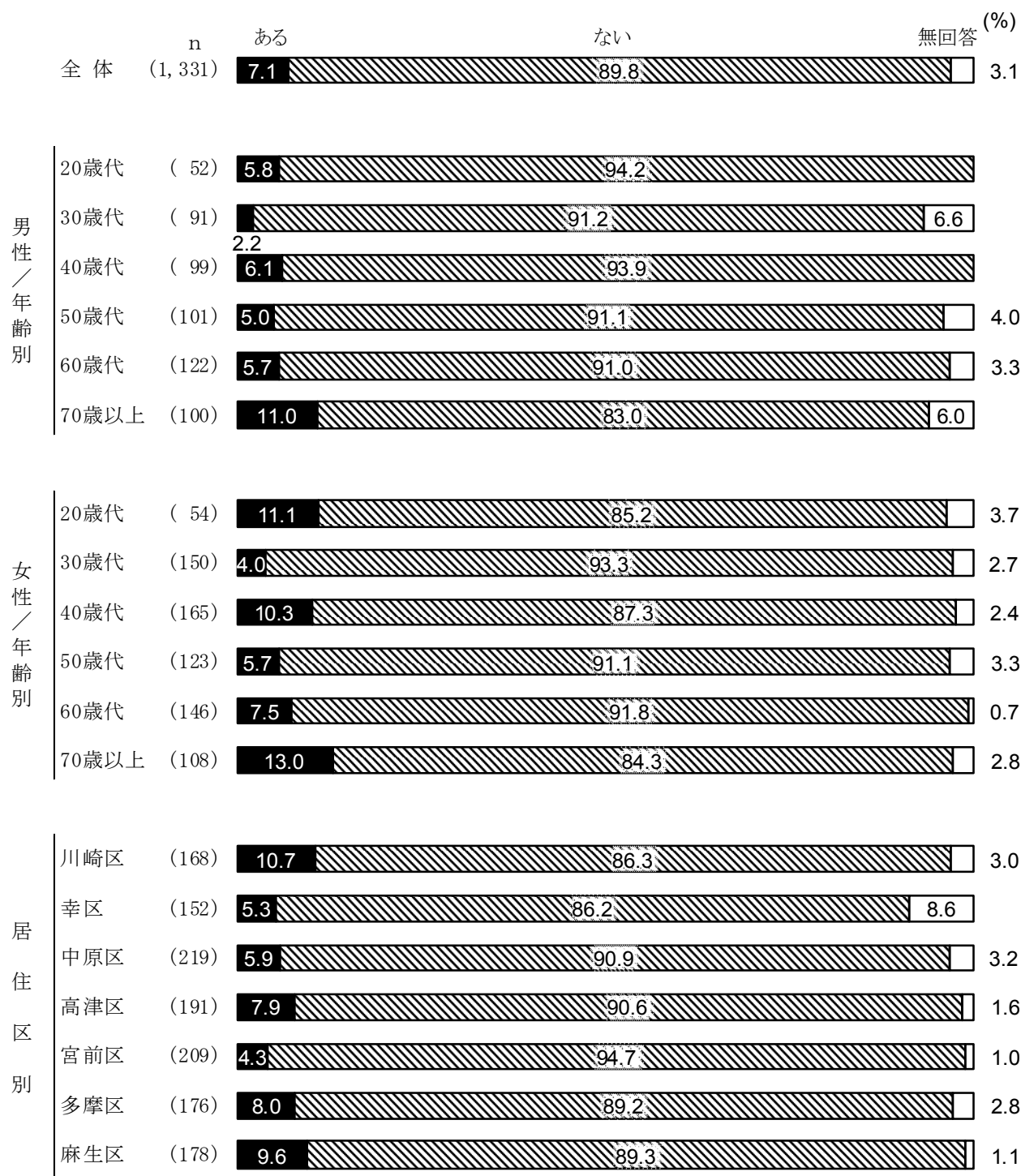
問11 あなたは、木や花を植えたり世話をしたりするボランティア活動に参加したことはありますか。
(○は1つだけ)

図表2-7 ボランティア活動への参加状況



木や花を植えたり世話をしたりするボランティア活動への参加状況は、「ある」は7.1%、「ない」が89.8%となっている。

図表 2-8 ボランティアへの参加状況（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「ある」は、全ての年代で、女性が男性より割合が高くなっている。女性では70歳以上（13.0%）、20歳代（11.1%）、40歳代（10.3%）が1割を超えている。一方、男性では70歳以上（11.0%）のみが1割を超えている。また、30歳代が男性（2.2%）女性（4.0%）ともに、最も低い。

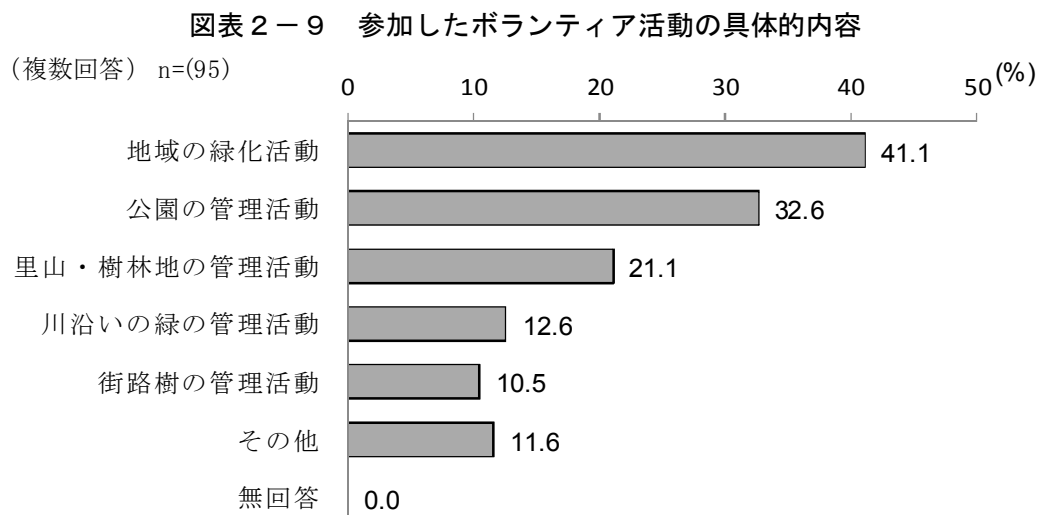
居住区別では、「ある」は、川崎区（10.7%）が最も高く、1割を超えている。次いで、麻生区（9.6%）、多摩区（8.0%）の順となっている。

2-4 参加したボランティア活動の具体的内容

◎「地域の緑化活動」が41.1%

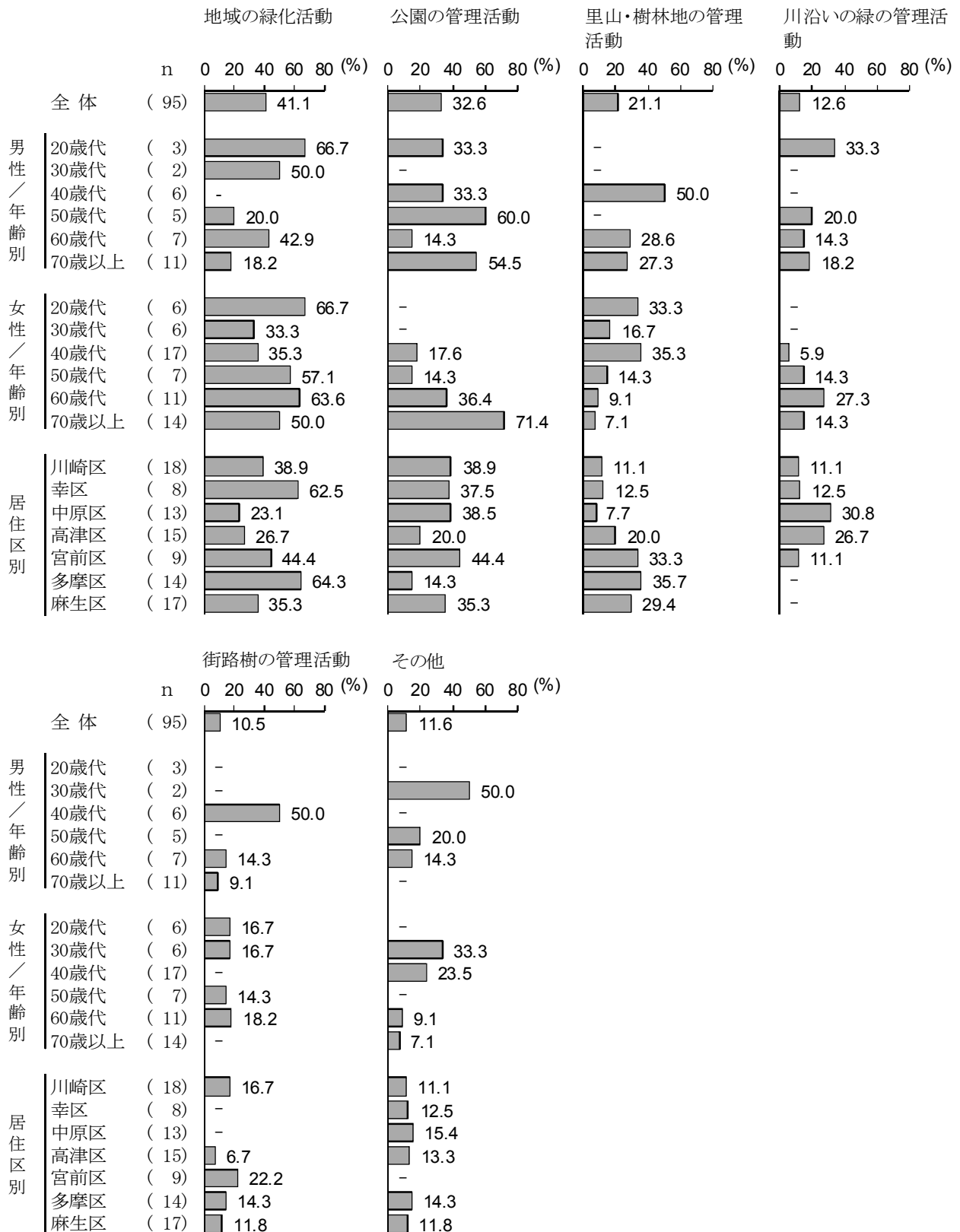
問11で「1 ある」と回答された方にうかがいます。

問11-1 具体的にどんな活動ですか。(あてはまるもの全てに○)



参加したボランティアの具体的な活動については、「地域の緑化活動」(41.1%)が最も高く、4割を超えている。次いで、「公園の管理活動」(32.6%)、「里山・樹林地の管理活動」(21.1%)の順となっている。

図表2-10 参加したボランティア活動の具体的内容（性／年齢別・居住区別）



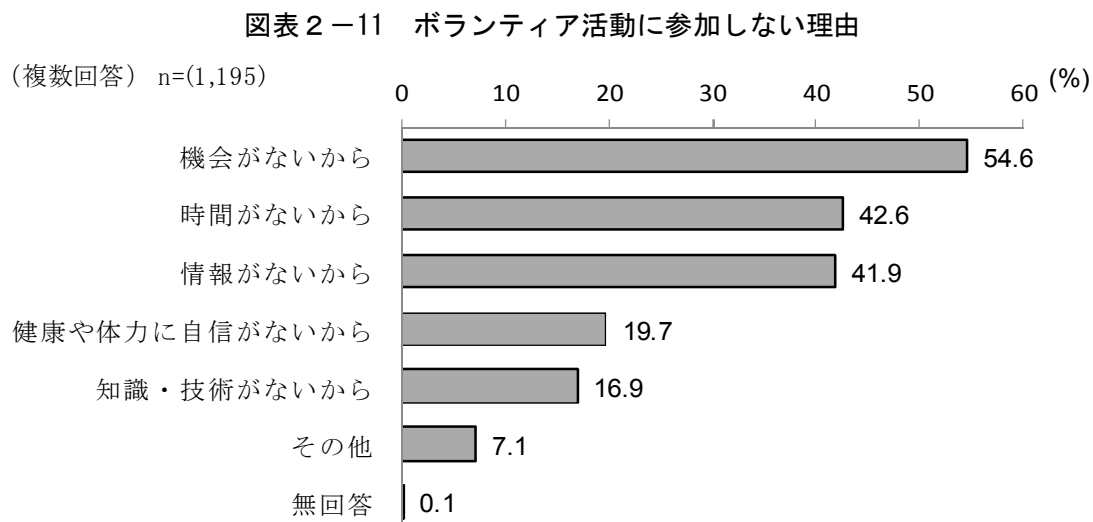
性／年齢別、居住区別ともに基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。

2-5 ボランティア活動に参加しない理由

◎「機会がないから」が54.6%

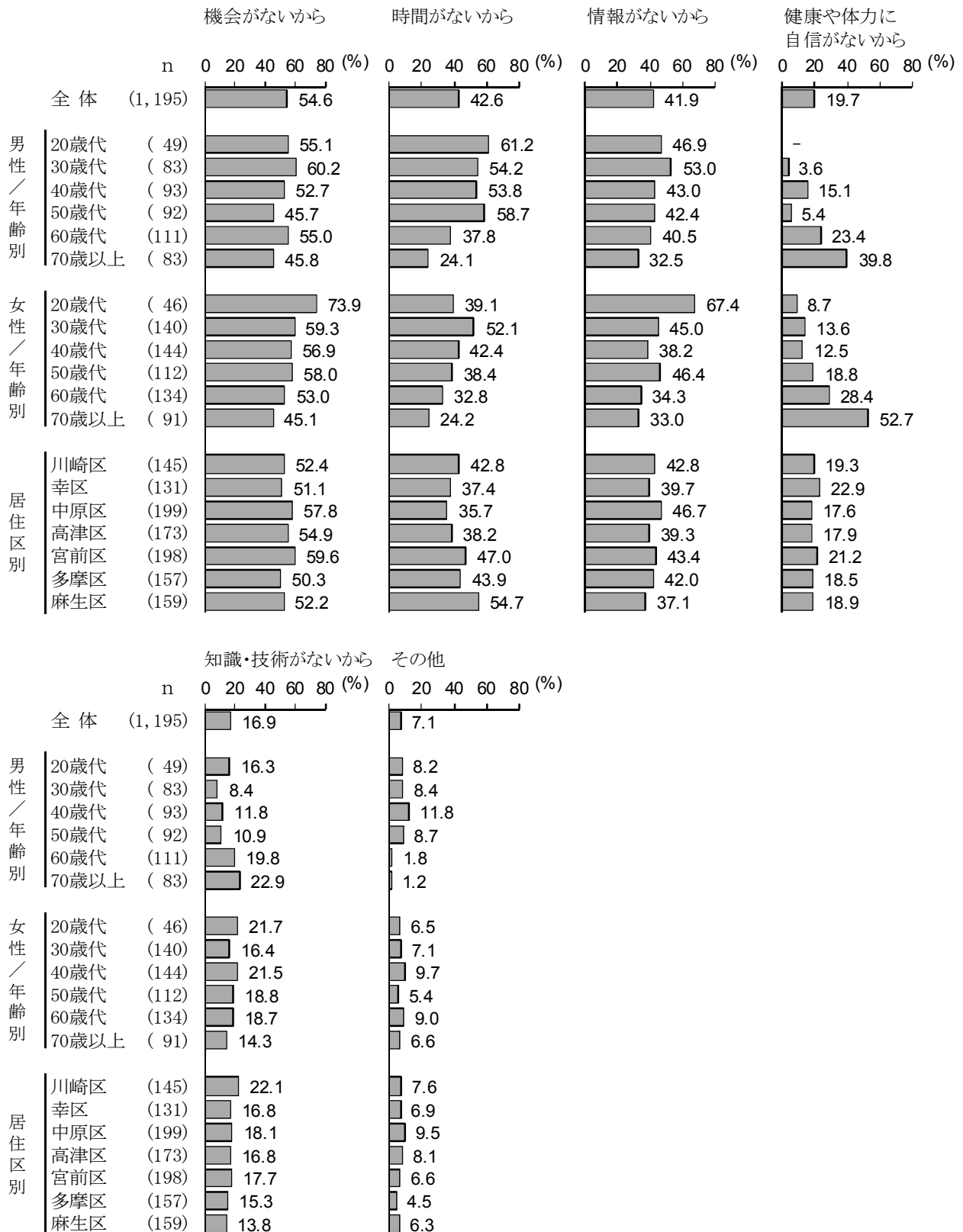
問11で「2 ない」と回答された方にうかがいます。

問11-2 参加しない理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)



ボランティアに参加しない理由については、「機会がないから」(54.6%)が最も高い。次いで、「時間がないから」(42.6%)、「情報がないから」(41.9%)の順となっている。

図表2-12 「ボランティア活動」に参加しない理由（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「機会がないから」、「情報がないから」は20歳代の女性の割合が最も高い（それぞれ73.9%、67.4%）。「時間がないから」、「情報がないから」は60歳代・70歳以上の割合が比較的低い。「健康や体力に自身がないから」は、年齢の高い年代で比較的高い。

居住区別では、「機会がないから」は宮前区（59.6%）、「時間がないから」は麻生区（54.7%）、「情報がないから」は中原区（46.7%）が高い。

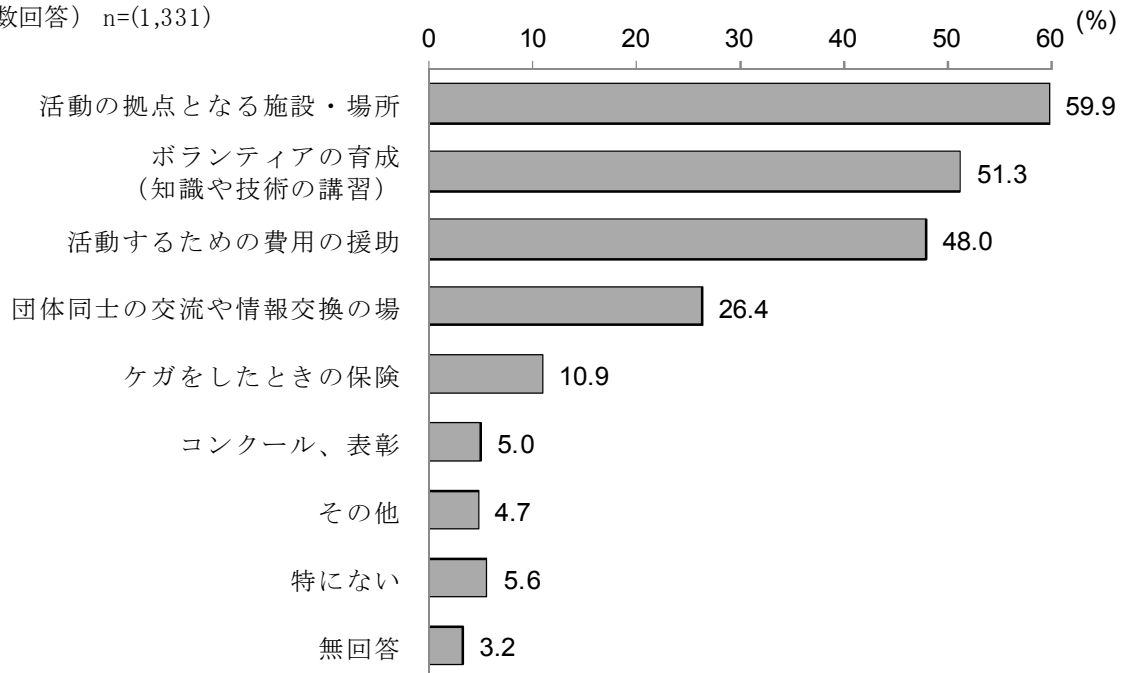
2-6 緑化活動を活発にするために必要なこと

◎「活動の拠点となる施設・場所」が59.9%

問12 あなたは、緑化活動を活発にするために何が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

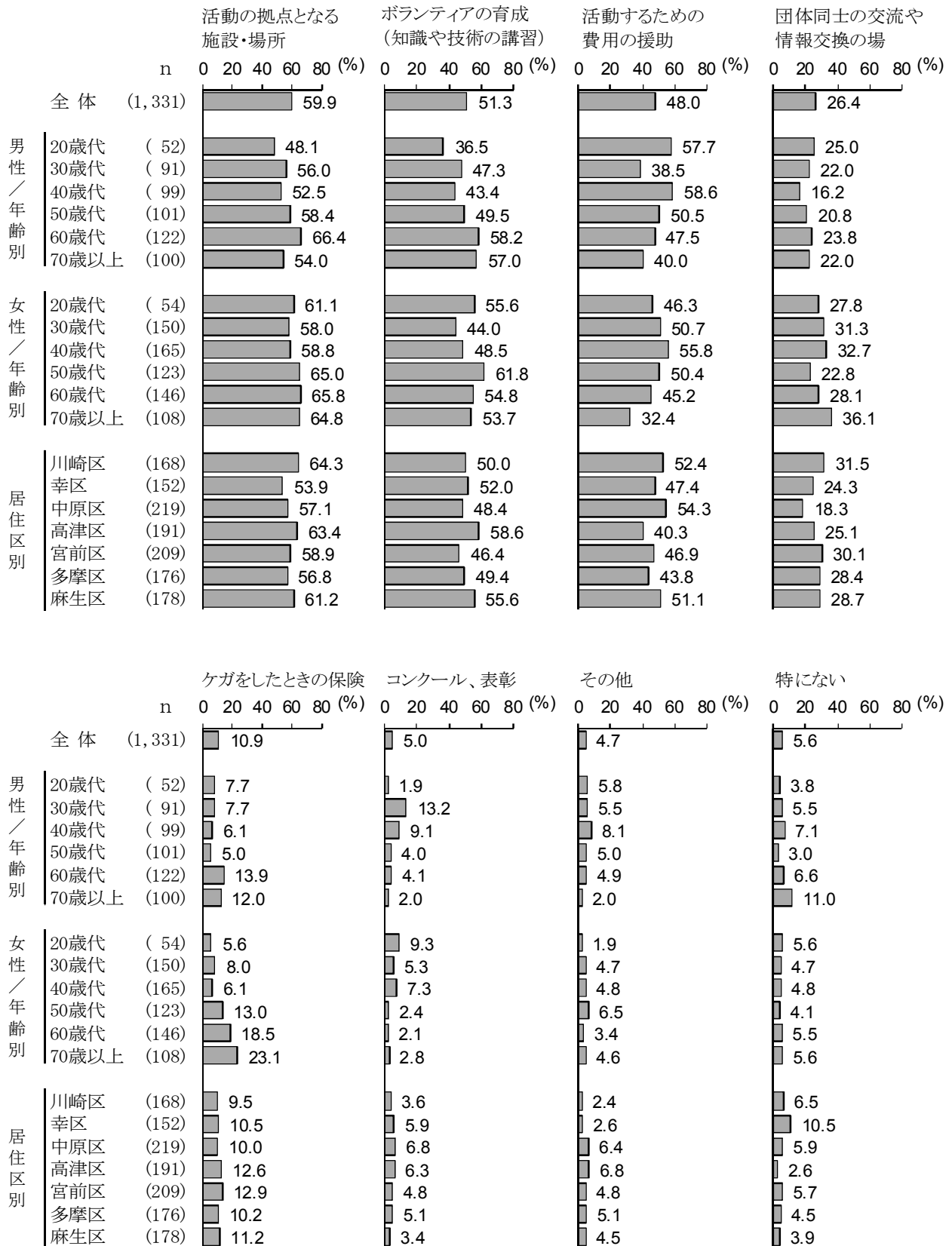
図表2-13 緑化活動を活発にするために必要なこと

(複数回答) n=(1,331)



緑化活動を活発化するために必要なことについては、「活動の拠点となる施設・場所」(59.9%)が最も高い。次いで、「ボランティアの育成(知識や技術の講習)」(51.3%)、「活動するための費用の援助」(48.0%)の順となっている。

図表 2-14 緑化活動を活発にするために必要なことについて（性／年齢別・居住区別）



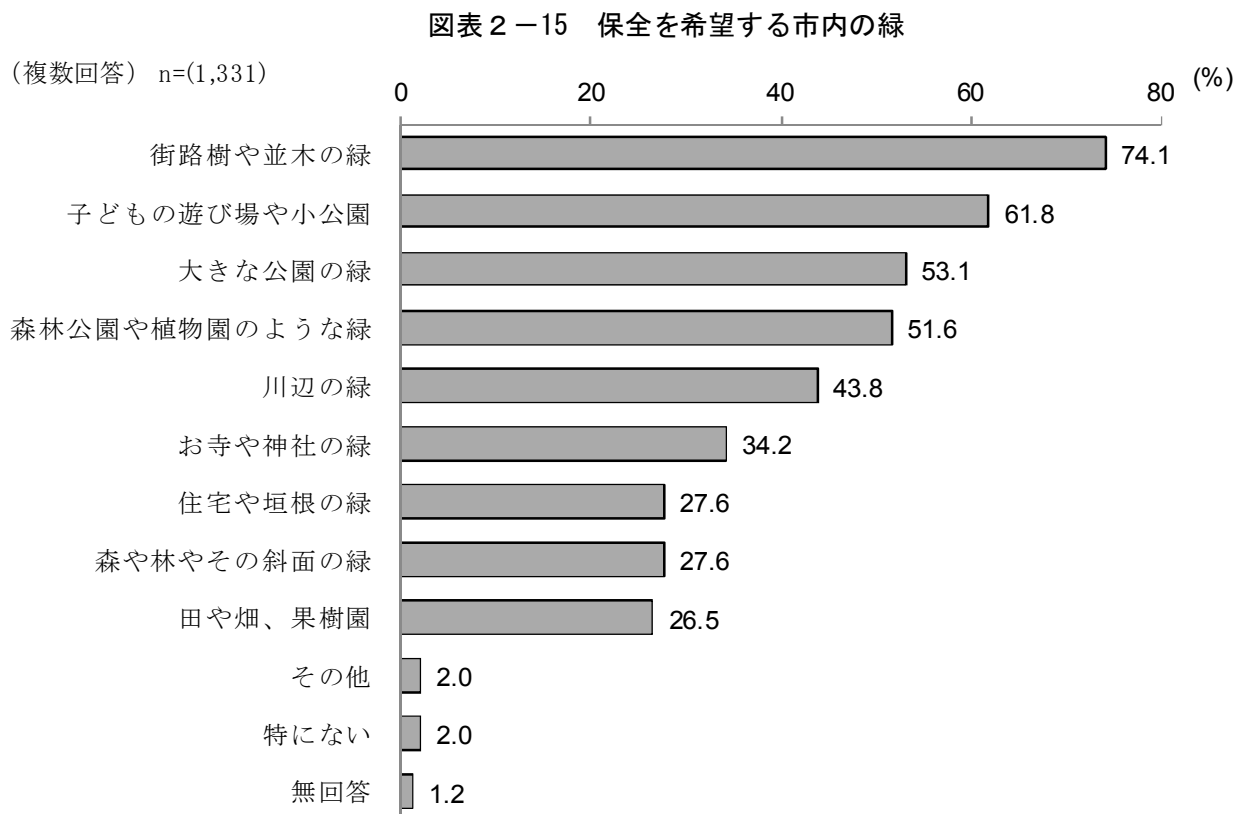
性／年齢別では、「活動の拠点となる施設・場所」は、20代男性を除き全ての年代で5割以上となっている。「活動するための費用の援助」は、男女共に40歳代で最も高い。

居住区別では、「活動の拠点となる施設・場所」が全ての区で5割を超えている。

2-7 保全を希望する市内の緑

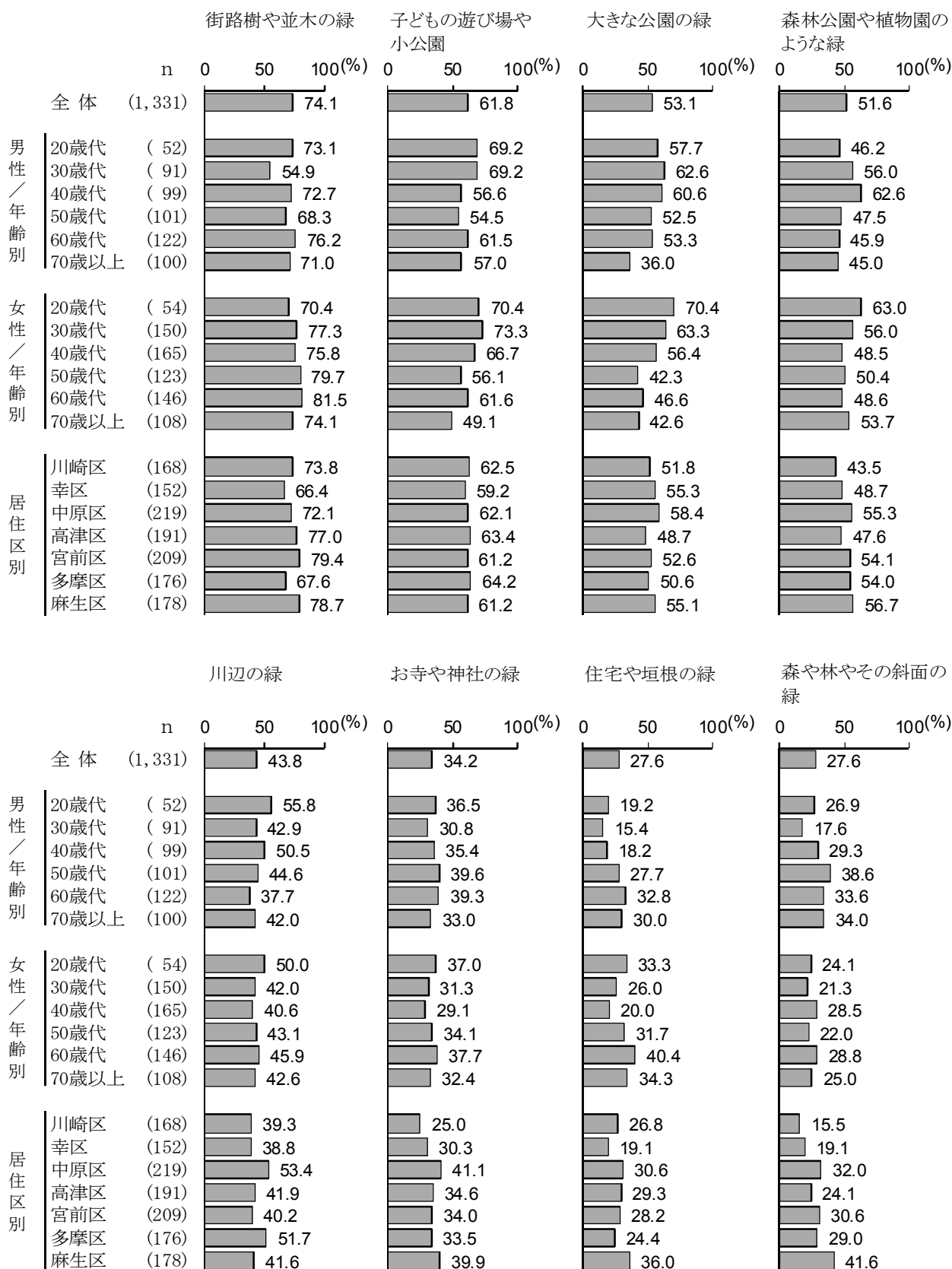
◎「街路樹や並木の緑」が74.1%

問13 あなたは市内のどのような緑が保全されることを望みますか。(あてはまるもの全てに○)



市内のどのような緑が保全されることを望むかについては、「街路樹や並木の緑」(74.1%)が最も高く、7割を超えている。次いで、「子供の遊び場や小公園」(61.8%)、「大きな公園の緑」(53.1%)の順となっている。

図表 2-16 保全を希望する市内の緑（性／年齢別・居住区別 上位 8 項目）



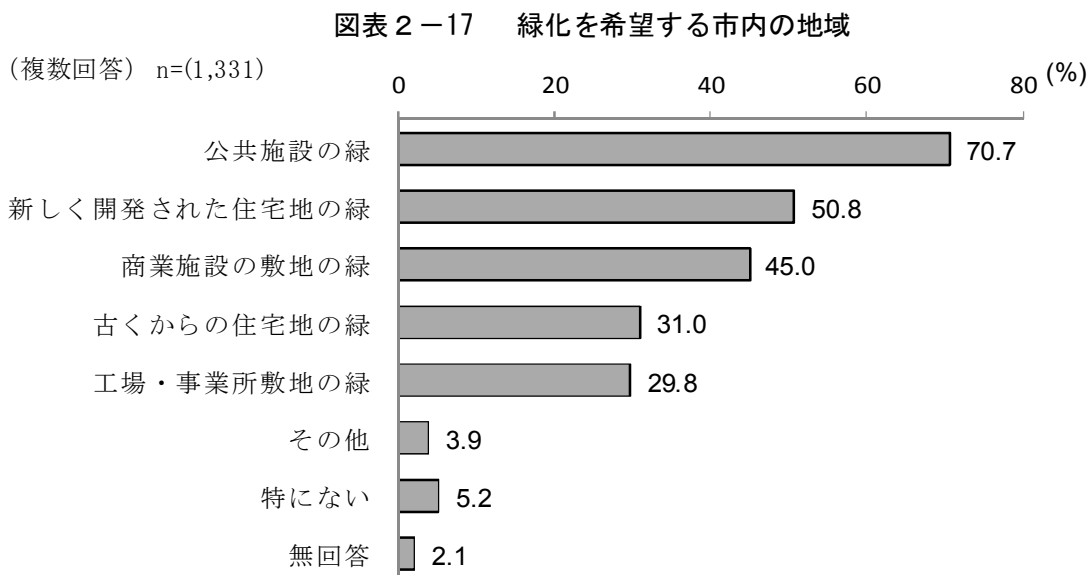
性／年齢別では、「子供の遊び場や小公園」、「大きな公園の緑」は、若い年代の割合が比較的高い。「森林公園や植物園のような緑」では、男性の40歳代（62.6%）、女性の20歳代（63.0%）が高い。

居住区別では、「川辺の緑」で、中原区（53.4%）と多摩区（51.7%）が高い。「森や林やその斜面の緑」では麻生区（41.6%）が高い。

2-8 緑化を希望する市内の地域

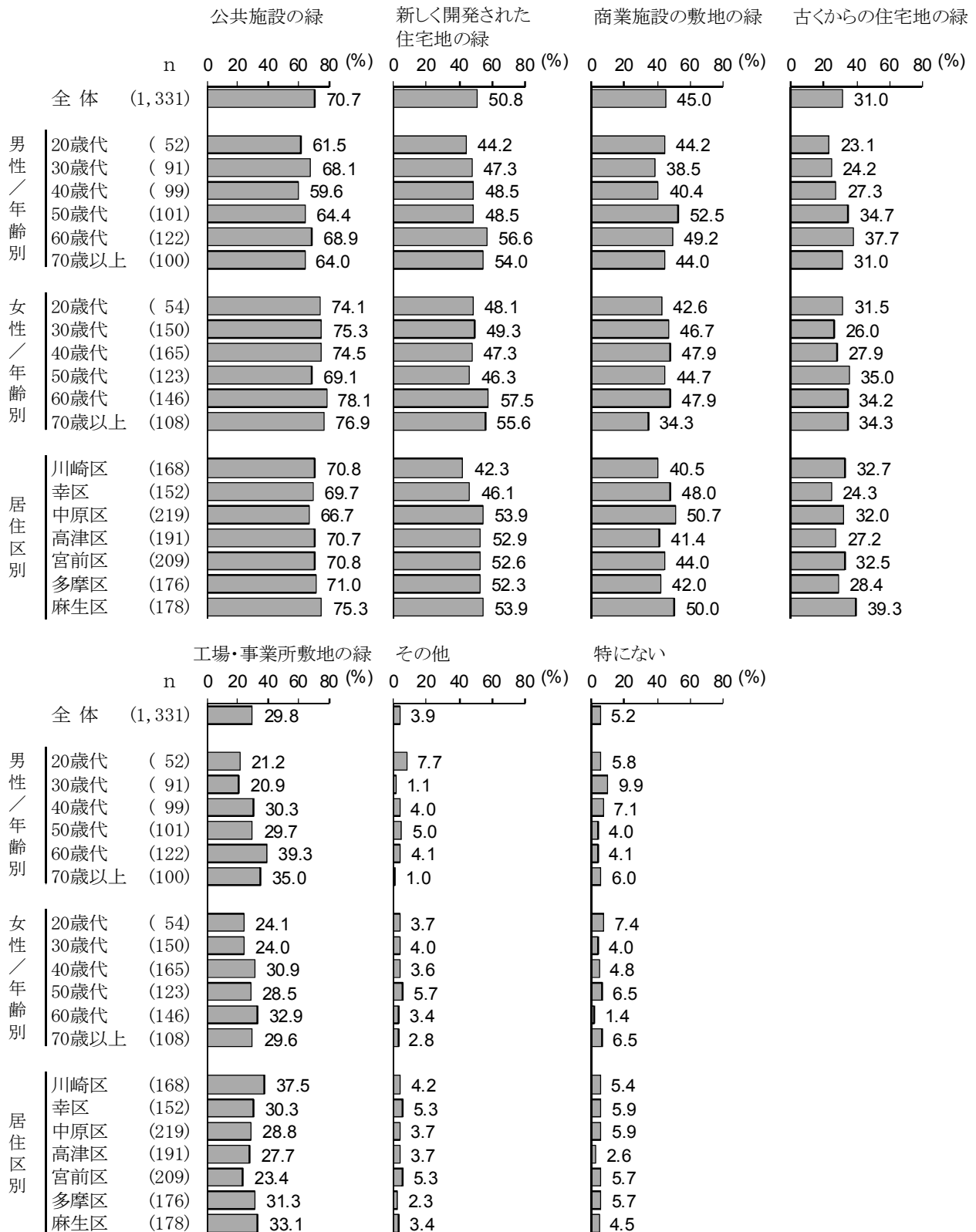
◎「公共施設の緑」が70.7%

問14 あなたは、市内のどのような地域が緑化されることを望みますか。(あてはまるもの全てに○)



市内のどのような地域が緑化されることを望むかについては、「公共施設の緑」(70.7%)が最も高く、7割を超えている。次いで、「新しく開発された住宅地の緑」(50.8%)、「商業施設の敷地の緑」(45.0%)の順となっている。

図表 2-18 緑化を希望する市内の地域（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「公共施設の緑」は、全ての年代で女性が男性より割合が高い。「新しく開発された住宅地の緑」は、男女ともに60歳代、70歳以上の割合が高く、5割を超えている。「商業施設の敷地の緑」では、男性の50歳代（52.5%）の割合が高く、5割を超えている。

居住区別では、「公共の施設の緑」が全ての年代で6割を超えており、麻生区（75.3%）が最も高い。

2-9 今後取り組むことができる緑の活動

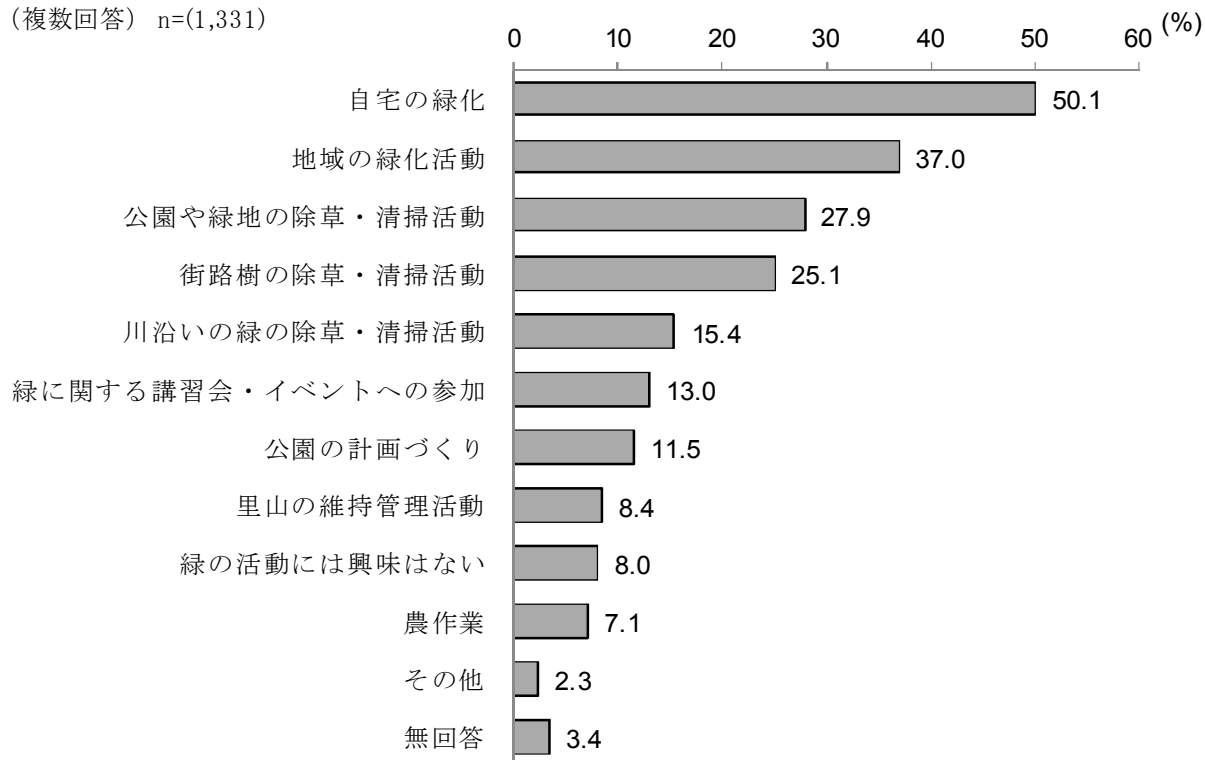
◎「自宅の緑化」が50.1%

問15 あなたは、今後、川崎市の緑について、どのような活動なら取り組むことができますか。

(あてはまるもの全てに○)

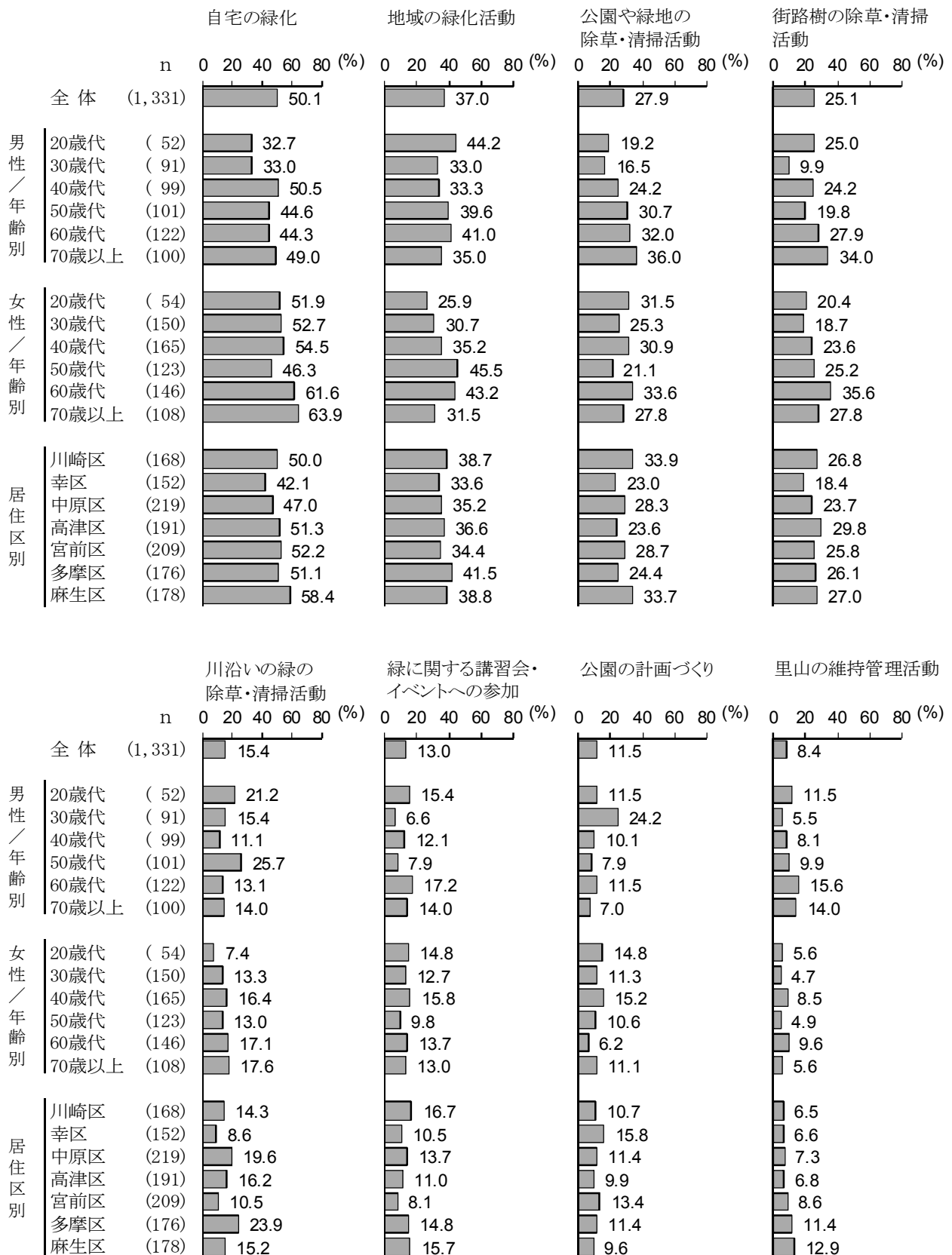
図表2-19 今後取り組むことができる緑の活動

(複数回答) n=(1,331)



今後、どのような活動なら取り組むことができるかについては、「自宅の緑化」(50.1%)が最も高く、次いで、「地域の緑化活動」(37.0%)、「公園や緑地の除草・清掃活動」(27.9%)の順となっている。

図表 2-20 今後取り組むことができる緑の活動（性／年齢別・居住区別 上位 8 項目）



性／年齢別では、「自宅の緑化」については、全ての年代で女性が男性より割合が高い。「公園の計画づくり」では、男性の30歳代（24.2%）の割合が高く、2割を超えている。

居住区別では、「自宅の緑化」については、麻生区（58.4%）、宮前区（52.2%）、高津区（51.3%）の順となっている。

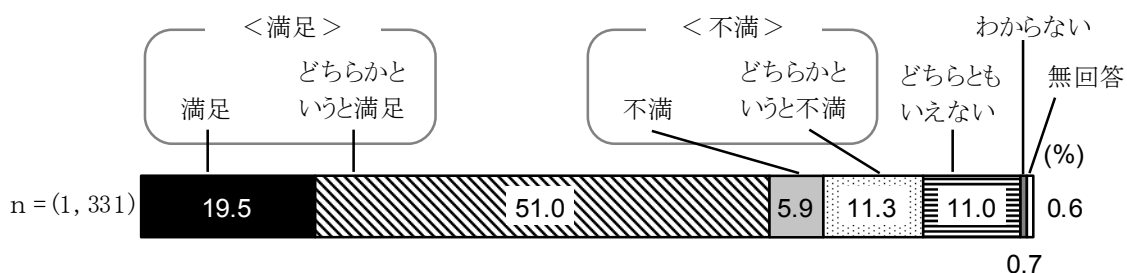
3 現在のお住まい周辺の住環境などについて

3-1 お住まい周辺の住環境の満足度

◎<満足>が70.5%

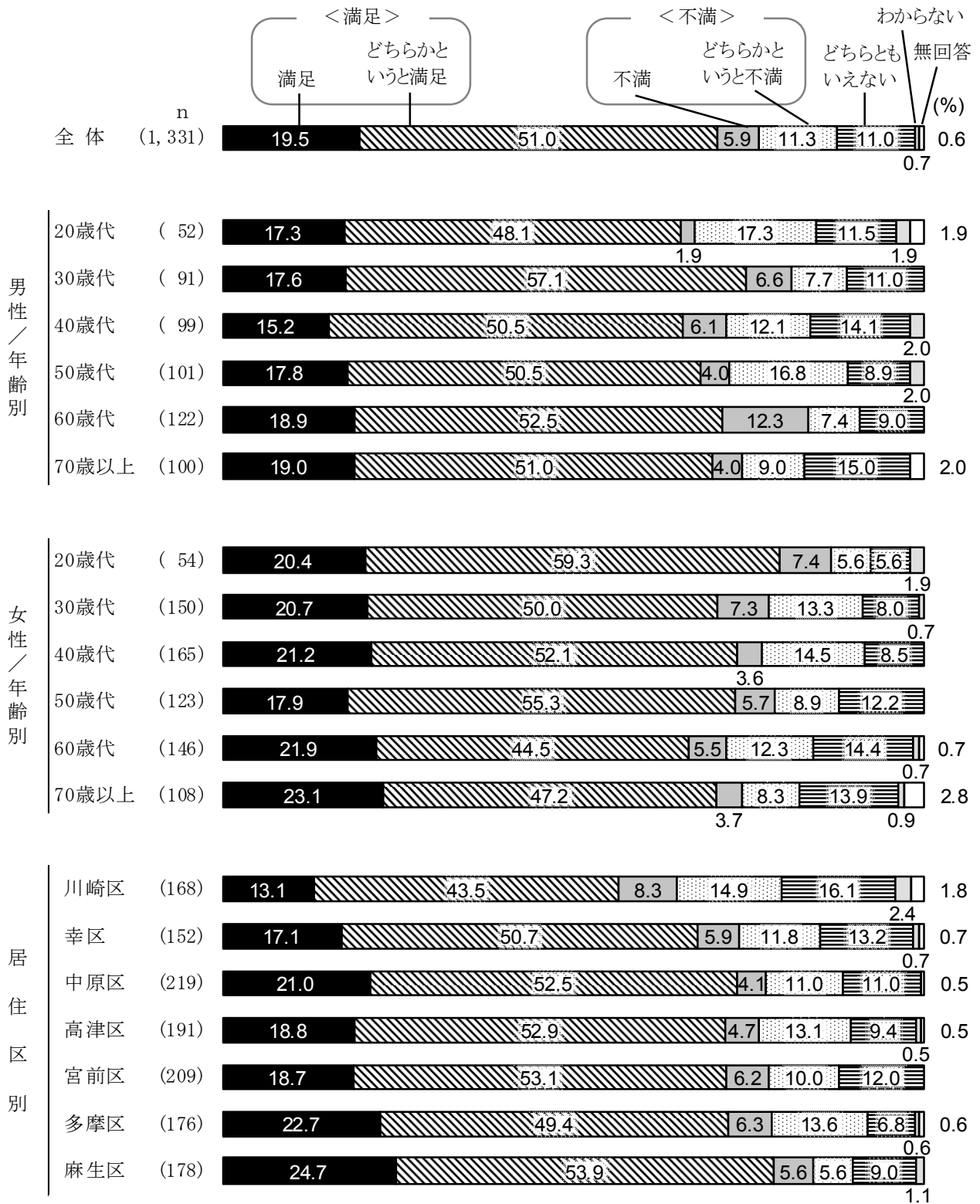
問17 あなたは、現在のお住まい周辺の住環境に満足していますか。(〇は1つだけ)

図表3-1 お住まい周辺の住環境の満足度



現在の住まい周辺の住環境について、「満足」(19.5%)と「どちらかという満足」(51.0%)を合わせた<満足>は70.5%となっている。一方、「不満」(5.9%)と「どちらかという不満」(11.3%)を合わせた<不満>は17.2%となっている。

図表3-2 お住まい周辺の住環境の満足度（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、＜満足＞は、男性では30歳代（74.7%）が最も高く、女性では20歳代（79.7%）が最も高い。一方、＜不満＞は、男性は50歳代（20.8%）が最も高く、女性は30歳代（20.6%）が最も高い。

居住区別では、＜満足＞は、麻生区（78.6%）が最も高い。次いで、中原区（73.5%）、多摩区（72.1%）の順となっている。一方、＜不満＞は、川崎区（23.2%）、多摩区（19.9%）、高津区（17.8%）の順となっている。

3-2 満足しているところ

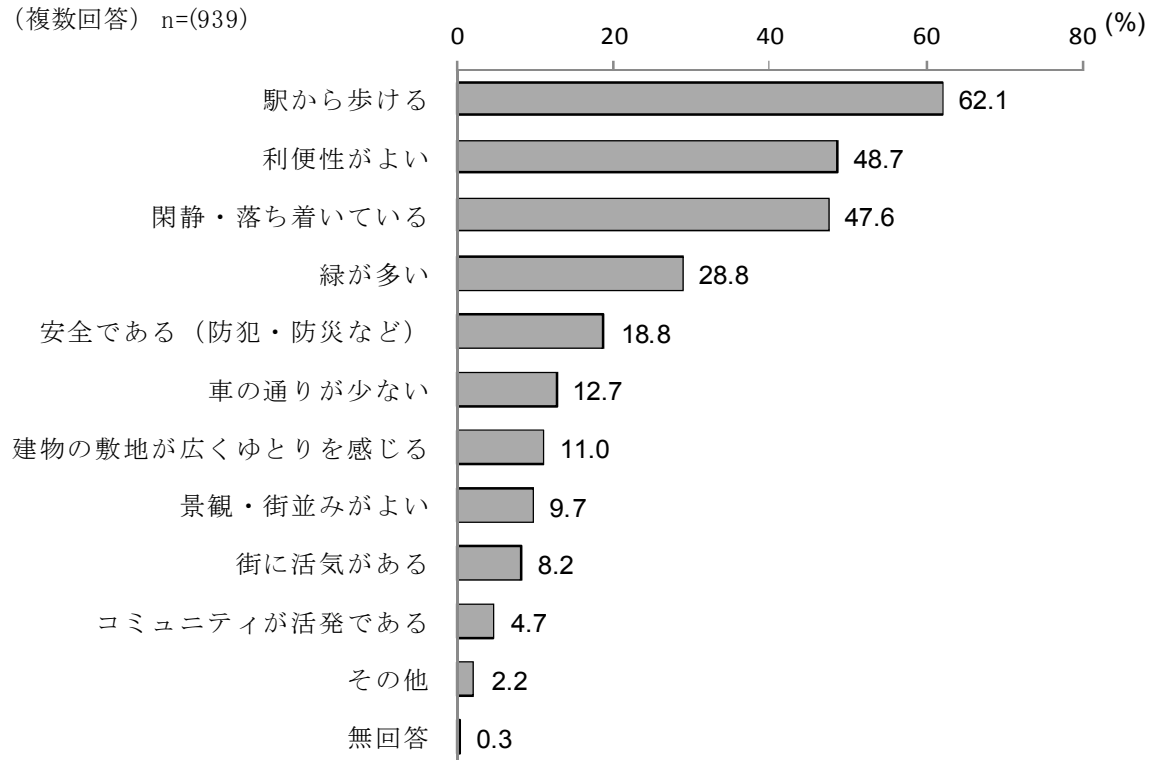
◎「駅から歩ける」が62.1%

問17で「1 満足」または「2 どちらかという満足」と回答された方にうかがいます。

問17-1 あなたは、どのようなところに満足していますか。(あてはまるもの3つまでに○)

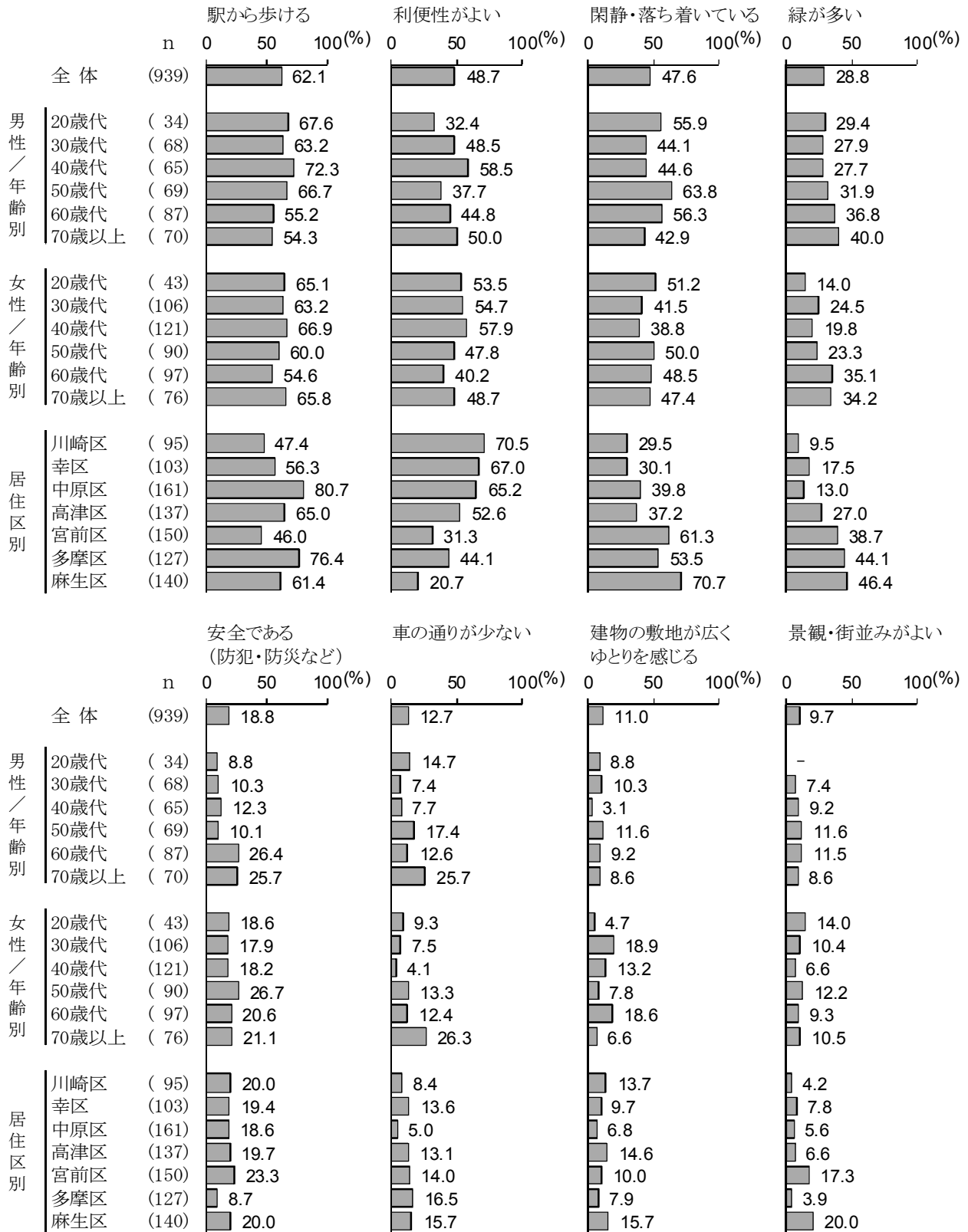
図表3-3 満足しているところ

(複数回答) n=(939)



満足しているところについては、「駅から歩ける」(62.1%)が最も高く、6割を超えている。次いで、「利便性がよい」(48.7%)、「閑静・落ち着いている」(47.6%)の順となっている。

図表3-4 満足しているところ（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「駅から歩ける」及び「利便性が良い」で、男女ともに40歳代の割合が最も高い。「閑静・落ち着いている」は、男性では50歳代、60歳代、女性では、20歳代と50歳代の割合が高い。居住区別では、「駅から歩ける」では、中原区（80.7%）、多摩区（76.4%）の順で割合が高く、7割を超えている。「利便性がよい」では、川崎区（70.5%）が最も高く7割を超えており、幸区（67.0%）、中原区（65.2%）が6割台で続いている。

3-3 不満なところ

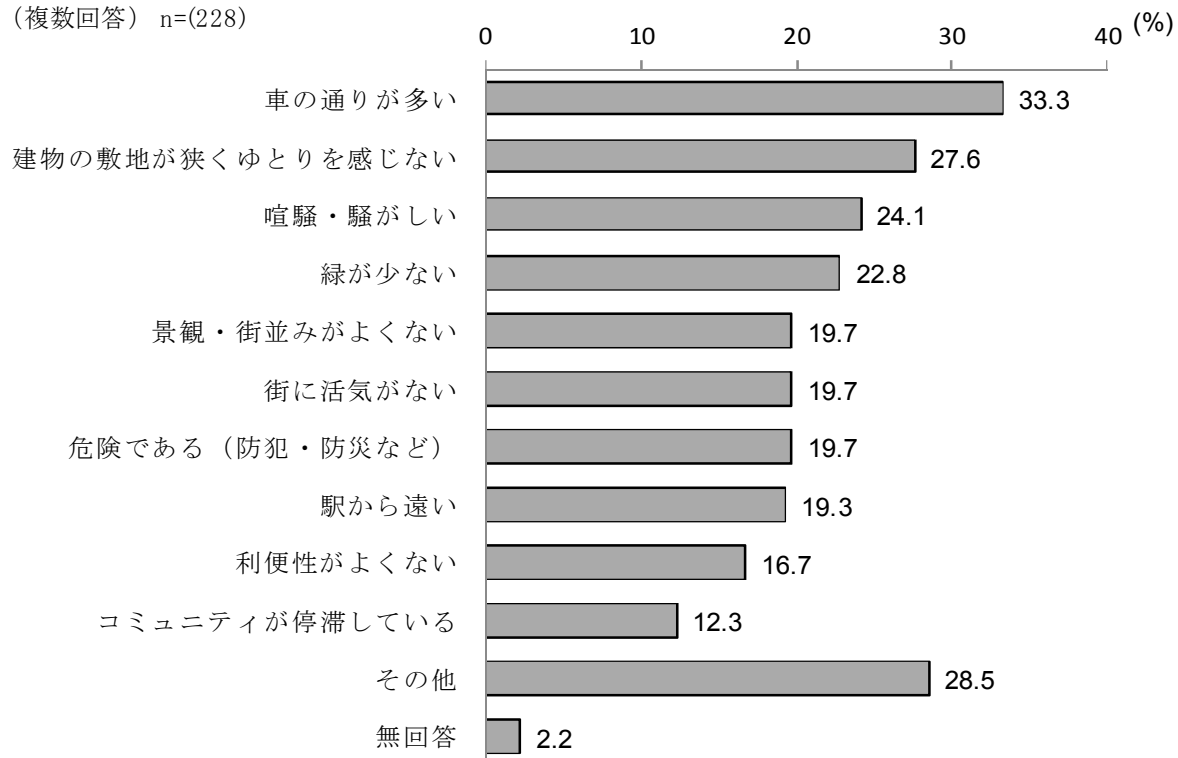
◎「車の通りが多い」が33.3%

問17で「3 不満」または「4 どちらかという不満」と回答された方にうかがいます。

問17-2 あなたは、どのようなところが不満ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

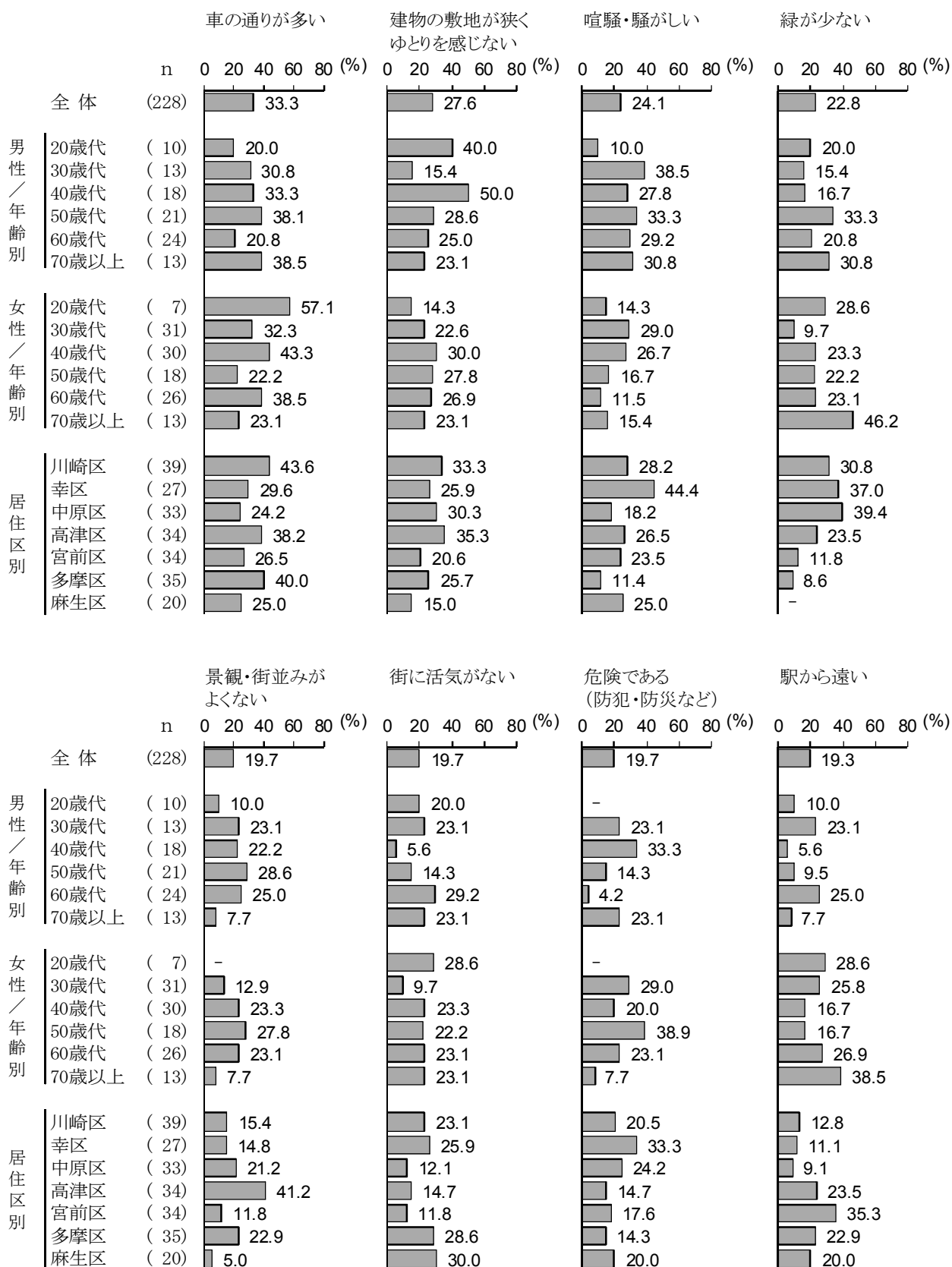
図表3-5 不満なところ

(複数回答) n=(228)



不満なところについては、「車の通りが多い」(33.3%)が最も高く、3割を超えている。次いで、「建物の敷地が狭くゆとりを感じない」(27.6%)、「喧騒・騒がしい」(24.1%)の順となっている。

図表3-6 不満なところ（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「車の通りが多い」は、女性20歳代（57.1%）、40歳代（43.3）の割合が高い。「建物の敷地が狭くゆとりを感じない」では、男性40歳代（50.0%）、20歳代（40.0%）の割合が高い。

居住区別では、「車の通りが多い」は、川崎区（43.6%）、多摩区（40.0%）の順で割合が高い。

3-4 良好な住環境づくりに重要だと思うこと

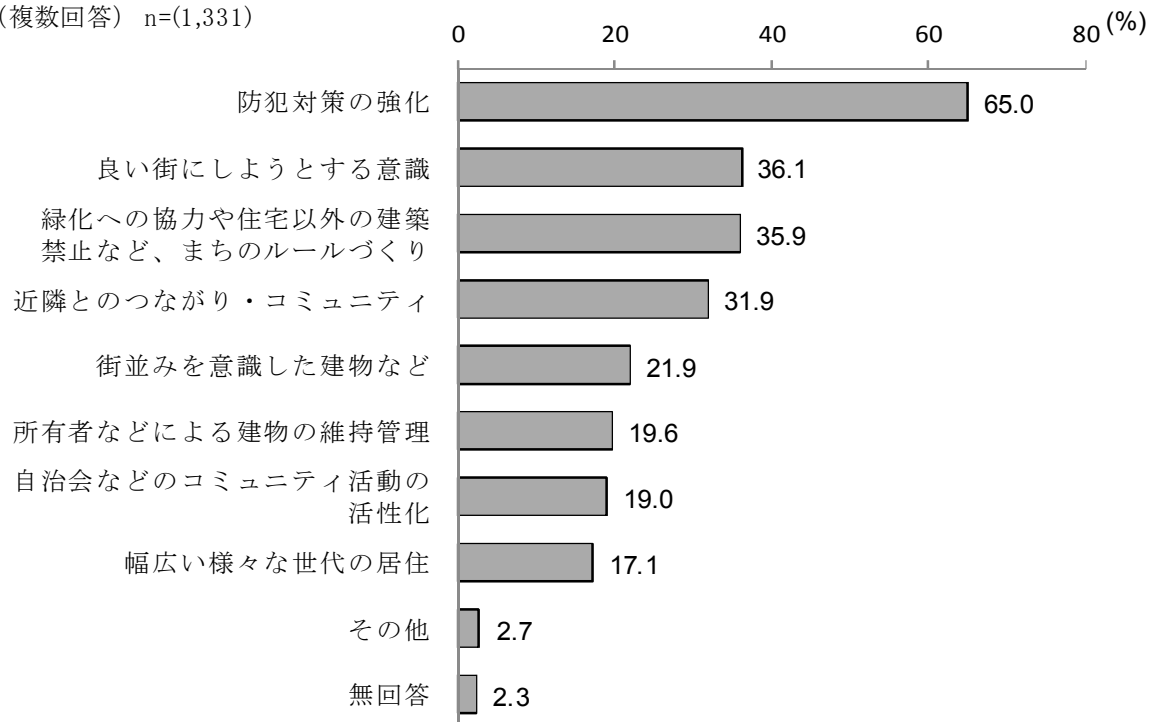
◎「防犯対策の強化」が65.0%

問18 あなたは、良好な住環境をつくるために重要だと思うことは何だと思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

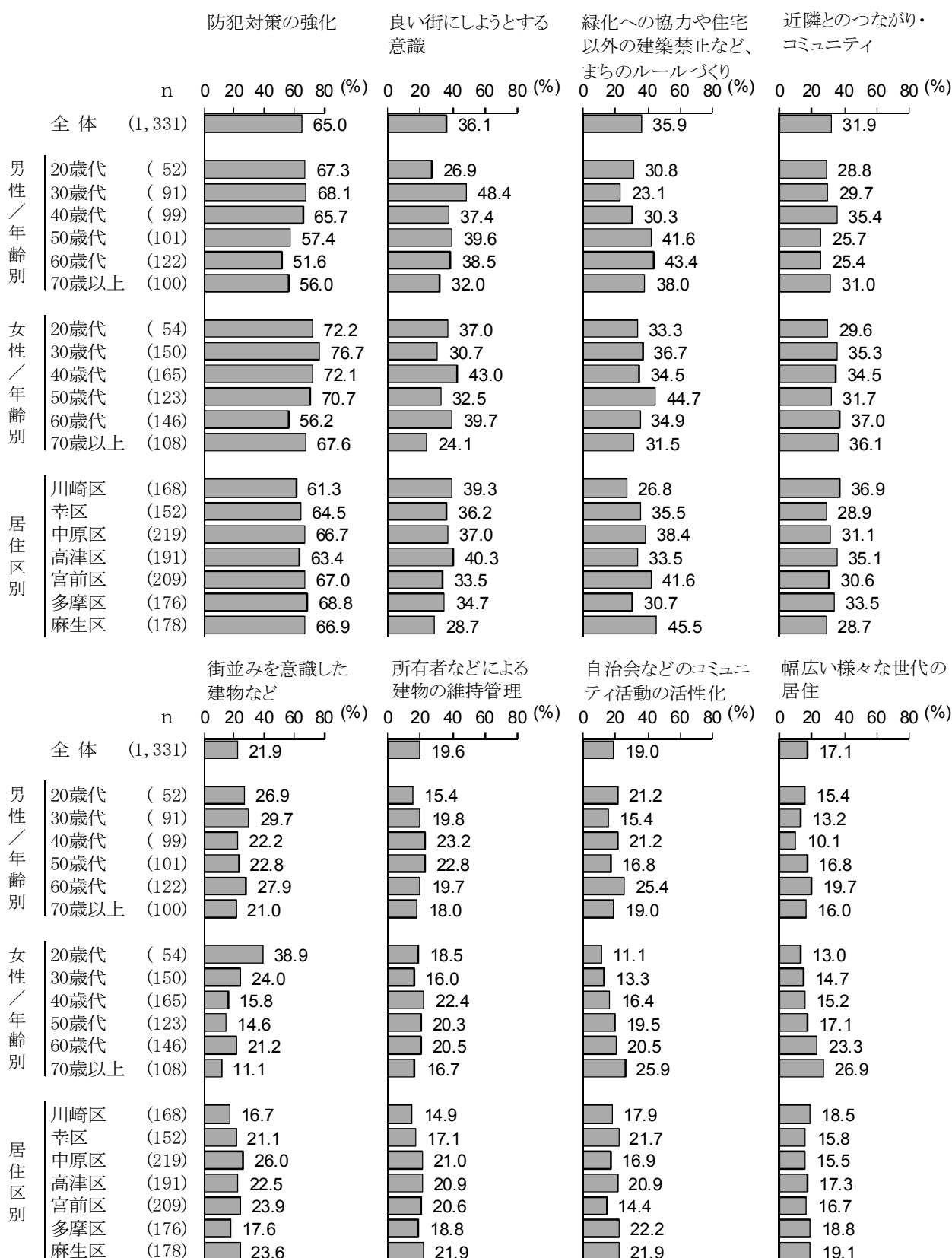
図表3-7 良好な住環境づくりに重要だと思うこと

(複数回答) n=(1,331)



良好な住環境をつくるために重要だと思うことについては、「防犯対策の強化」(65.0%)が最も高く、6割を超えている。次いで、「良い街にしようとする意識」(36.1%)、「緑化への協力や住宅以外の建築禁止など、まちのルールづくり」(35.9%)、「近隣とのつながり・コミュニティ」(31.9%)の順となっている。

図表3-8 良好な住環境づくりに重要だと思うこと（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「防犯対策の強化」は、性別、年齢を問わずに5割を超えている。「良い街にしようとする意識」は、男性では30歳代（48.4%）、女性では40歳代（43.0%）で最も高い。

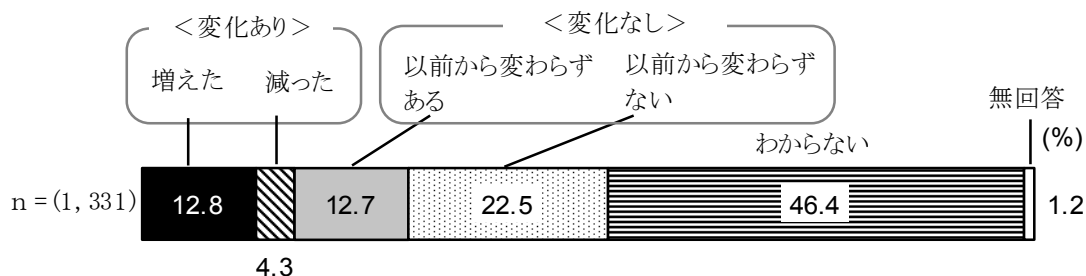
居住区別でも、「防犯対策の強化」は、区を問わず5割を超えている。「緑化への協力や住宅以外の建築禁止など、まちのルールづくり」では、麻生区（45.5%）、宮前区（41.6%）の順で高くなっており、4割を超えている。

3-5 近隣での空き家の状況変化

◎「増えた」が12.8%、「減った」が4.3%で<変化あり>が17.1%

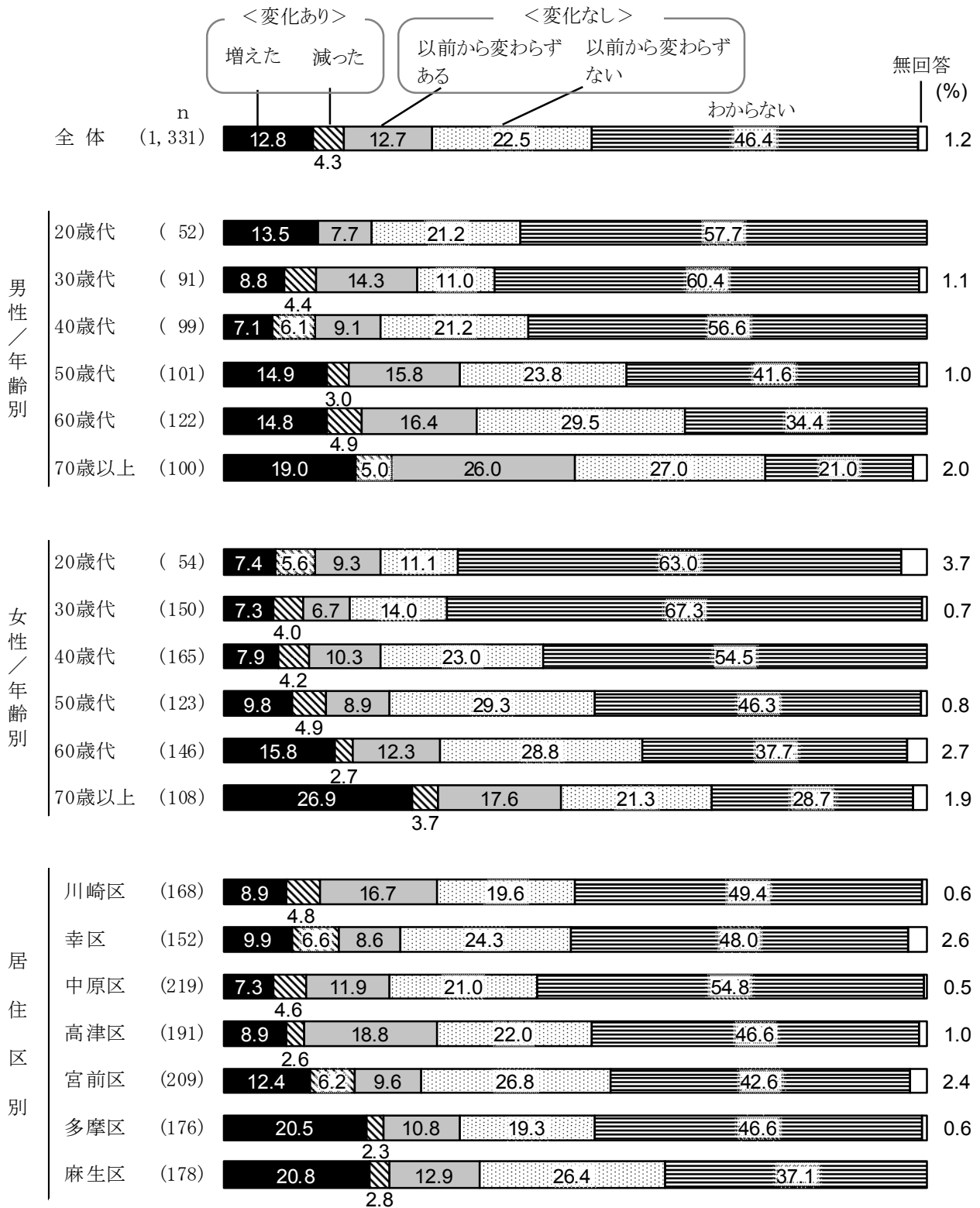
問19 あなたのお住いの近隣で、この数年間、空き家が増えたと思いますか。(〇は1つだけ)

図表3-9 近隣での空き家の状況変化



この数年で、近隣に空き家が増えたと思うかについて、「増えた」は12.8%、「減った」は4.3%となっており、「増えた」、「減った」を合わせた<変化あり>は、17.1%となっている。また、「以前から変わらずある」は12.7%、「以前から変わらずない」は22.5%となっており、「以前から変わらずある」と「以前から変わらずない」を合わせた<変化なし>は、35.2%となっている。

図表 3-10 近隣での空き家の状況変化（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、性別、年齢を問わず、「増えた」が「減った」を上回っている。また、性別を問わず、各年代とも、<変化なし>が<変化あり>を上回っている。

居住区別では、「増えた」が麻生区（20.8%）、多摩区（20.5%）で2割を超えている。また、全ての区で「増えた」が「減った」を上回っている。一方、各区とも、<変化なし>が<変化あり>を上回っている。

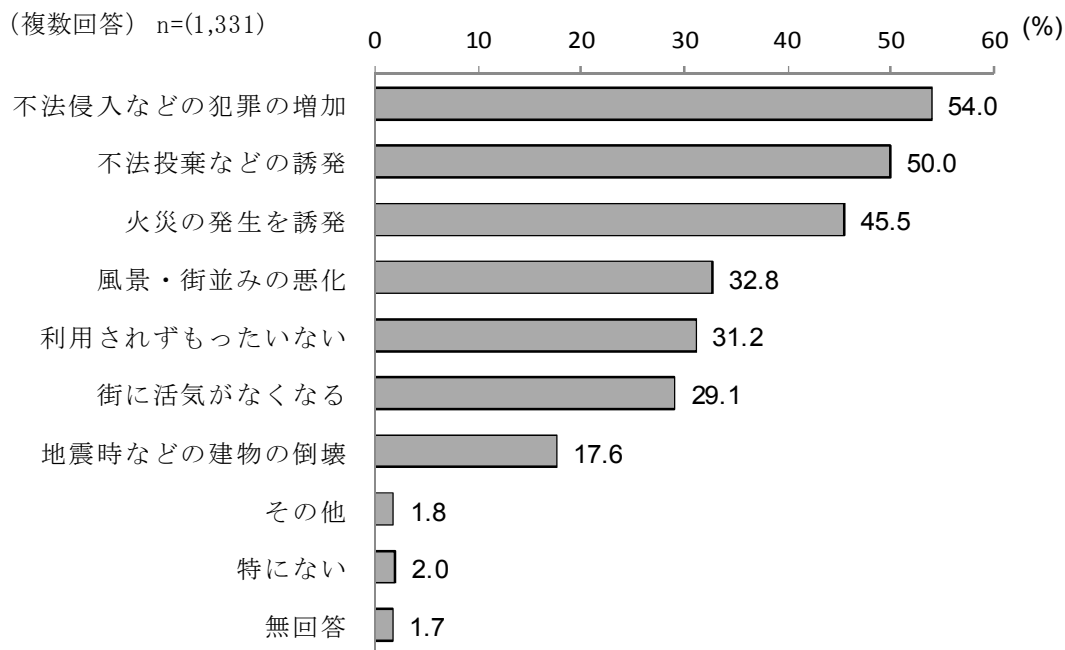
3-6 空き家の存在により生じる問題

◎「不法侵入などの犯罪の増加」が54.0%

問 20 あなたは空き家が存在することにより、どのような問題が生じるとお考えですか。

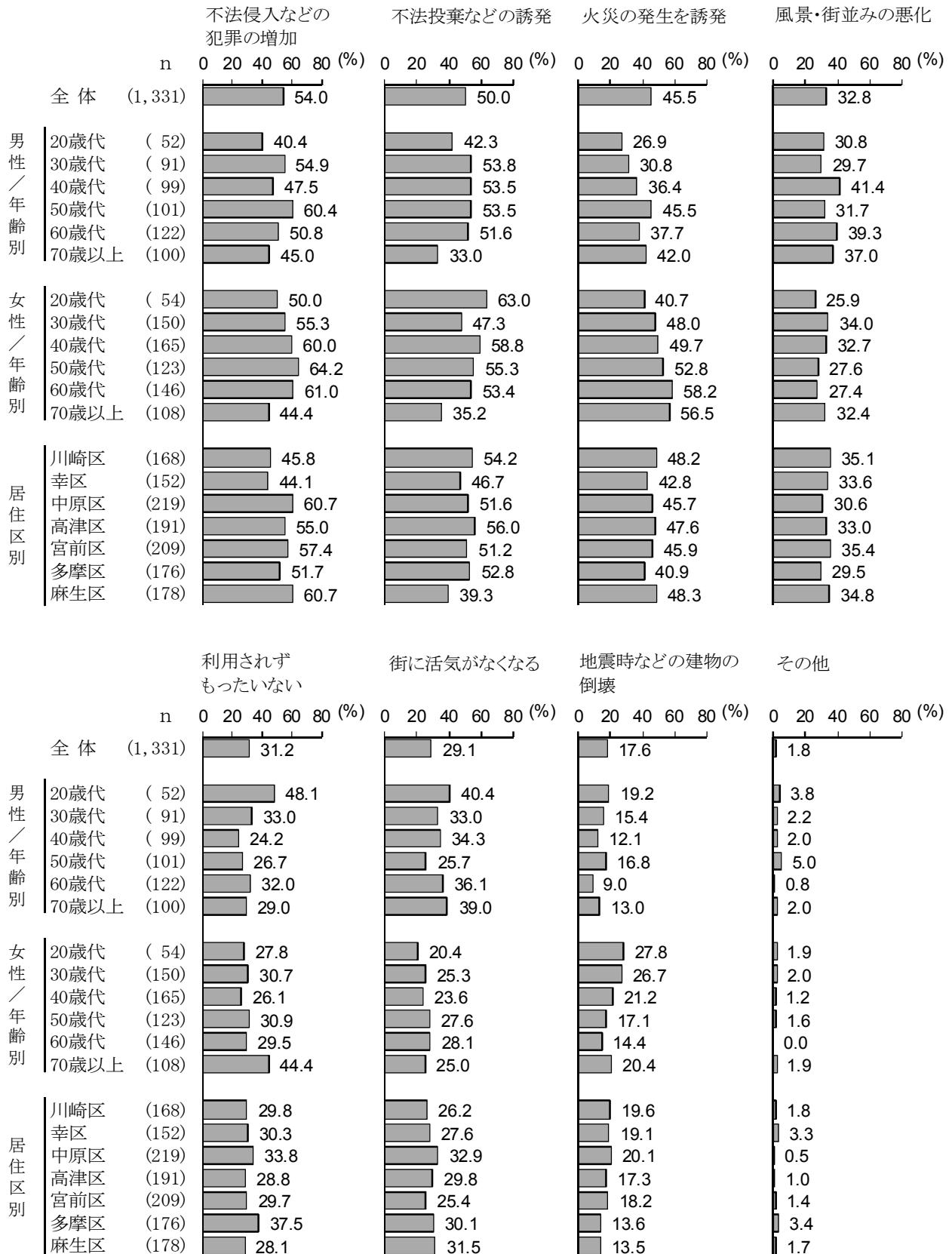
(あてはまるもの3つまでに○)

図表 3-11 空き家の存在により生じる問題



空き家が存在することにより生じる問題については、「不法侵入などの犯罪の増加」(54.0%)が最も高く、次いで、「不法投棄などの誘発」(50.0%)、「火災の発生を誘発」(45.5%)の順となっている。

図表3-12 空き家の存在により生じる問題（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「不法侵入などの犯罪の増加」では、男女とも50歳代で6割台と最も高い。「不法投棄の誘発」では、男女とも40歳代～60歳代で5割を超えている。

居住区別では、「不法侵入などの犯罪の増加」が中原区（60.7%）や麻生区（60.7%）で6割台にのぼっている。

3-7 空き家対策に必要なこと

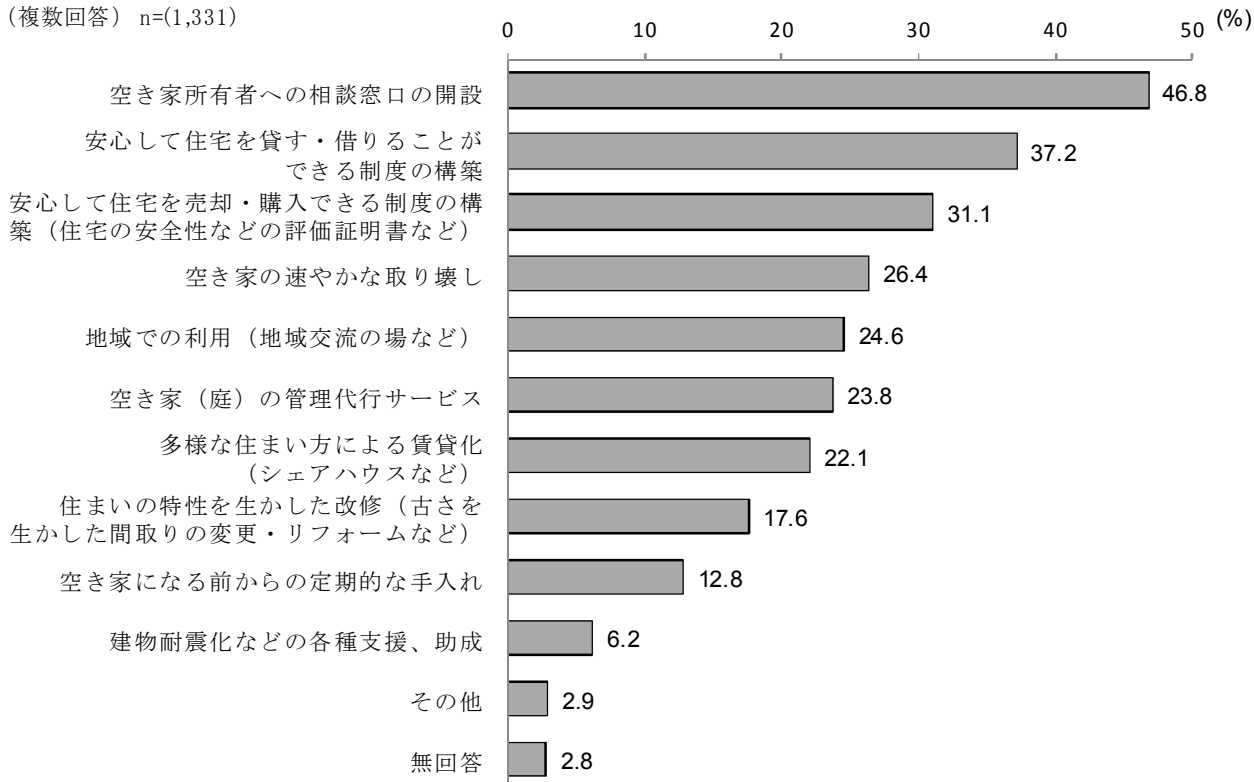
◎「空き家所有者への相談窓口の開設」が46.8%

問 21 あなたは、空き家対策として、どのようなことが必要であると思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

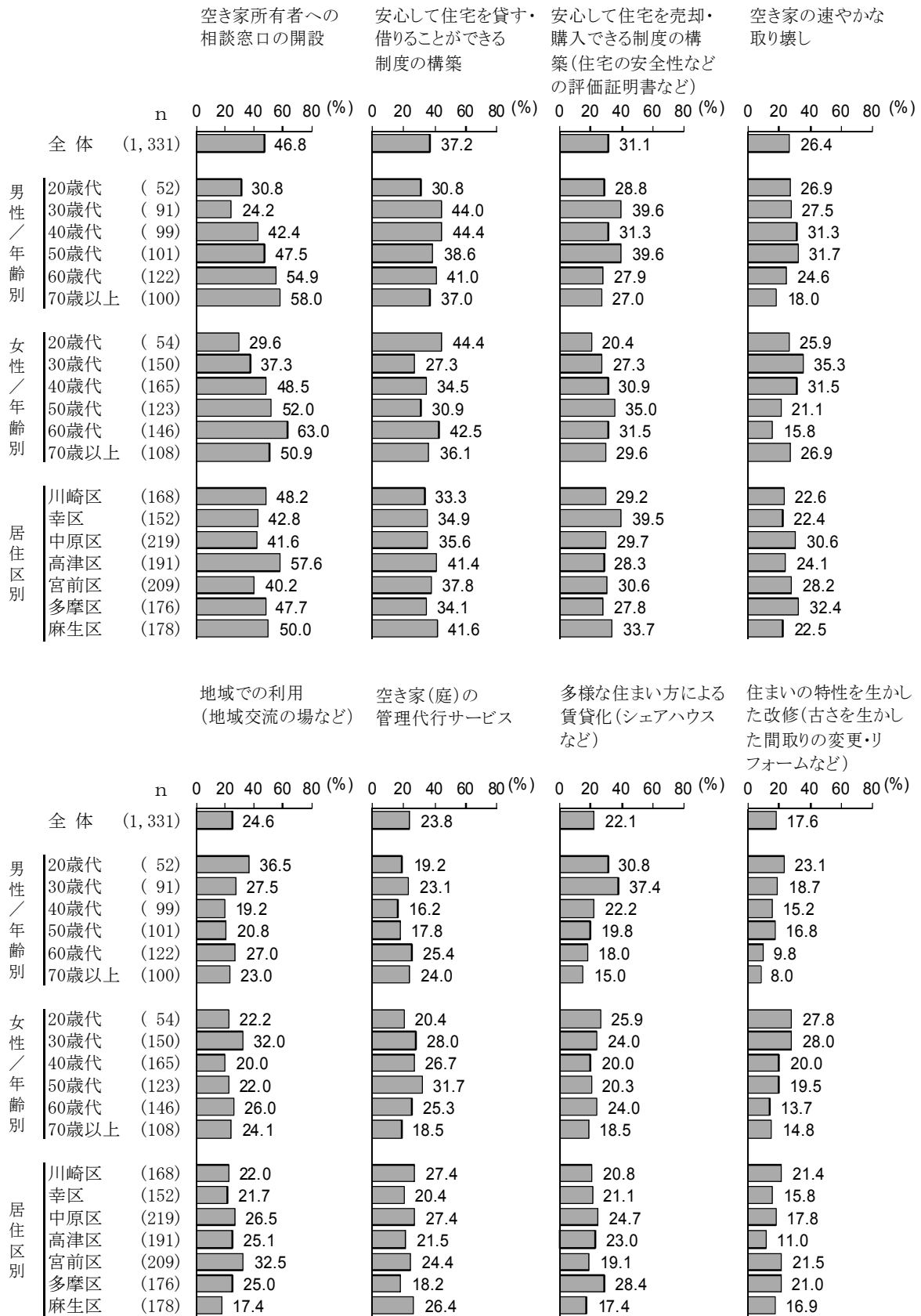
図表3-13 空き家対策に必要なこと

(複数回答) n=(1,331)



空き家対策として、必要であると思うことについては、「空き家所有者への相談窓口の開設」(46.8%)が最も高い。次いで、「安心して住宅を貸す・借りることができる制度の構築」(37.2%)、「安心して住宅を売却・購入できる制度の構築(住宅の安全性などの評価証明書など)」(31.1%)の順となっている。

図表3-14 空き家対策に必要なこと（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「空き家所有者への相談窓口の開設」では、男女とも年代が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向にある。

居住区別では、「空き家所有者への相談窓口の開設」は、高津区（57.6%）及び麻生区（50.0%）で5割を超えている。

4 市民の防災意識について

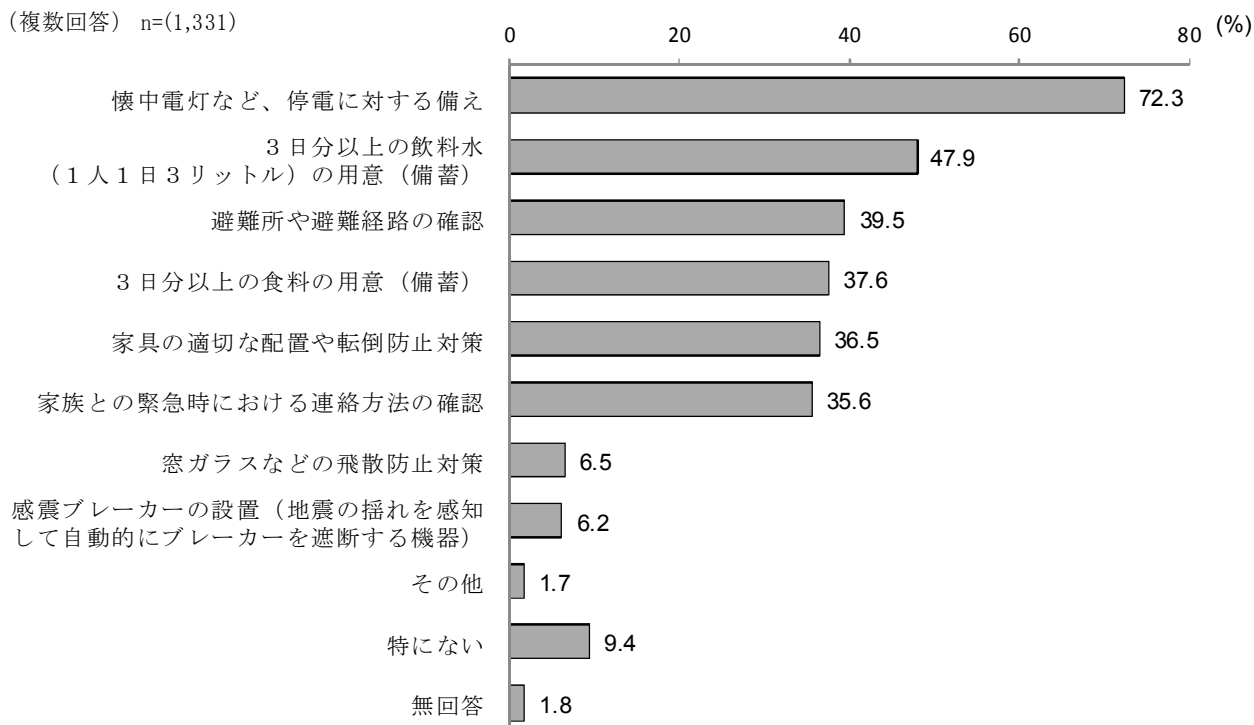
4-1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

◎「懐中電灯など、停電に対する備え」が72.3%

問 22 現在、大地震などの大規模な災害に備えるため、あなたの家庭内で行っている取組は何ですか。
(あてはまるもの全てに○)

図表 4-1 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

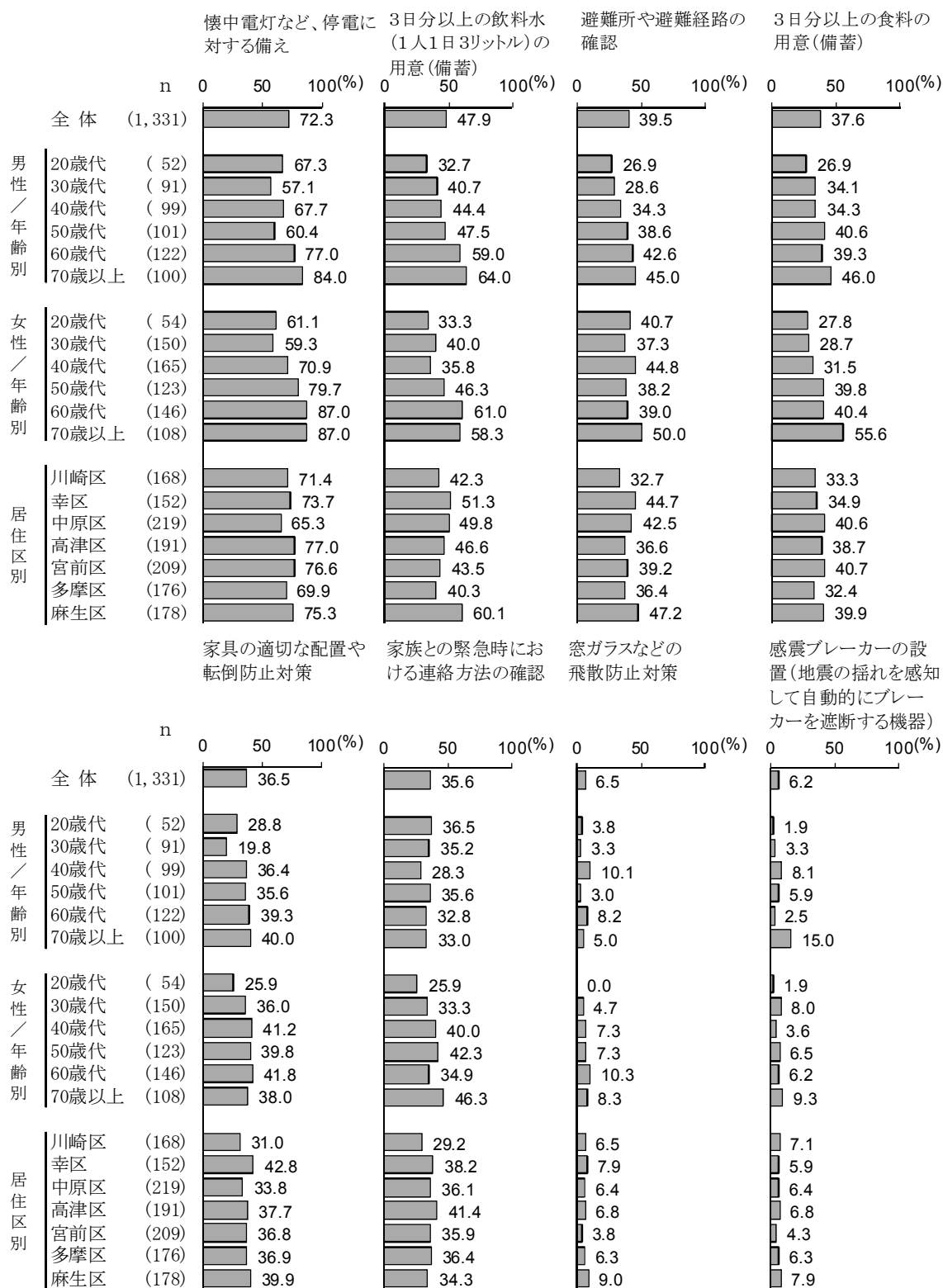
(複数回答) n=(1,331)



大規模な災害に備えて、家庭で行なっている取組については、「懐中電灯など、停電に対する備え」(72.3%)が最も高く、7割台となっている。次いで、「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(47.9%)、「避難所や避難経路の確認」(39.5%)の順となっている。

図表4-2 大地震など大規模な災害に備えるための家庭内の取組

(性/年齢別・居住区別 上位8項目)



性/年齢別では、「懐中電灯など、停電に対する備え」は、年齢が高くなるにつれて、割合が高くなる傾向となっている。「3日分以上の飲料水 (1人1日3リットル) の用意 (備蓄)」は、男性の70歳以上 (64.0%)、女性の60歳代 (61.0%) が最も高い。

居住区別では、「懐中電灯など、停電に対する備え」は、全ての区で6割を超えている。「3日分以上の飲料水 (1人1日3リットル) の用意 (備蓄)」は、麻生区 (60.1%) で6割を超えている。

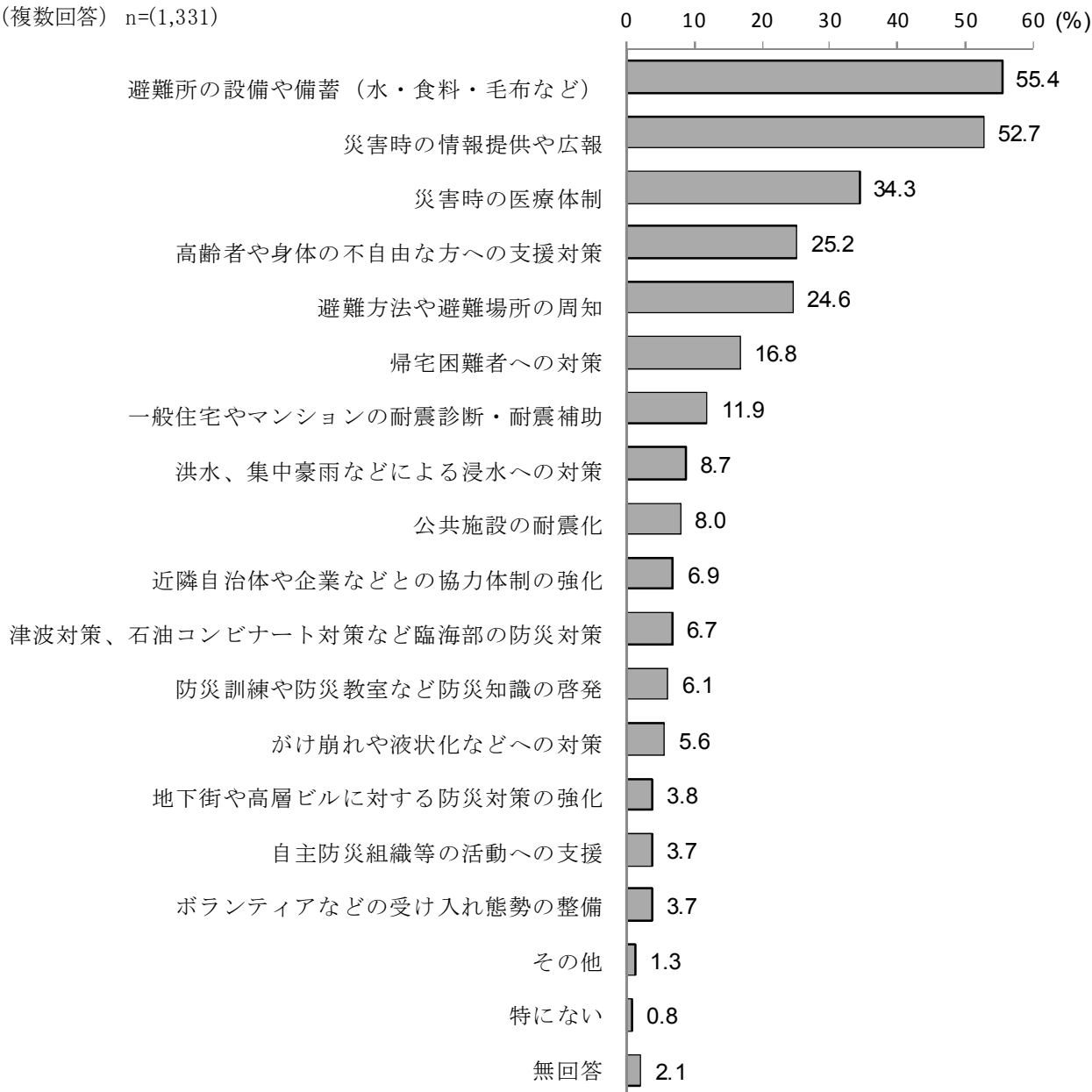
4-2 防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと

◎「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」が55.4%

問 23 あなたが、防災対策について行政に特に力をいれてもらいたいことは何ですか。

図表 4-3 防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと

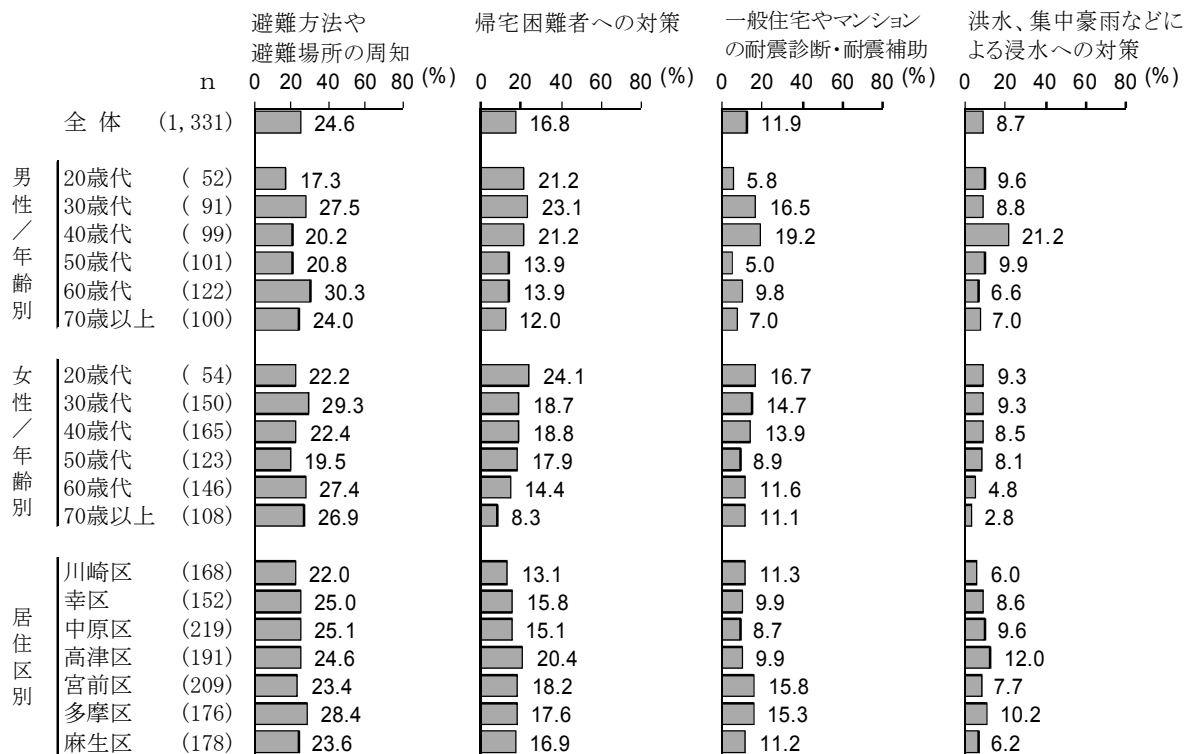
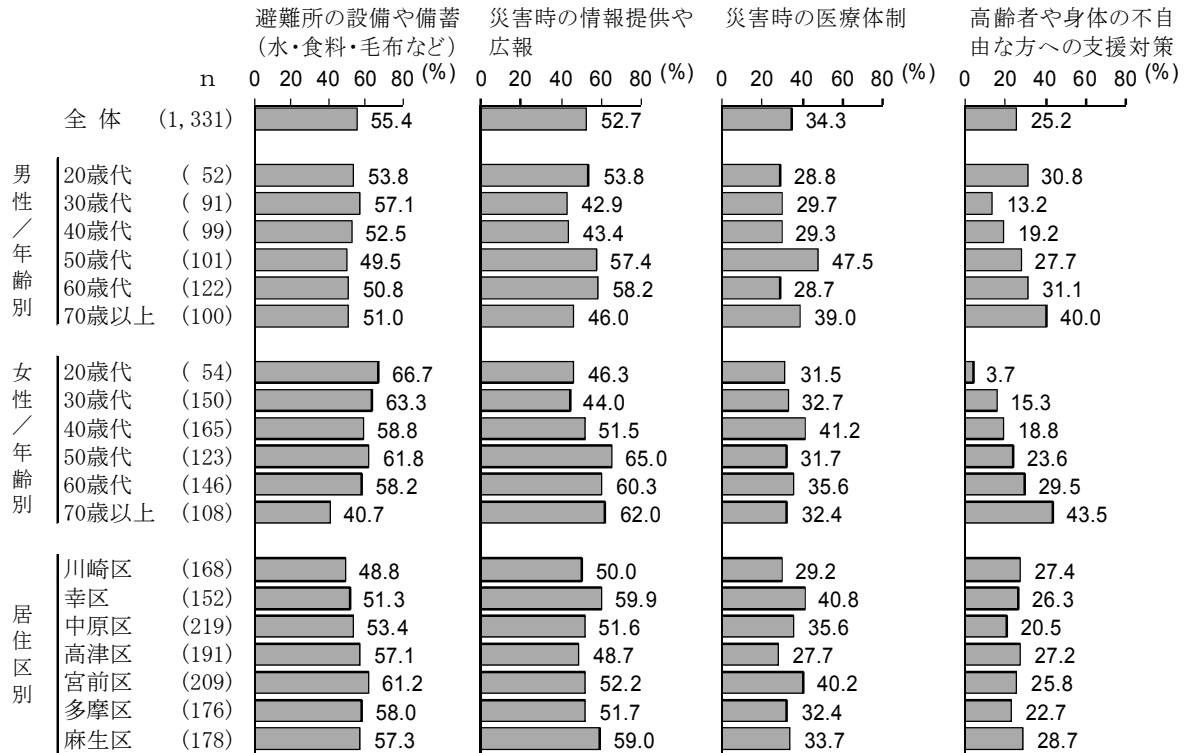
(複数回答) n=(1,331)



防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいことは、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」（55.4%）と、「災害時の情報提供や広報」（52.7%）が5割台と高い。次いで、「災害時の医療体制」（34.3%）、「高齢者や身体の不自由な方への支援対策」（25.2%）、「避難方法や避難場所の周知」（24.6%）の順となっている。

図表4-4 防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいこと

(性/年齢別・居住区別 上位8項目)



性/年齢別では、「避難所の設備や備蓄 (水・食料・毛布など)」は、女性の20歳代 (66.7%)、30歳代 (63.3%) で、特に割合が高い。「災害時の情報提供や広報」は、女性の50歳代~70歳以上で高く、6割を超えている。

居住区別では、「災害時の情報提供や広報」は、幸区 (59.9%) と麻生区 (59.0%) で、約6割と高い。

4-3 川崎市の災害情報の入手手段

◎「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」を知っている人が49.7%、実際に入手したことがある人は42.9%

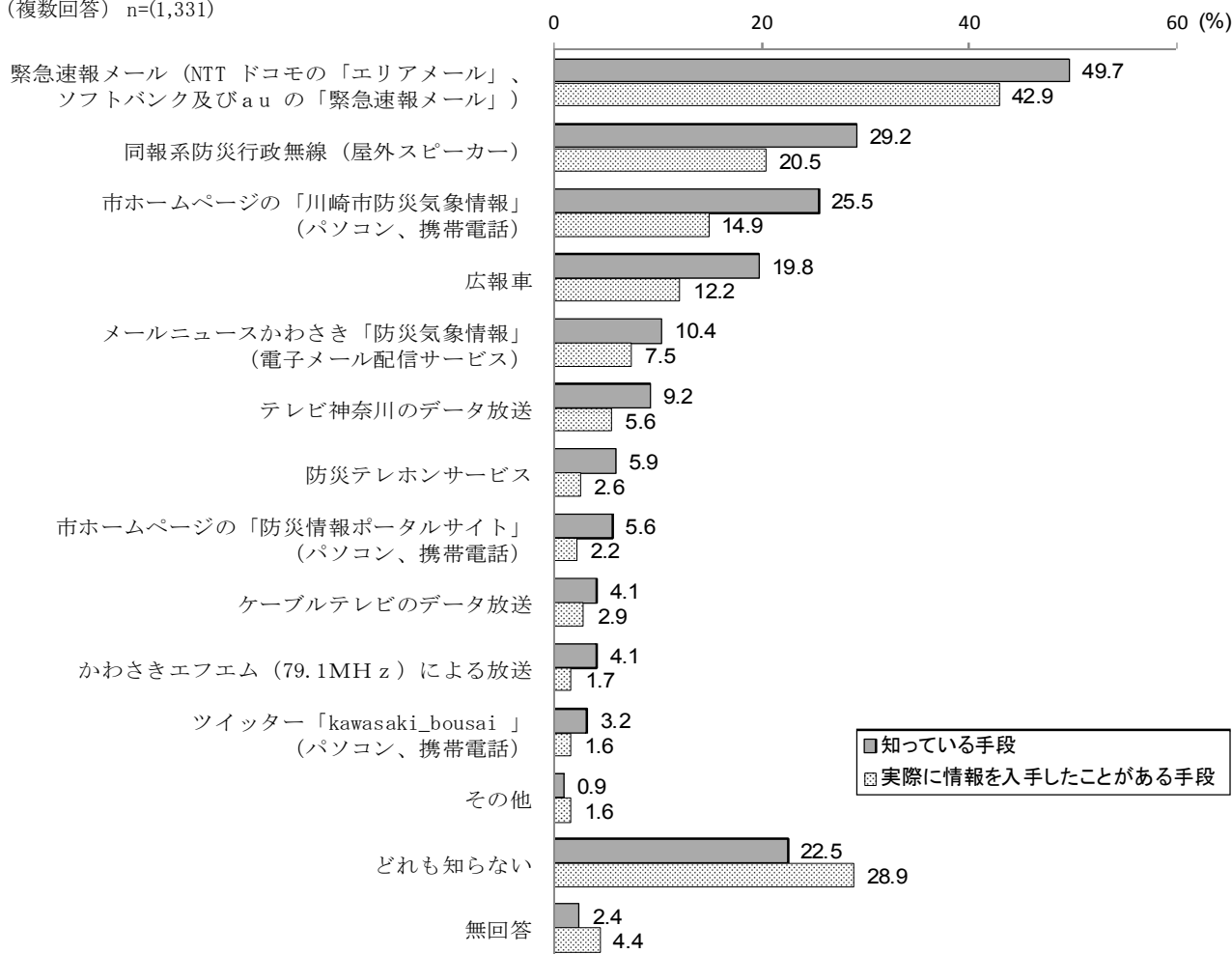
問24 本市では、災害に関する情報を様々な手段を用いて提供しています。

(1) あなたは、次の手段で提供していることを知っていますか。(あてはまるもの全てに○)

(2) あなたは、どの手段で情報を入手したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

図表4-5 災害に関する情報提供手段の認知度

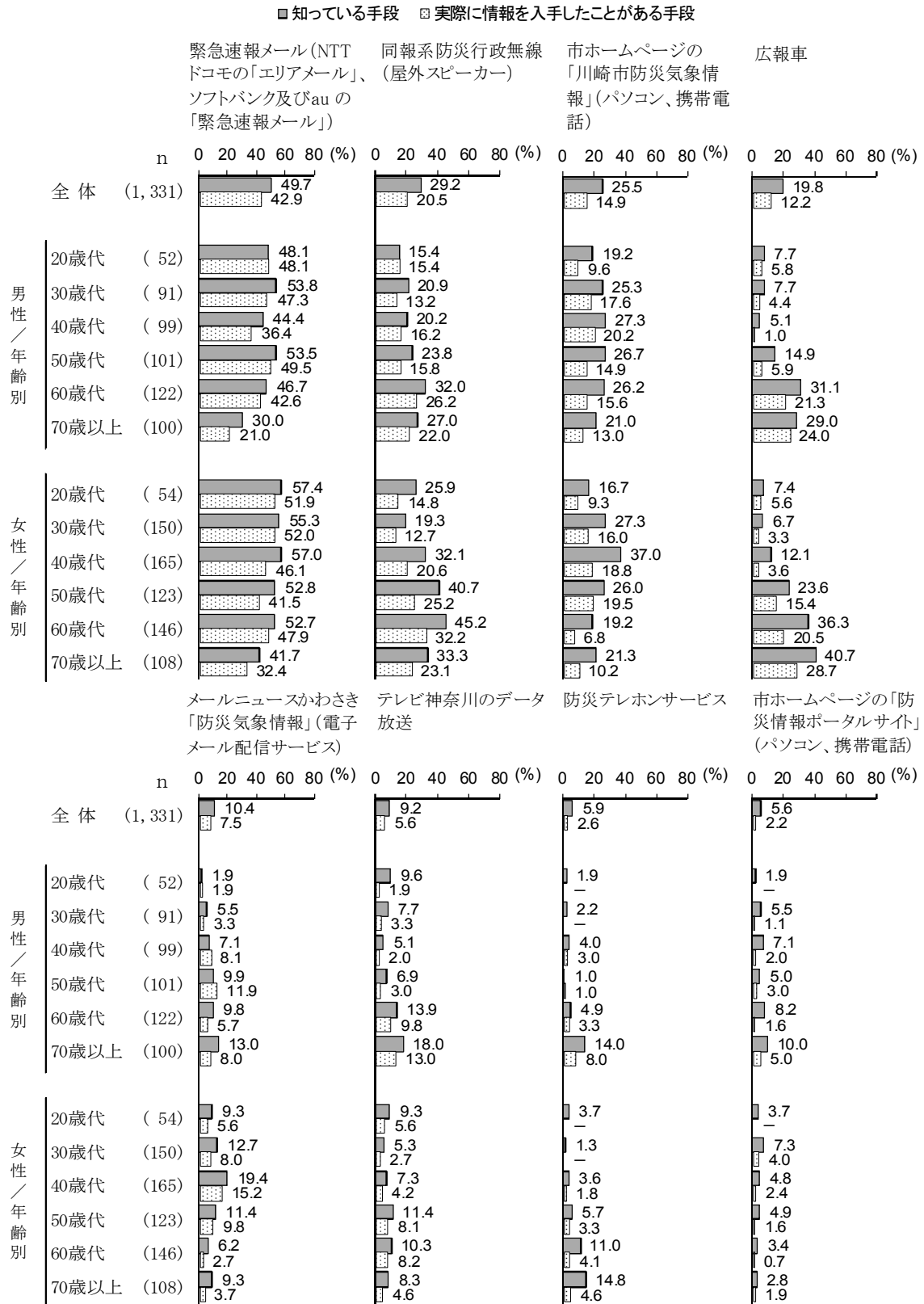
(複数回答) n=(1,331)



川崎市からの災害に関する情報手段のうち、知っている手段については、「緊急速報メール（NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」(49.7%)が約5割と、最も高い。次いで、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」(29.2%)、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」」(25.5%)の順となっている。

実際に情報を入手したことがある手段については、「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」(42.9%)が4割台と最も高い。次いで、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」(20.5%)、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」（パソコン、携帯電話）」(14.9%)の順となっている。

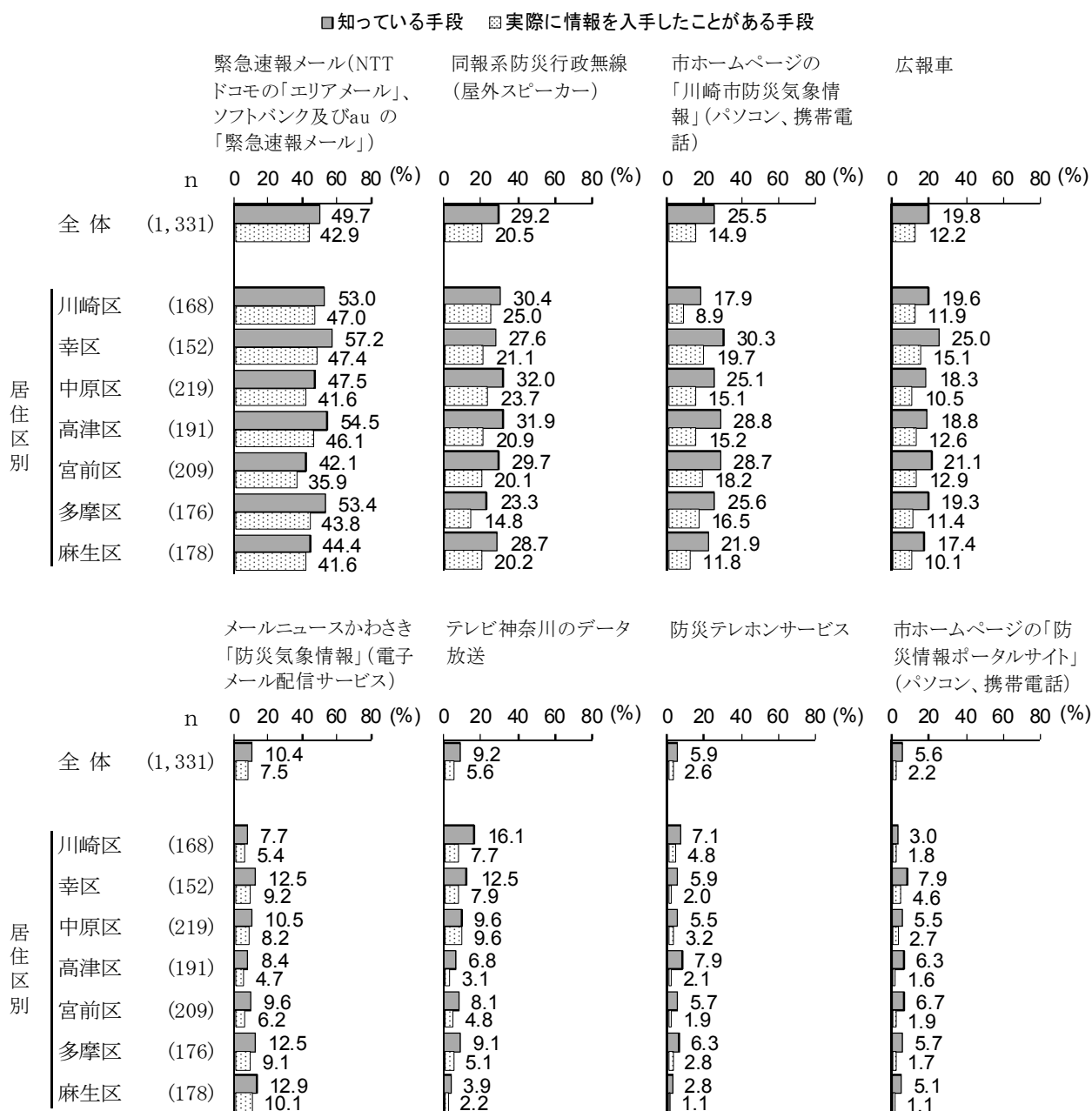
図表4-6 災害に関する情報提供手段の認知度（性／年齢別 上位8項目）



知っている手段を性／年齢別で見ると、「緊急速報メール（NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」は、70歳以上の男性（30.0%）、女性（41.7%）で割合が低い。

実際に情報を入手したことがある手段を性／年齢別で見ると、「緊急速報メール（NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」は、70歳以上の男性（21.0%）、女性（32.4%）で、割合が低い。「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」は、60歳代の男性（26.2%）、女性（32.2%）で最も高い。

図表4-7 災害に関する情報の入手手段（居住区別 上位8項目）



知っている手段を居住区別で見ると、「緊急速報メール（NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」は、幸区（57.2%）が最も高く、次いで、高津区（54.5%）、多摩区（53.4%）の順となっている。

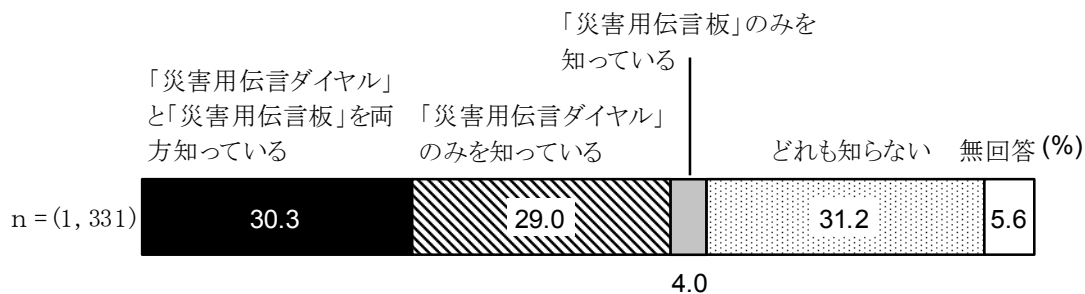
実際に情報を入手したことがある手段を居住区別で見ると、「緊急速報メール（NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」）」は、幸区（47.4%）が最も高く、次いで、川崎区（47.0%）、高津区（46.1%）の順になっている。

4-4 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度

◎ 『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は30.3%

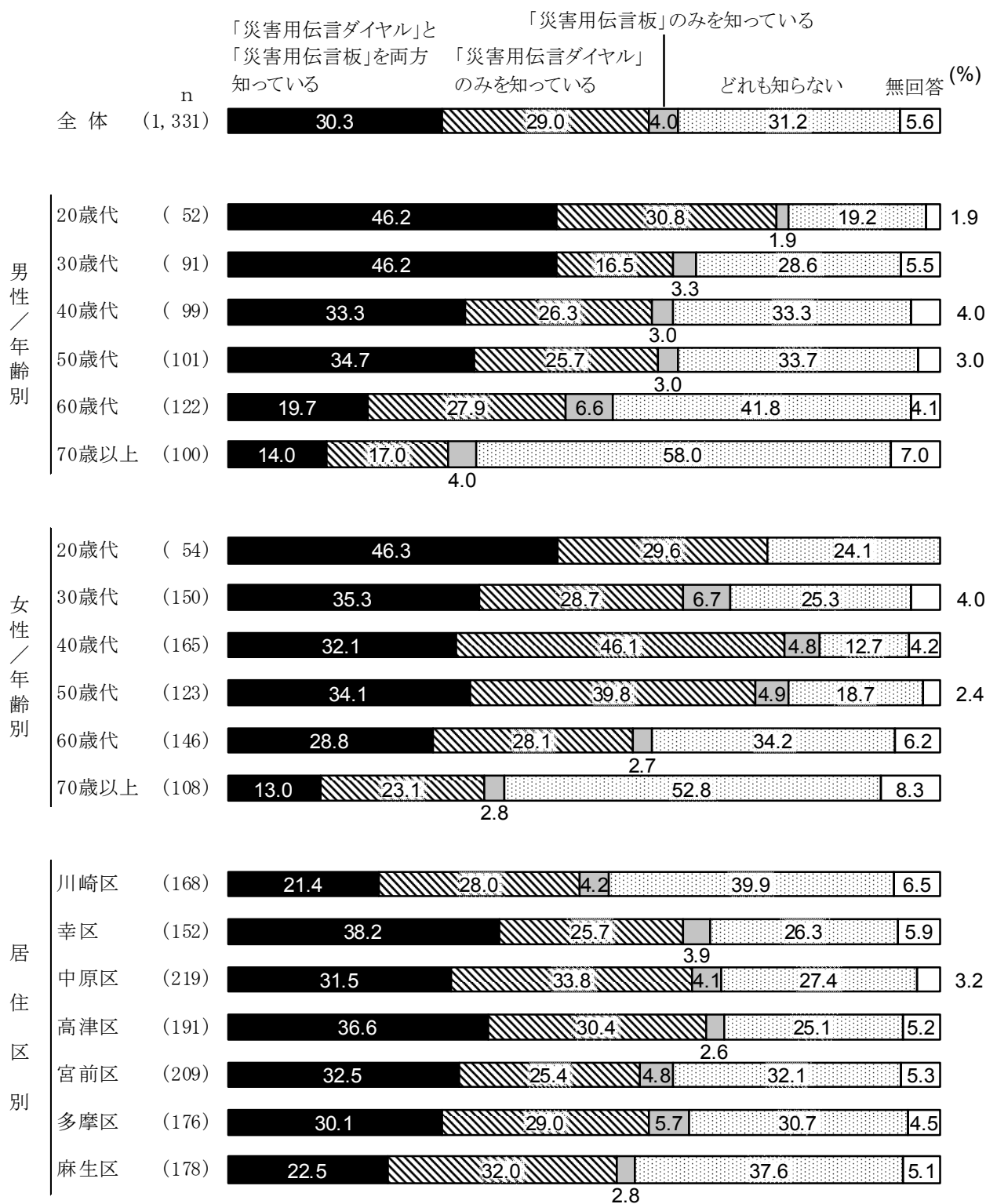
問 25 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」を知っていますか。(○は1つだけ)

図表 4-8 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度



「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度については、『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は30.3%となっている。一方、「どれも知らない」は、31.2%となっている。

図表4-9 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は、年代が下がるにつれて、割合が高くなる傾向になっている。「災害用伝言ダイヤルのみ知っている」は、女性の40歳代（46.1%）、50歳代（39.8%）で高い。一方、「どれも知らない」は、男女とも、70歳以上で割合が高く、5割を超えている。

居住区別では、「両方知っている」が、幸区（38.2%）で最も高い。「どれも知らない」は、川崎区（39.9%）で最も高い。

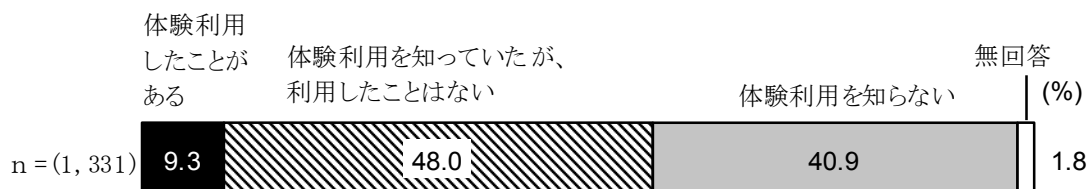
4-5 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用

◎「体験利用を知っていたが、利用したことはない」は48.0%

問 25 で『災害用伝言ダイヤルを知っている』と回答された方にかがいます。

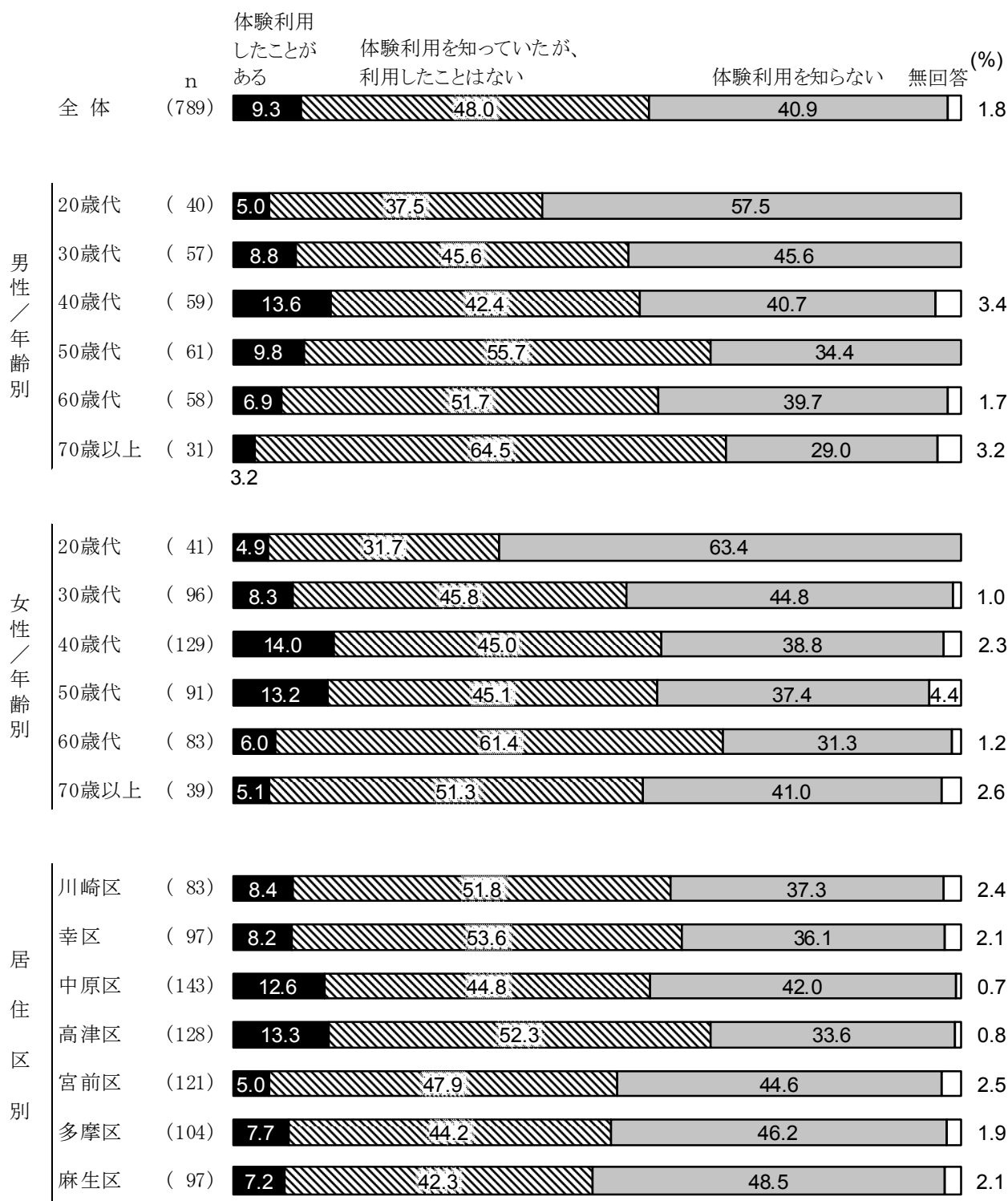
問 25-1 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」の体験利用をしたことがありますか。(○は1つだけ)

図表 4-10 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用



「災害用伝言ダイヤル」の体験利用については、「体験利用を知っていたが、利用したことはない」(48.0%)が最も高く、次いで「体験利用を知らない」(40.9%)が高い。一方、「体験利用したことがある」(9.3%)は1割を下回っている。

図表 4-11 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「体験利用したことがある」は、40歳代の男性（13.6%）、女性（14.0%）で、最も高い。「体験利用を知らない」は、20歳代の男性（57.5%）、女性（63.4%）で最も高い。

居住区別では、「体験利用したことがある」は、高津区（13.3%）、中原区（12.6%）の順で高く、1割を超えている。一方、「体験利用を知らない」は麻生区（48.5%）、多摩区（46.2%）の順で高い。

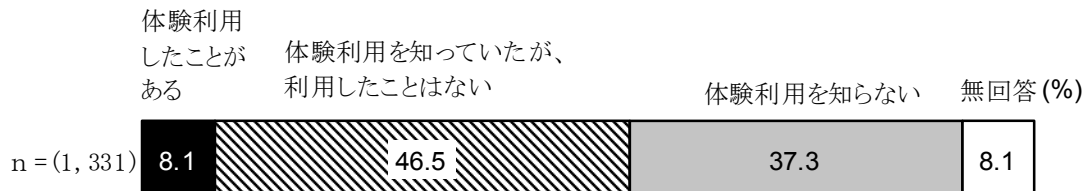
4-6 「災害用伝言板」の体験利用

◎「体験利用を知っていたが、利用したことはない」は46.5%

問 25 で『災害用伝言板を知っている』と回答された方にうかがいます。

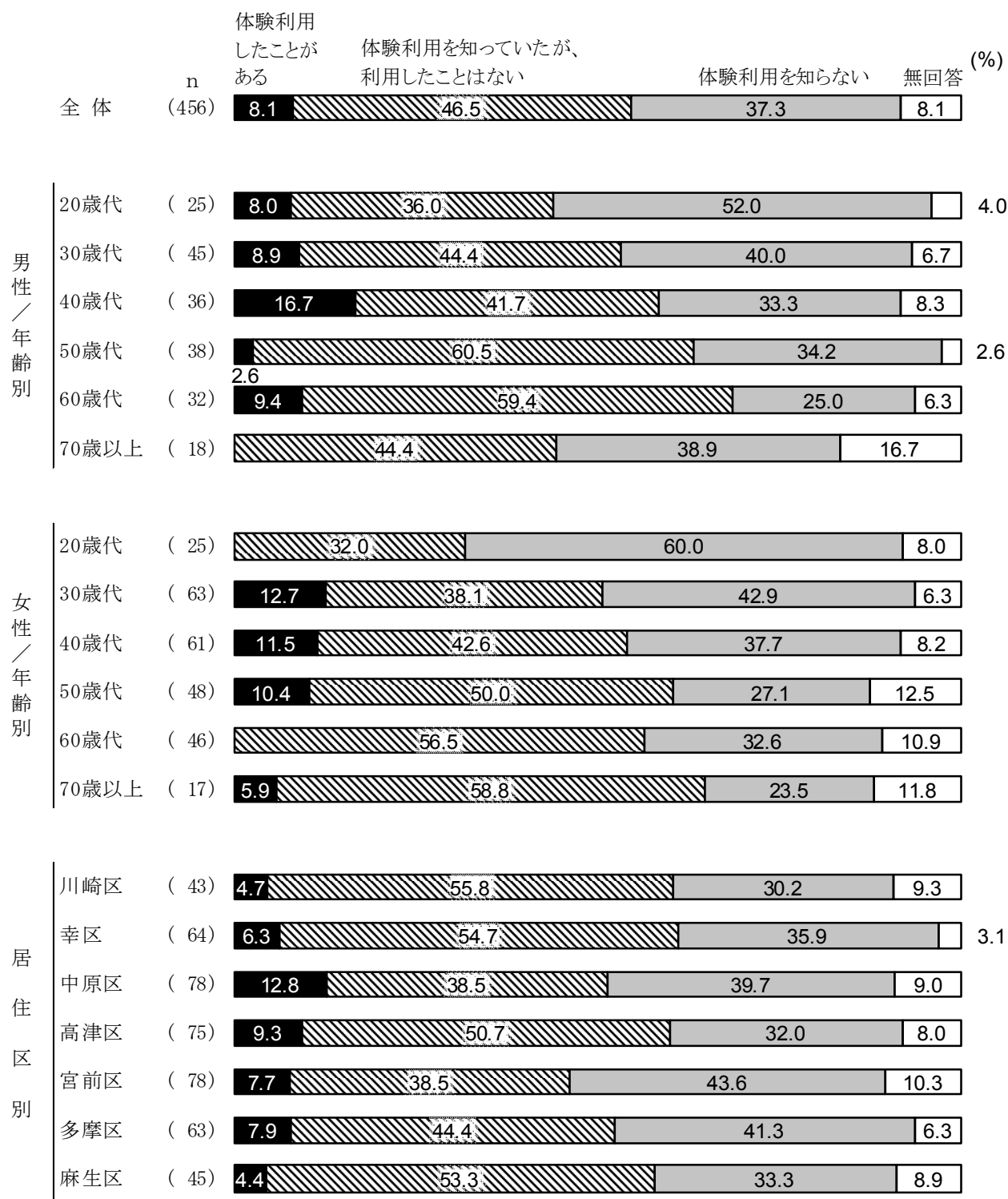
問 25-2 あなたは、「災害用伝言板」の体験利用をしたことがありますか。(○は1つだけ)

図表 4-12 「災害用伝言板」の体験利用



「災害用伝言板」の体験利用については、「体験利用を知っていたが、利用したことはない」(46.5%)が最も高い。次いで、「体験利用を知らない」(37.3%)が高い。一方、「体験利用したことがある」(8.1%)は1割を下回っている。

図表4-13 災害用伝言板の体験利用状況（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「体験利用したことがある」は、男性は40歳代（16.7%）、女性は30歳代（12.7%）で最も高い。「体験利用を知らない」は、20歳代の男性（52.0%）、女性（60.0%）で最も高い。

居住区別では、「体験利用したことがある」は、中原区（12.8%）が最も高い。「体験利用を知っていたが、利用したことはない」は、川崎区（55.8%）、幸区（54.7%）、麻生区（53.3%）の順で高い。「体験利用を知らない」は宮前区（43.6%）、多摩区（41.3%）の順で高い。

IV 調査票

かわさき市民アンケート

平成27年7月

お忙しいところ大変にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- ◆ この調査は無記名調査です。あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ◆ この調査で個人情報が外部に漏れることは一切ありません。

【ご記入に関する注意点とお願い】

- ご本人（封筒の宛名の方）がアンケートにご回答ください。
- 回答は、直接、この調査票にご記入いただき、あてはまる番号を○で囲んでください。
- 「その他」と回答された場合は、（具体的に： ）の中にその内容をご記入ください。
- 回答は、設問ごとに（○は1つだけ）（あてはまるもの全てに○）など指定されていますので、お気を付けください。
- 設問の中にはお答えいただく方が限られる場合もありますので、お気を付けください。
- ご記入いただいた調査票は、折りたたみ、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、8月7日（金）までに郵便ポストへ投函してください。

本調査についてご不明な点がございましたら、調査担当課までお問い合わせください。

【調査担当課】川崎市 総合企画局 自治推進部

電 話 044-200-2168（直通）

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

■ 地球温暖化対策について

地球温暖化は、私たちの生活に大きな影響を及ぼす問題であり、川崎市では地域からの地球温暖化対策に取り組んできました。そこで今後も引き続き、地球温暖化対策を進めていく上での参考とするために、次の間にお答えください。

問1 日常生活の中で、あなたは地球温暖化対策について意識していますか。（○は1つだけ）

- 1 非常に意識している
- 2 ある程度意識している
- 3 あまり意識していない
- 4 意識していない

問2 地球温暖化対策のために、日常生活の中でどのような取組を行えばよいか、あなたが特に重要と思うものを選んでください。（○は1つだけ）

- 1 省エネ製品や太陽光発電などの導入を進める
- 2 みんなで、こまめに省エネに取り組む
- 3 多少生活が不便になってもエネルギーの節約などに取り組む
- 4 地球温暖化対策に寄与する製品・技術を利用する
- 5 わからない

問3 地球温暖化対策のために個人が日常生活で行う取組について、あなたの考えにもっとも近いものを選んでください。（○は1つだけ）

- 1 生活が多少不便になっても積極的に取り組みたい
- 2 生活が不便にならない範囲で取り組みたい
- 3 取り組みたいが難しくてできない
- 4 取り組む必要はない
- 5 わからない

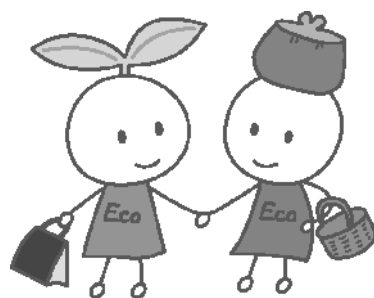
問4 問3で「2 生活が不便にならない範囲で取り組みたい」「3 取り組みたいが難しくてできない」「4 取り組む必要はない」「5 わからない」のいずれかに回答した方にうかがいます。

積極的に取り組めない（取り組まない、わからない）理由は何ですか。（あてはまるもの全てに○）

- 1 生活が不便になると困る
- 2 経済的に難しい
- 3 時間・手間がかかる
- 4 何をすればよいのかわからない
- 5 必要性がわからない
- 6 その他（具体的に： _____)

問5 個人や家庭でできる地球温暖化対策として、あなたは現在どのようなことを行っていますか。また、今後はどのようなことを行いたいと思いますか。（あてはまるもの全てに○）

- | | | |
|----|---|--|
| 1 | 冷暖房の設定温度に気をつける | |
| 2 | こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす | |
| 3 | 水を大切に使う（水・お湯を出しっぱなしにしない、風呂の残り湯を洗濯に利用するなど） | |
| 4 | 詰め替え用の製品など、環境に配慮したものを購入する | |
| 5 | できるだけ徒歩、自転車、公共交通機関を使って移動する | |
| 6 | 家電製品を選ぶ際は、省エネ性能が高い製品を選ぶ | |
| 7 | マイバッグなどを持参し、レジ袋の削減に努める | |
| 8 | 車を運転するとき、アイドリングストップなどエコドライブを心がける | |
| 9 | 環境関連のイベントや展示会など、環境に関する催しに参加する | |
| 10 | 太陽光発電設備の設置など、再生可能エネルギーを活用する | |
| 11 | その他（具体的に： _____） | |
| 12 | 特になし | |



エコちゃんず
 エコな行動を呼び掛けるOCかわさきイメージキャラクターです。
 左が「ろじいちゃん」で、右が「のみいちゃん」です。

問6 地球温暖化による気候変動（猛暑日や局地的大雨などの、極端な気象現象の増加など）についていかがいます。あなたは、次の気候変動による影響について、どのように感じていますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

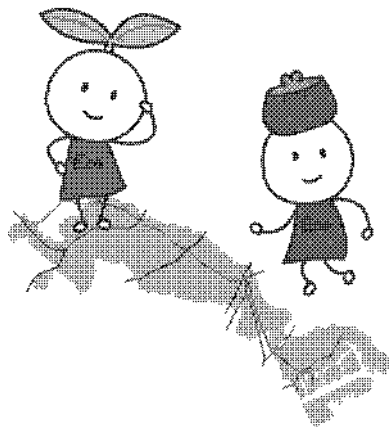
	全く実感が ない	あまり 実感が ない	どちら でもな い	ある程 度実感 がある	とても 実感が ある
1 気温の上昇による熱中症の増加などの影響	1	2	3	4	5
2 猛暑日や熱帯夜の増加による不快感への影響	1	2	3	4	5
3 デング熱をはじめとする感染症の増加などの影響	1	2	3	4	5
4 農作物の収量減少などによる食料生産への影響	1	2	3	4	5
5 いわゆる「ゲリラ豪雨」など局地的な大雨の影響	1	2	3	4	5
6 台風の大型化などによる影響	1	2	3	4	5
7 絶滅危惧種の増加などによる生態系への影響	1	2	3	4	5
8 夏場の渇水などによる水資源への影響	1	2	3	4	5

問7 問6で例示したような極端な気象現象やその影響などについて、どのような媒体で見聞きすることが多いですか。（あてはまるもの3つまでに〇）

- 1 テレビ
- 2 新聞
- 3 インターネット
- 4 書籍・雑誌
- 5 ラジオ
- 6 国の広報誌など
- 7 市の広報誌（市政だより）など
- 8 ソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブックなど）
- 9 メールマガジン
- 10 シンポジウムや講演会
- 11 市民館の講座などの社会教育事業
- 12 その他（具体的に： _____）
- 13 見聞きしたことがない

問8 今後、川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策は何ですか。（あてはまるもの全てに〇）

- 1 学校、地域、事業所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進
- 2 住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進
- 3 公共交通機関・自転車の利用促進や低燃費車の普及
- 4 環境に配慮した技術の研究・開発促進
- 5 市施設の省エネ対策、市の事業からの二酸化炭素（CO₂）排出抑制など市の率先行動
- 6 二酸化炭素（CO₂）排出の少ない製品を製造・販売する事業者情報の発信
- 7 大規模建築物の省エネ性能向上のための仕組みづくり
- 8 二酸化炭素（CO₂）を大量に排出する事業者の排出削減につながる取組
- 9 局地的大雨など、極端な気象現象の影響などを低減するための取組（気候変動適応策）
- 10 極端な気象現象やその影響などに関する情報提供
- 11 その他（具体的に： _____）
- 12 特にない
- 13 わからない



問 12 あなたは、緑化活動を活発にするために何が必要だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 活動の拠点となる施設・場所 | 2 活動するための費用の援助 |
| 3 ボランティアの育成(知識や技術の講習) | 4 ケガをしたときの保険 |
| 5 コンクール、表彰 | 6 団体同士の交流や情報交換の場 |
| 7 その他(具体的に：) | 8 特にない |

問 13 あなたは、市内のどのような緑が保全されることを望みますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 街路樹や並木の緑 | 2 お寺や神社の緑 |
| 3 子どもの遊び場や小公園 | 4 住宅や垣根の緑 |
| 5 森林公園や植物園のような緑 | 6 田や畑、果樹園 |
| 7 大きな公園の緑 | 8 森や林やその斜面の緑 |
| 9 川辺の緑 | 10 その他(具体的に：) |
| 11 特にない | |

問 14 あなたは、市内のどのような地域が緑化されることを望みますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 公共施設の緑 | 2 新しく開発された住宅地の緑 |
| 3 古くからの住宅地の緑 | 4 商業施設の敷地の緑 |
| 5 工場・事業所敷地の緑 | 6 その他(具体的に：) |
| 7 特にない | |

問 15 あなたは、今後、川崎市の緑について、どのような活動なら取り組むことができますか。

(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 自宅の緑化 | 2 地域の緑化活動 |
| 3 街路樹の除草・清掃活動 | 4 公園や緑地の除草・清掃活動 |
| 5 農作業 | 6 里山の維持管理活動 |
| 7 川沿いの緑の除草・清掃活動 | 8 緑に関する講習会・イベントへの参加 |
| 9 公園の計画づくり | 10 緑の活動には興味はない |
| 11 その他(具体的に：) | |

問 16 川崎市の緑に関して、実施してほしい施策、事業等がありましたら、ご自由に記入してください。

--

■ 現在のお住まい周辺の住環境などについて

本市の空き家率は10.4%（空き家数：約78,500戸）と全国の13.5%（約820万戸）よりも低く、賃貸・売却用の一時的な空き家が多くを占めるなど、全国的な空き家を取り巻く状況とは性質が異なります。

そこで、本市に合った空き家の予防に向けた取組を検討していくための資料とするため、次の問にお答えください。

問17 あなたは、現在のお住まい周辺の住環境に満足していますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|-------------|-------------|---------|
| 1 満足 | 2 どちらかという満足 | 3 不満 |
| 4 どちらかという不満 | 5 どちらともいえない | 6 わからない |

問17で「1 満足」または「2 どちらかという満足」と回答された方にうかがいます。

問17-1 あなたは、どのようなところに満足していますか。（あてはまるもの3つまでに○）

- | | |
|-------------------|---|
| 1 駅から歩ける | |
| 2 閑静・落ち着いている | |
| 3 緑が多い | |
| 4 景観・街並みがよい | |
| 5 建物の敷地が広くゆとりを感じる | |
| 6 コミュニティが活発である | |
| 7 街に活気がある | |
| 8 車の通りが少ない | |
| 9 安全である（防犯・防災など） | |
| 10 利便性がよい | |
| 11 その他（具体的に： | ） |

問 17 で「3 不満」または「4 どちらかという不満」と回答された方にうかがいます。

問 17-2 あなたは、どのようなところが不満ですか。（あてはまるもの3つまでに○）

- | |
|---------------------|
| 1 駅から遠い |
| 2 喧騒・騒がしい |
| 3 緑が少ない |
| 4 景観・街並みがよくない |
| 5 建物の敷地が狭くゆとりを感じない |
| 6 コミュニティが停滞している |
| 7 街に活気がない |
| 8 車の通りが多い |
| 9 危険である（防犯・防災など） |
| 10 利便性がよくない |
| 11 その他（具体的に： _____） |

問 18 あなたは、良好な住環境をつくるために重要だと思うことは何だと思えますか。

（あてはまるもの3つまでに○）

- | |
|--------------------------------|
| 1 緑化への協力や住宅以外の建築禁止など、まちのルールづくり |
| 2 防犯対策の強化 |
| 3 自治会などのコミュニティ活動の活性化 |
| 4 近隣とのつながり・コミュニティ |
| 5 幅広い様々な世代の居住 |
| 6 良い街にしようとする意識 |
| 7 所有者などによる建物の維持管理 |
| 8 街並みを意識した建物など |
| 9 その他（具体的に： _____） |

問 19 あなたのお住まいの近隣で、この数年間、空き家が増えたと思えますか。（○は1つだけ）

- | |
|--------------|
| 1 増えた |
| 2 減った |
| 3 以前から変わらずある |
| 4 以前から変わらない |
| 5 わからない |

問 20 あなたは空き家が存在することにより、どのような問題が生じると思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|----------------|---|
| 1 風景・街並みの悪化 | |
| 2 街に活気がなくなる | |
| 3 火災の発生を誘発 | |
| 4 不法投棄などの誘発 | |
| 5 不法侵入などの犯罪の増加 | |
| 6 地震時などの建物の倒壊 | |
| 7 利用されずもったいない | |
| 8 その他(具体的に： |) |
| 9 特にない | |

問 21 あなたは、空き家対策として、どのようなことが必要であると思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|--|---|
| 1 空き家になる前からの定期的な手入れ | |
| 2 空き家の速やかな取り壊し | |
| 3 空き家所有者への相談窓口の開設 | |
| 4 空き家(庭)の管理代行サービス | |
| 5 建物耐震化などの各種支援、助成 | |
| 6 地域での利用(地域交流の場など) | |
| 7 安心して住宅を売却・購入できる制度の構築(住宅の安全性などの評価証明書など) | |
| 8 安心して住宅を貸す・借りることができる制度の構築 | |
| 9 多様な住まい方による賃貸化(シェアハウスなど) | |
| 10 住まいの特性を生かした改修(古さを生かした間取りの変更・リフォームなど) | |
| 11 その他(具体的に： |) |



■ 市民の防災意識について

市民のみなさんの防災意識を調査し、各種防災計画等を見直すための基礎データや、防災に関する普及・啓発事業を実施する際の参考資料とさせていただくために、次の間にお答えください。

問 22 現在、大地震などの大規模な災害に備えるため、あなたの家庭内で行っている取組は何ですか。

(あてはまるもの全てに○)

- 1 3日分以上の食料の用意(備蓄)
- 2 3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)
- 3 避難所や避難経路の確認
- 4 家具の適切な配置や転倒防止対策
- 5 窓ガラスなどの飛散防止対策
- 6 懐中電灯など、停電に対する備え
- 7 感震ブレーカーの設置(地震の揺れを感知して自動的にブレーカーを遮断する機器)
- 8 家族との緊急時における連絡方法の確認
- 9 その他(具体的に:)
- 10 特にない

問 23 あなたが、防災対策について行政に特に力をいれてもらいたいことは何ですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

- 1 災害時の情報提供や広報
- 2 防災訓練や防災教室など防災知識の啓発
- 3 避難方法や避難場所の周知
- 4 自主防災組織等の活動への支援
- 5 避難所の設備や備蓄(水・食料・毛布など)
- 6 高齢者や身体の不自由な方への支援対策
- 7 帰宅困難者への対策
- 8 災害時の医療体制
- 9 公共施設の耐震化
- 10 地下街や高層ビルに対する防災対策の強化
- 11 一般住宅やマンションの耐震診断・耐震補助
- 12 がけ崩れや液状化などへの対策
- 13 洪水、集中豪雨などによる浸水への対策
- 14 津波対策、石油コンビナート対策など臨海部の防災対策
- 15 近隣自治体や企業などとの協力体制の強化
- 16 ボランティアなどの受け入れ態勢の整備
- 17 その他(具体的に:)
- 18 特にない

問 24 本市では、災害に関する情報を様々な手段を用いて提供しています。

(1) あなたは、次の手段で提供していることを知っていますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|----|--|---|
| 1 | 市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話) ※1 | |
| 2 | メールニュースかわさき「防災気象情報」(電子メール配信サービス) ※2 | |
| 3 | 同報系防災行政無線(屋外スピーカー) | |
| 4 | 防災テレホンサービス | |
| 5 | 緊急速報メール(NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」) | |
| 6 | テレビ神奈川のデータ放送 | |
| 7 | ケーブルテレビのデータ放送 | |
| 8 | かわさきエフエム(79.1MHz)による放送 | |
| 9 | 市ホームページの「防災情報ポータルサイト」(パソコン、携帯電話) ※3 | |
| 10 | ツイッター「kawasaki_bousai」(パソコン、携帯電話) | |
| 11 | 広報車 | |
| 12 | その他(具体的に: |) |
| 13 | どれも知らない | |

(2) あなたは、どの手段で情報を入手したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | | |
|----|--|---|
| 1 | 市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話) ※1 | |
| 2 | メールニュースかわさき「防災気象情報」(電子メール配信サービス) ※2 | |
| 3 | 同報系防災行政無線(屋外スピーカー) | |
| 4 | 防災テレホンサービス | |
| 5 | 緊急速報メール(NTT ドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」) | |
| 6 | テレビ神奈川のデータ放送 | |
| 7 | ケーブルテレビのデータ放送 | |
| 8 | かわさきエフエム(79.1MHz)による放送 | |
| 9 | 市ホームページの「防災情報ポータルサイト」(パソコン、携帯電話) ※3 | |
| 10 | ツイッター「kawasaki_bousai」(パソコン、携帯電話) | |
| 11 | 広報車 | |
| 12 | その他(具体的に: |) |
| 13 | どれも利用したことがない | |

※1 : 市HP「川崎市防災気象情報」 URL <http://kishou.kikikanri.city.kawasaki.jp/>
天気予報、気象情報、震度情報、雨量・河川水位などを掲載しています。

※2 : メールニュースかわさき「防災気象情報」
URL <http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/50-8-0-0-0-0-0-0.html>
災害に関する緊急情報、震度情報、気象情報、大気汚染情報などをメールで配信しています。

※3 : 市HP「防災情報ポータルサイト」 URL <http://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/index.shtml>
災害に関する緊急情報、避難情報、啓発情報、気象情報などを掲載しています。

地震などの大きな災害が発生すると、被災地への電話が大量に殺到し、回線が大変混雑し、つながりにくくなります。

このため、各通信事業者では、災害時に家族や知人との間での安否確認や避難場所の連絡などをスムーズに行うため、次のようなサービスを提供しています。

●災害用伝言ダイヤル（電話番号 171）

被災地の方が、自宅の電話番号宛に安否情報（伝言）を音声で録音（登録）し、全国からその音声を再生（確認）することができます。

●災害用伝言板（インターネット）

携帯電話・PHSのインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話・PHS番号をもとにして全国から伝言を確認できます。

※「災害用伝言ダイヤル（電話番号 171）」や「災害用伝言板（インターネット）」は、災害発生に備えて利用方法を知っていただくために、毎月1日と15日や防災週間などに、体験利用できるようになっています。

問 25 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」を知っていますか。（○は1つだけ）

- 1 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」を両方知っている → 問25-1、問25-2へ
- 2 「災害用伝言ダイヤル」のみを知っている → 問25-1へ
- 3 「災害用伝言板」のみを知っている → 問25-2へ
- 4 どれも知らない

問 25 で、『災害用伝言ダイヤルを知っている』と回答された方にうかがいます。

問 25-1 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」の体験利用をしたことがありますか。（○は1つだけ）

- 1 体験利用したことがある
- 2 体験利用を知っていたが、利用したことはない
- 3 体験利用を知らない

問 25 で、『災害用伝言板を知っている』と回答された方にうかがいます。

問 25-2 あなたは、「災害用伝言板」の体験利用をしたことがありますか。（○は1つだけ）

- 1 体験利用したことがある
- 2 体験利用を知っていたが、利用したことはない
- 3 体験利用を知らない

■ あなたご自身について

F 1 性別（○は1つだけ）

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢（○は1つだけ）

1 20～24歳	2 25～29歳	3 30～34歳	4 35～39歳
5 40～44歳	6 45～49歳	7 50～54歳	8 55～59歳
9 60～64歳	10 65～69歳	11 70～74歳	12 75歳以上

F 3 あなたのお仕事は、この中のどれですか。（○は1つだけ）

1 自営業主	2 家族従業（家業手伝い）	
3 勤め（全日）	4 勤め（パートタイム）	
5 内職	6 主婦・主夫（家事専業）	7 学生
8 無職（収入が年金のみの方を含む）	9 その他	

F 4 へ

F 3で、「1 自営業主」「2 家族従業（家業手伝い）」「3 勤め（全日）」「4 勤め（パートタイム）」のいずれかに回答された方にうかがいます。

F 3-1 お仕事の内容を具体的にお聞かせください。（○は1つだけ）

1 自営業主、2 家族従業の方 （1～3の中からお選びください。）	勤め（3 全日、4 パートタイム）の方 （4～8の中からお選びください。）	
1 農林漁業	4 経営・管理職	5 専門・技術職
2 商工サービス業	6 事務職	7 技能・労務職
3 自由業	8 販売・サービス職	

(全員の方に)

F 4 お勤め先あるいは通学先はどちらですか。(○は1つだけ)

1 川崎市内(お住まいと同じ区)	2 川崎市内(お住まいと別の区)
3 横浜市	4 神奈川県内(川崎市・横浜市以外)
5 東京都(23区内)	6 東京都(23区以外)
7 その他	8 通勤・通学していない

F 5 あなたは、ふだん最寄り駅まで主にどのような交通手段をご利用になりますか。(○は1つだけ)

1 徒歩	2 自転車	3 原付
4 バイク(原付を含まない)	5 バス	6 自動車(送迎含む)

F 6 F 5で選択した交通手段を利用した場合、最寄り駅までの所要時間はおよそ何分ですか。

(○は1つだけ)

1 10分未満	2 10分以上20分未満	3 20分以上30分未満
4 30分以上40分未満	5 40分以上50分未満	6 50分以上1時間未満
7 1時間以上		

F 7 あなたがお持ちの運転免許は、次のうちどれですか。(あてはまるもの全てに○)

1 自動車	2 自動二輪	3 原付のみ	4 運転免許を持っていない
-------	--------	--------	---------------

F 8 あなたの世帯でお持ちの交通用具は、次のうちどれですか。(あてはまるもの全てに○)

1 自転車	2 原付	3 バイク(原付を含まない)
4 自動車	5 その他(具体的に:)	6 いずれもっていない

F 9 あなたの現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1 持ち家(一戸建)	2 持ち家(マンション・集合住宅等)
3 借家(一戸建)	4 借家(マンション・集合住宅等、公営住宅)
5 借家(民間アパート、間借、下宿)	6 社宅・寮・公務員住宅
7 その他	

F10 現在、同居しているご家族は、あなたを含めて何人いらっしゃいますか。(○は1つだけ)

1 1人	2 2人	3 3人	4 4人
5 5人	6 6人	7 7人以上	

F11 ご家族に中学生以下のお子さんはいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

1 いる	2 いない
------	-------

F12 65歳以上の方は同居していらっしゃいますか。(○は1つだけ)

(ご自分が65歳以上の方は1に○をつけてください。)

1 いる	2 いない
------	-------

F13 あなたが現在お住まいの区はどちらですか。(○は1つだけ)

1 川崎区	2 幸区	3 中原区	4 高津区
5 宮前区	6 多摩区	7 麻生区	

F14 あなたのお住まいの地域の様子は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1 オフィスビル、商業ビル、商店などがある地域
2 古からの住宅が中心となっている地域
3 新しく開発された住宅地域
4 住宅と工場が混在している地域
5 まわりに田畑や山林などの緑が残されている地域
6 その他(具体的に：)

F15 町内会に加入していますか。(○は1つだけ)

1 加入している	2 加入していない
----------	-----------

最後に、川崎市の市政について、ご意見やご要望などがございましたら、どんなことでもご自由に記入してください。



以上でアンケートは終了です。
ご協力大変ありがとうございました。